関西学院
1889−2014

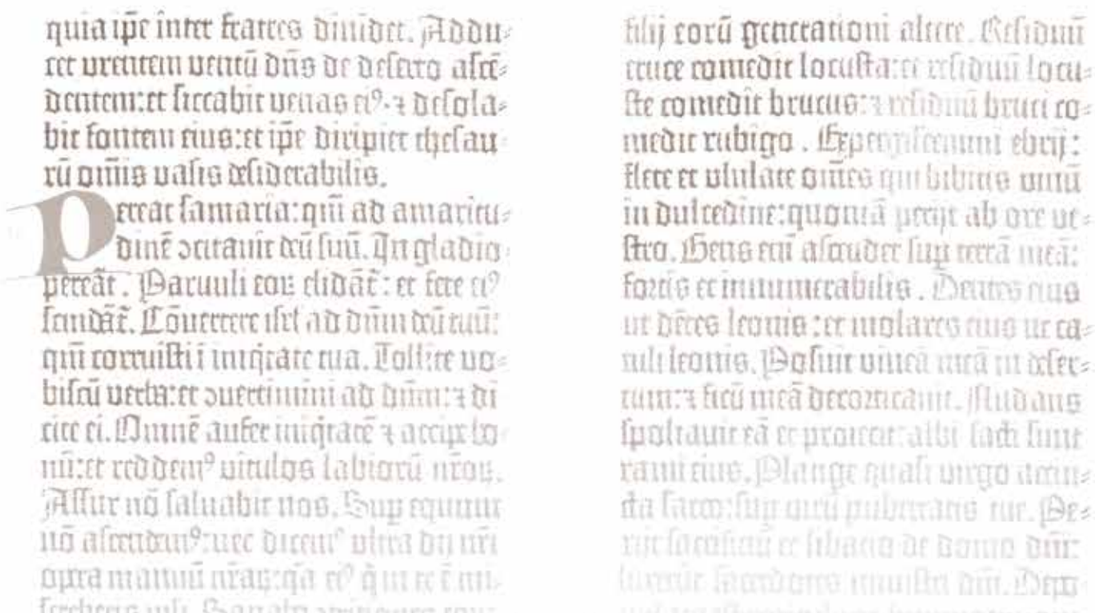
関西学院創立125周年記念 大学図書館特別展示会

印刷技術と聖書

～「読む」キリスト教への変容～

司教補佐はしばらく黙ってその巨大な建物をながめていたが、やがて溜息を一つつくと、右手を、テーブルにひろげてあった印刷書のほうへ伸ばし、左手を、ノートル=ダム大聖堂のほうへ差し出して、悲しげな目を書物から建物へ移しながら言った。「ああ！これがあれを滅ぼすだろう」

ヴィクトル・ユゴー『ノートル=ダム・ド・パリ』（辻昶、松下和則訳）



関西学院創立125周年記念 大学図書館特別展示会

印刷技術と聖書

～「読む」キリスト教への変容～

関西学院創立125周年記念 大学図書館特別展示会

印刷技術と聖書

～「読む」キリスト教への変容～

同時開催：H.S.フォックスウェル文書と日本

2014年10月8日（水）－14日（火）
丸善・丸の内本店4Fギャラリー（丸の内oazo内）

主催：関西学院大学図書館
協力：慶應義塾図書館
協賛：丸善株式会社 / 大日本印刷株式会社

〈 ギャラリートーク 〉

10月12日（日）午後2時～3時
- 聖書挿絵を「読む」

関西学院大学 神学部教授　水野 隆一

10月13日（月・祝）午後2時～3時
- H.S.フォックスウェル文書と日本

関西学院大学 経済学部教授　井上 琢智

表紙は、資料No.56『多言語聖書（*Biblia Sacra Polyglotta*）』をモチーフにしている。

ごあいさつ

関西学院が創立され今年で125年を迎えたことを記念し、昨年度より様々な関連行事が開催されています。今回、関西学院大学図書館の特別展示会として『印刷技術と聖書～「読む」キリスト教への変容～』を、丸善・丸の内本店ギャラリーで開催させていただけることを大変喜んでおります。

関西学院大学図書館は、1889年に神戸の東郊原田の森にその前身である関西学院書籍館が設立され、1929年に現在の西宮上ケ原キャンパスの時計台内に大学図書館として開館しました。その後、1997年に時計台の後ろに現在の大学図書館が建設され、今日に至っています。

この間、大学図書館では、本学の建学の理念であるキリスト教主義教育に基づく教育・研究に資するための貴重書・資料を蓄積してきました。なかでも、キリスト教関係の文書、とりわけ聖書を収集、保管、研究し、その成果を社会に公開することは、本学にとって重要な業であり、また社会的な責務と考えています。

今回の展示では、その中からルネサンスの三大発明の一つであるグーテンベルクの活版印刷術によって最初に印刷された聖書の一部を展示するほか、各時代の象徴的な聖書、関連資料を慶應義塾図書館のご協力を得て展示させていただきます。こうした聖書が、近代技術の成果として生み出され、それによって人々のキリスト教観に変化を及ぼし、プロテスタンティズムと文字文化が世界や日本に拡大する契機となったことは、人類史の大きな変化であったことを実感していただけるでしょう。

また、同時開催として「H.S.フォックスウェル文書」を国内で初めて展示いたします。この文書は近代経済学を生み出した錚々たる経済学者たちが、イギリスの経済学者フォックスウェルと交わした書簡類を中心とした私文書コレクションです。今回は大学図書館が所蔵しているもののうち、特に幕末から明治期初期の日本および日本人と関係の深いものを中心に展示します。これもまた世界市民の育成をめざす関西学院にとって、国際的な意義のあることと思います。

この展示会に際しましてご協力をいただいた田村俊作慶應義塾図書館長および慶應義塾図書館の皆様、聖書、キリスト教学の資料など展示内容についてご指導いただいた本学神学部の水野隆一教授、H.S.フォックスウェル文書についてご指導いただいた経済学部の井上琢智教授（前学長）に深く感謝申し上げます。

最後になりますが、展示会開催全般にわたりご協力をいただいた丸善株式会社様並びに大日本印刷株式会社様に心からお礼申し上げます。

2014年10月

関西学院大学図書館長
奥野 卓司

ごあいさつ

関西学院創立125周年にあたり、慶應義塾図書館を代表して心よりお慶びを申し上げます。また、これを記念して開催される同大学図書館特別展示会に義塾図書館より貴重書を出品する機会をいただき誠に光栄に存じます。このような機会を設けていただいた関西学院大学の皆様、関西学院大学図書館の皆様、そして本展示会に関係された皆様にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

慶應義塾大学では、ヨハン・グーテンベルクによる西洋最初の印刷書である42行聖書を起点とする西洋初期刊本（インキュナブラ）や写本の書誌学研究が文学部を中心に活発に行われています。この研究のための書物は長年に渡り貴重書として義塾図書館に収蔵され特徴あるコレクションを形成してまいりました。このコレクションには聖書をはじめとして、キリスト教文化の象徴とも言える宗教書が数多く含まれています。本展示会では義塾図書館のコレクションの中から、企画・監修にあたられた関西学院大学神学部教授 水野隆一先生によって厳選された書物を出品させていただきました。

一般に書誌学研究では、個別の書物の研究が学術的に重要である一方、特定の研究テーマのもとに構成された書物群が比較研究などの方法論によって個々の書物のみではできない学術的に重要な価値を生み出します。これは時として単一の図書館に収蔵された書物群だけでは成しえないことであり、多くの研究者が世界中の図書館を巡って書物の研究に取り組む所以でもあります。情報通信技術の発達した現代においては、地理的な制約を受けない高精細画像データを活用した国際的な研究プロジェクトも活発に行われていますが、やはり実物には何者にも代えがたいものがあります。実物に出会う機会として、展示会は現代においてますます重要性を増していると言えましょう。

本展示会において『印刷技術と聖書 〜「読む」キリスト教への変容〜』というテーマのもとに、関西学院大学図書館の貴重な書物群と義塾図書館の書物が一堂に会することは、学術的にも、そして本展示会を鑑賞される多くの方々にとっても貴重な機会となることでしょう。最後まで存分に書物の競演をお楽しみください。

2014年10月

慶應義塾図書館長
慶應義塾大学文学部教授
田村 俊作

印刷技術と聖書
～「読む」キリスト教への変容～

関西学院大学 神学部教授
水野 隆一

司教補佐はしばらく黙ってその巨大な建物をながめていたが、やがて溜息を一つつくと、右手を、テーブルにひろげてあった印刷書のほうへ伸ばし、左手を、ノートル=ダム大聖堂のほうへ差し出して、悲しげな目を書物から建物へ移しながら言った。「ああ！これがあれを滅ぼすだろう」

〈ヴィクトル・ユゴー『ノートル=ダム・ド・パリ』（辻昶、松下和則訳）〉

展示にあたって

活版印刷という最新技術を使って最初に出版されたのは聖書でした。それは聖書がヨーロッパ文化において最も重要な、社会の基礎となる書物であったからですが、その後のキリスト教に与えたインパクトを考えると、聖書の出版は象徴的な出来事であったとも言えます。

写本で作成されていた時代には稀少で高価であった聖書や信仰に関する書物が、徐々に、より多くの人が手にすることのできるものとなり、キリスト教を「理解」するために本を「読む」ようになりました。キリスト教徒もそうでない者も、書物を重要視して利用しました。それによって、キリスト教は、今日イメージされるような書物や知識を重視する宗教へと変容させられ、同時に、キリスト教信仰の内面化、個人化も進められました。聖書の印刷は、このようなキリスト教の「変容」の端緒となったのです。

グーテンベルク『42行聖書』からおよそ1世紀後、16世紀プロテスタント宗教改革の時代、プロテスタント側の主張も、カトリック側の主張も、印刷され、パンフレットの形で流布することになりました。

ルターは民衆の理解できるドイツ語に聖書を翻訳しましたが、これに影響を受けて、各国語でも聖書が翻訳されるようになりました。特に、英語聖書の歴史は長いのですが、それまでに出版された聖書の翻訳を参照して作成された1611年出版の『欽定訳聖書』は広く受け入れられ、シェイクスピアの作品と共に近代英語の文体形成に寄与するなど、影響も大きく、その後400年以上にわたって親しまれ続けました。

18世紀になると印刷物はキリスト教においてさらに重要になり、単に主張の拡大のためだけでなく、信仰理解を深めるためにも用いられるようになりました。特

に、ジョンとチャールズのウェスレー兄弟によって始められたメソジスト運動では、ウェスレーの神学的主張や説教が「トラクト」と呼ばれるパンフレットによって広められるとともに、信徒が読むべき書物が選定され、推薦されました。ウェスレーが推薦した書物は *A Christian Library* という叢書として出版されました。こうして、キリスト教は、「読む」宗教、また、書物によってその主張を伝える宗教となったのでした。

このような発展の必然の結果として、19世紀にプロテスタントが日本に宣教した折は、聖書の日本語訳をもってキリスト教を広めようとしました。一方、すでに独自の出版文化を持ち、発展させてきた日本では、キリスト教に反対し、反駁しようとする書物も出版されることになったのでした。

印刷という手段が生まれたことで、聖書本文の伝達についての研究（本文批評）が進められることになりました。エラスムスは、新約聖書の写本を校訂して、オリジナルと考えられる本文を再構成し、1516年に出版しました。これは、ルターによる聖書の翻訳や『欽定訳聖書』の底本となりました。聖書の学問的研究はその後さらに発展し、現在では、校訂本を底本として聖書の翻訳が作られています。関西学院は、伝統的に聖書の研究が強いと評価されており、聖書学、聖書本文批評学や聖書解釈学などにおいて多くの研究者を輩出してきました。

一方、印刷によって聖書を個人でも所有できるようになったことで、美しい印刷、装丁のものが作られ、家族用、また蔵書家用として愛蔵されるようになりました。聖書は、家庭で、家族がそろって読むものとして推奨され、家庭生活の中心に置かれることになったのです。

冒頭の引用で、司教補佐クロード・フロロは、1474年にアントン・コーベルガーが出版した、ペトルス・ロンバルドゥス『聖パウロ書簡集注釈』を指さしながら、「書物が建築物を滅ぼすだろう」と嘆息しました。ユゴーによれば、その意味は、「知性が教義の足もとを掘りくずし」て、信仰が教会のコントロールから自由になることを予見しているということでした。そして、新しい思想が紙の書物に記されていくことを、フロロは予感していたというのです。

フロロの言ったような「印刷物が教会を滅ぼす」ということはなかったかもしれません。しかし、印刷技術の出現とその利用によって、確かに、キリスト教はそれまでのあり方から変容することを余儀なくされたのです。この展示では、印刷技術がキリスト教に与えたインパクトを、さまざまな面から概観します。

図版解説凡例

1. 洋書の日本語タイトルは、文献等を参考に付与した。
2. タイトルに続けて簡易な書誌事項を掲載した。
   書誌事項は、タイトル、出版地、出版者（又は印刷者）、出版年を掲載し、
   不明なものについては、省略した。
3. No.2・No.4・No.5・No.19・No.68・No.69の資料は慶應義塾図書館所蔵である。

I

『42行聖書』とインキュナブラ

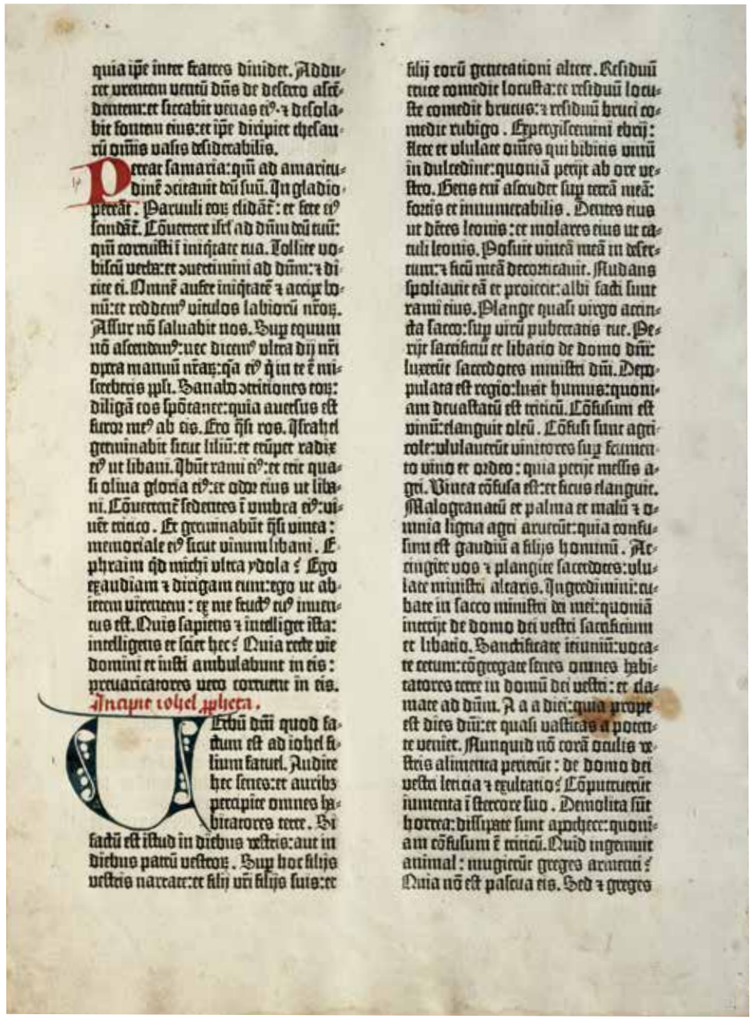
活版印刷が発明されるまで、書物はすべて、写字生によって書き写されていました。それも、紙にではなく、動物、主に羊の皮をなめして作るヴェラム（羊皮紙）に記されていました。写本の作成の中心となっていたのは修道院で、聖書や時祷書などが書き写され、章頭の文字は細密画（ミニアチュール）で飾られ、欄外には、植物をモチーフにした飾りなどが書き込まれました。

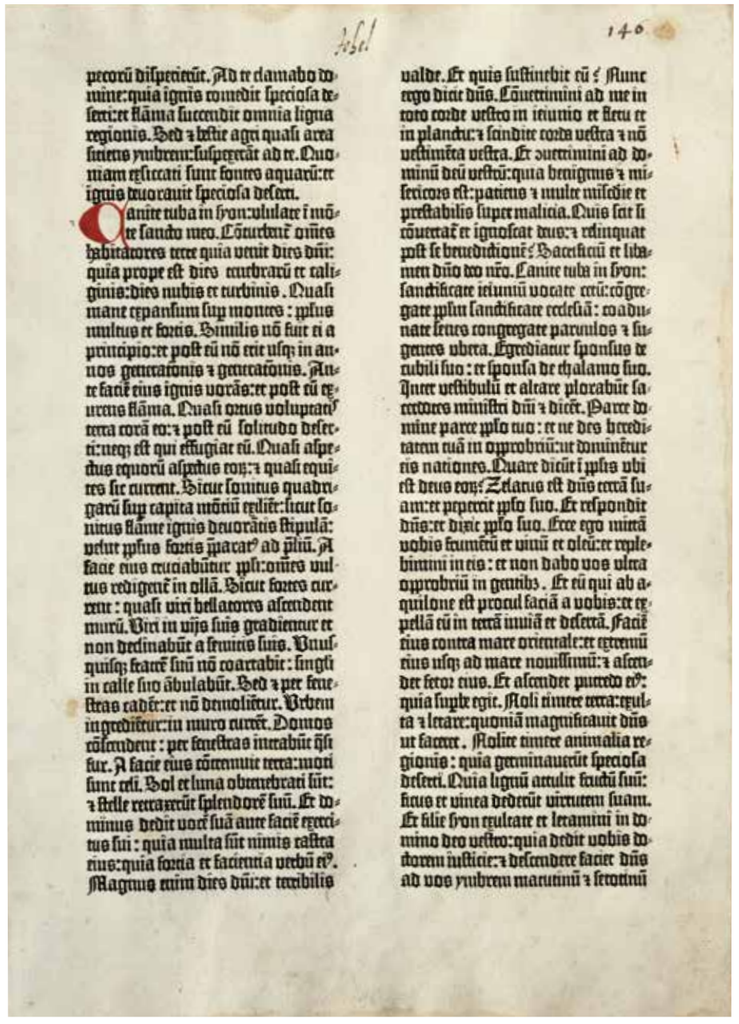
活版印刷という新技術によって最初に印刷されたのは、聖書でした。そのことは、聖書がヨーロッパ社会において持っていた大きな役割を思わせます。それとともに、分量が多く、従って、多くの活字を必要とする聖書は、印刷という新技術の能力を証明できる、やりがいのある文書でもあったのです。文字や版組はそれ以前の手写本を模し、章頭の文字や余白に彩色挿絵が施されるなど、写本の再現が期されていたことが分かります。印刷技術の進展によって、挿絵を入れたり、欄外に注釈や解説を書き込んだりすることが可能になりました。こうして、聖書とその解釈が、より多くの人によって読まれる時代が切り拓かれたのです。

1 グーテンベルク印行「42行聖書」(原葉2枚)

Biblia Latina, 42 lines (Gutenberg Bible)

Mainz・Johann Gutenberg and Peter Schöffer・1455?





ドイツ・マインツの金細工師ヨハン・グーテンベルク(Johannes Gutenberg, ca.1397-1468)が発明した活版印刷術は、書物の大量生産を可能にし、ルネサンス期のヨーロッパ世界に情報革命をひき起こしました。『42行聖書』ははじめて印刷された聖書(本文は『ウルガタ』、No. 72参照)で、1455年頃に180部作成されたと言われています(そのうち、現存するものは48部(完本並びに不完全本を含む)。この数に原葉は含まれない)。ほとんどのページが42行で組まれていることから『42行聖書』と呼ばれています。

紙の大きさや、さらには本文の印刷後に、職人が手書きでイニシャル・朱書き、彩飾を施していることなどに、それまでの写本をモデルにして作成にあたったことがうかがえます。

写真の『42行聖書』は上下2巻出版されたうちの下巻の第145葉と第146葉にあたります。本原葉は2枚続きの4ページからなり、旧約聖書の12預言書中のホセア書11章9節から最後(14章10節)までとヨエル書の全文(1-3章。新共同訳では1-4章)が含まれています。この2葉は、1828年にドイツ西部のトリアー近郊にあるオレビックの農家で、第1巻は63葉、第2巻は261葉のみといった不完全な状態で偶然に発見されたものの一部です。

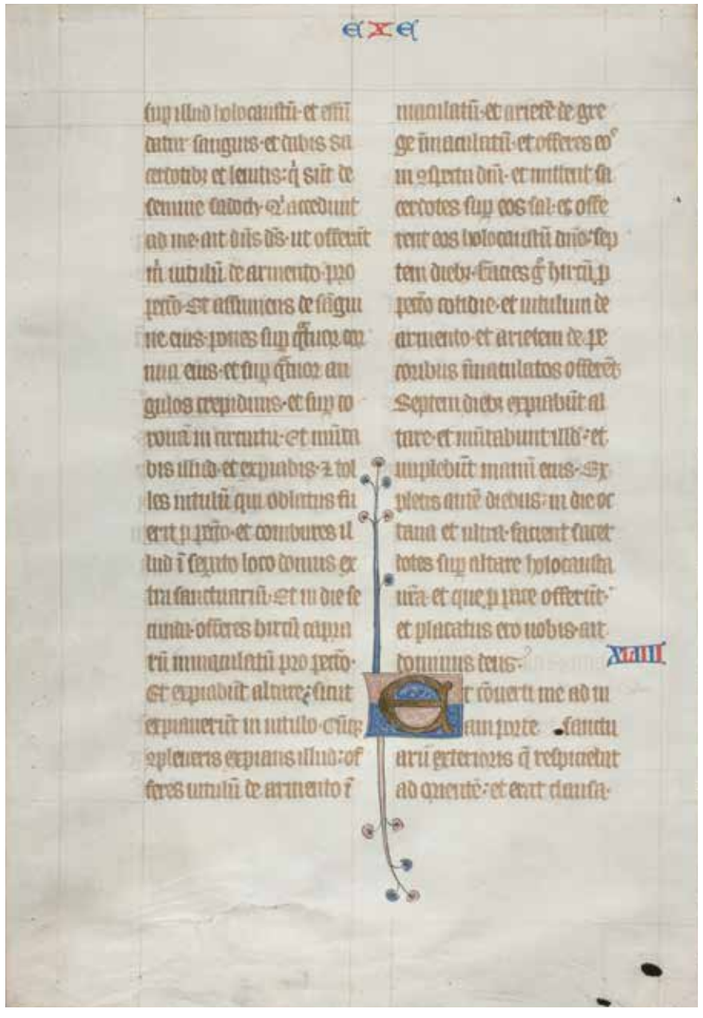
2

慶應義塾図書館所蔵

旧約聖書 エゼキエル書（写本零葉）

Bible. O.T. Ezechiel

East Anglia, England・1345?



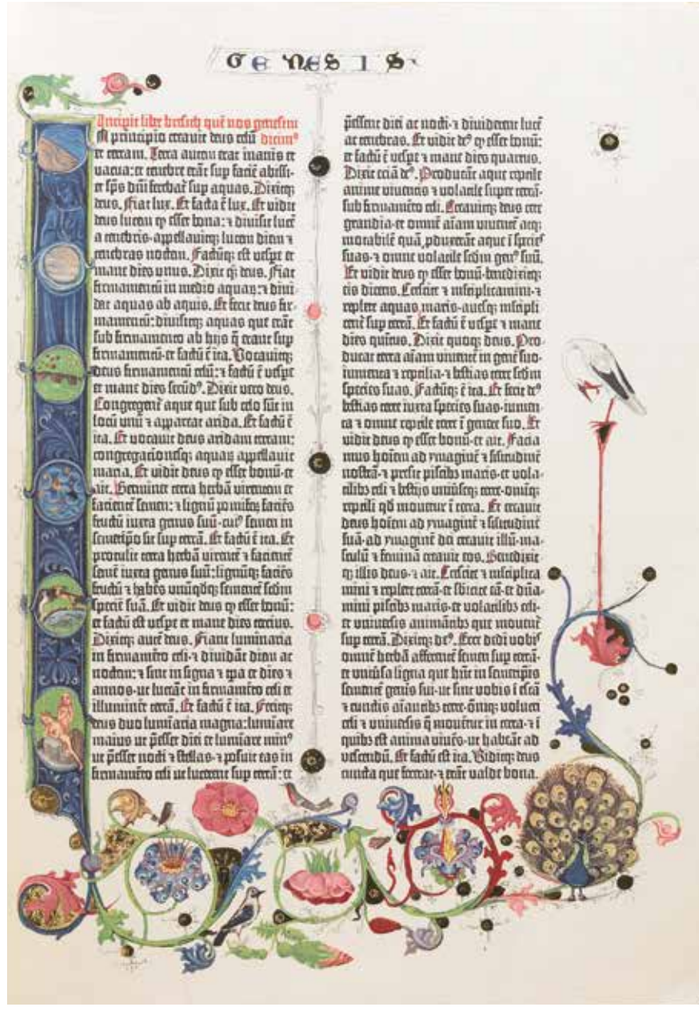
旧約聖書のエゼキエル書の断片です。本断片は、オックスフォード大学ボドリアン図書館に所蔵されている断片写本（Bibl. Lat. B. 4）に属していたものの一部と考えられています。上質のヴェラム（羊皮紙）にゆったりと丁寧に書かれ、章のはじめのイニシャルEには見事な装飾が施されています。フォリオ番号の「329」は、18-19世紀の筆跡で記されているため、この巻が現在のようなかたちで分散したのは近年のことであると確認できます。『42行聖書』と並べると、グーテンベルクが手写本を模して印刷の版組を考え出したことが明らかになります。

3

グーテンベルク印行「42行聖書」（ファクシミリ版）

Biblia Latina, 42 lines (Gutenberg Bible)

München・Idion Verlag・1977-1978



現存する『42行聖書』の中で最も美しい聖書の一つとして名高い、ベルリン国立プロイセン財団図書館所蔵本（上下巻）とフルダ州立図書館所蔵本（上巻のみ）のファクシミリ版です。通称「ベルリン／フルダ版」として知られています。ベルリン国立プロイセン財団図書館所蔵本の豪華な装飾はライプツィヒで施されたもので、16世紀の革の装丁を残しています。元々は選挙侯（神聖ローマ帝国において、皇帝の選挙権を有した諸侯）一族が所有していたものと考えられていますが、1752年以前の来歴は不明です。

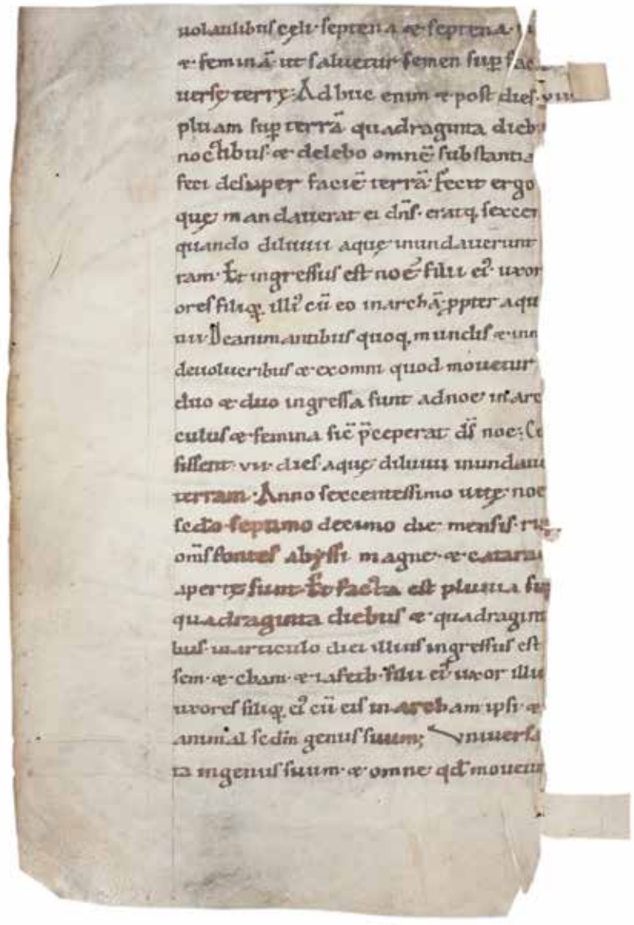
4

慶應義塾図書館所蔵

旧約聖書 創世記（写本零葉）

Bible. O.T. Genesis

9--



ヴェラム（羊皮紙）に書かれた旧約聖書の創世記の断片です。創世記は旧約聖書における最初の書です。本断片は、10世紀後半に低地地方（フランドル、ネーデルラント）にて制作されたものと考えられています。フランドル地方は中世以降商業が発展し、西ヨーロッパにおける先進地域のひとつでした。フランク王国のカール大帝の時代に流行したカロリング体を用い、黒インクで書写されています。

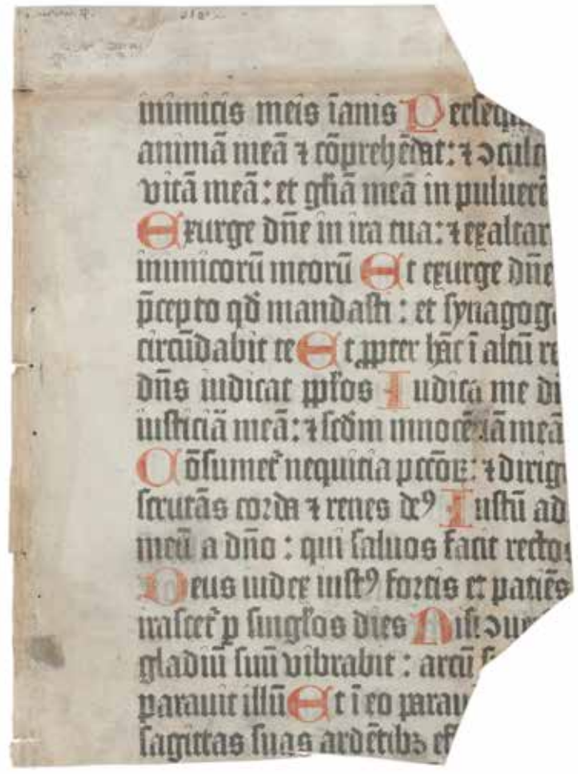
5

慶應義塾図書館所蔵

フスト＝シェッファー印行「聖詩編」（「マインツ聖詩編」断簡）

Psalterium cum canticis et hymnis

Mainz・Johann Fust & Peter Schöffer・1457

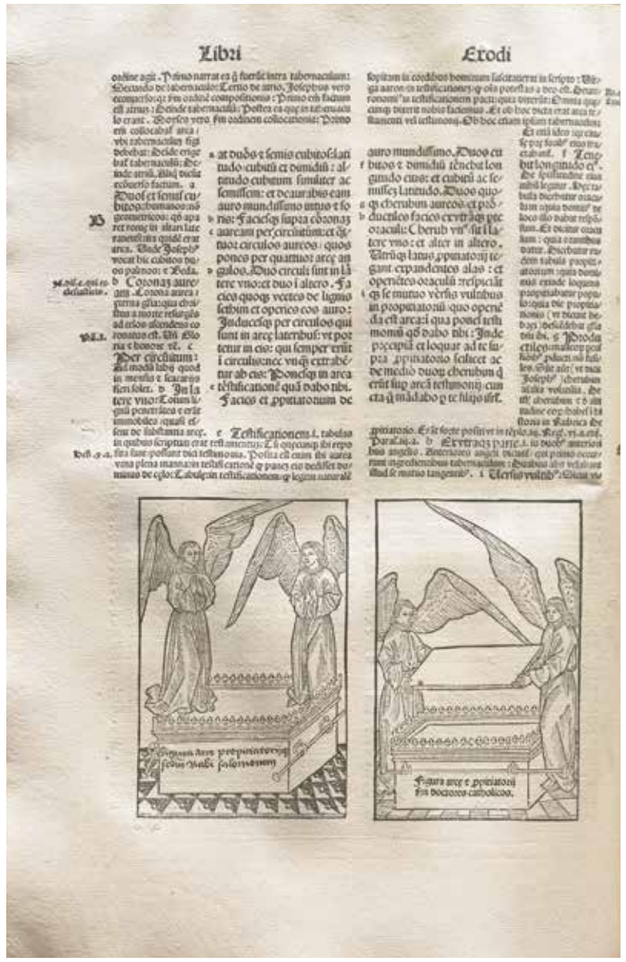


本書は、グーテンベルクの資金援助者であった金融業者のヨハン・フスト（Johann Fust, ca.1400-1466）が、グーテンベルクとの業務提携を解消した後に、自らの娘婿でグーテンベルクの下に弟子入りしていたペーター・シェッファー（Peter Schöffer, ca.1425-ca.1503）とともにグーテンベルクの印刷所を引き継いで製作した『詩編』です。そのため、印刷に用いた印刷機およびその他の機材は、『42行聖書』を印刷したものと同じと考えられます。特に本書で用いられている新しい活字体は、数あるインキュナブラのうちでも白眉と言われており、おそらくはグーテンベルクの手によるものと思われます。本書は、「コロフォン（奥付）」と呼ばれる、日付（1457年8月14日）、印刷者（フストおよびシェッファー）が入った最初の印刷物ですが、そこにグーテンベルクの名前はありません。

6 コーベルガー印行ラテン語聖書（サン=シェールのユーグによる注解付き）

Biblia cum postillis Hugonis de Sancto Charo

Basel・Johann Amerbach, for Anton Koberger・1498



グーテンベルクによる活版印刷の発明は時を置かずしてヨーロッパ中に広がり、15世紀末には各都市に有力な印刷業者が誕生しました。アントン・コーベルガー（Anton Koberger, ca.1445-1513）もそのひとりで、ニュルンベルクで活躍しました。本書を出版したコーベルガーの印刷所は、最大100人の植字工と印刷工が24台の印刷機を使って200点以上の書物を印刷・出版したと言われ、同時代で最大の印刷業者とも称されています。コーベルガーの出版物としては、同郷の人文学者ハルトマン・シェーデル（Hartmann Schedel, 1440-1514）の『ニュルンベルク年代記（*Liber chronicarum*）』がよく知られています。本書は1498年にバーゼルで出版された、聖書への注解です。聖書本文を取り囲んで、サン=シェールのユーグ（Hugues de Saint-Cher, ca.1200-1263）による注解が印刷されています。ドミニコ会士で1244年には枢機卿になったユーグは、本書の他にも、聖書の異読を集めた書物（*Correctio Bibliae*）や聖書の語句索引（*Concordantiae Sacrorum Bibliorum*）を著しています。

II

16世紀プロテスタント宗教改革

印刷技術によって、人々が自らの考えを世に広く知らせることが可能になりました。それを積極的に用いたのが、16世紀に起こったプロテスタント宗教改革でした。マルティン・ルター（Martin Luther, 1483-1546）が1517年10月31日、ヴィッテンベルク城教会の扉に張り出した『贖宥の効力を明らかにするための95箇条の提題』は、最初、神学的な討論を行うためのテーマを提示したものでしたが、印刷されて広く行き渡り、多くの人の目に触れることとなりました。プロテスタントもカトリックも、自分たちの正当性を主張し、また、相手方の非を伝えるために、印刷物、特にパンフレットを用いるようになり、それはしばしば、非難合戦の様相を呈するようになりました。

ルター自身も、自らの考えを論文や説教の形で著し、小冊子で配布するという戦略を積極的に用いました。この16世紀プロテスタント宗教改革以降、キリスト教、ことにプロテスタントは、聖書をはじめ、印刷された書物によって、その教えを広め、伝えるようになっていったのです。

（ルターの著作8点に付けられた「WA」で始まる数字は、ヴァイマール版ルター全集の所収巻とページを表しています。【例】WA 6：404-469＝ヴァイマール版ルター全集第6巻404-469ページ）

7 キリスト教界の改善に関してドイツのキリスト者貴族に与える書

An den Christlichen Adel deutscher Nation von des Christlichen Standes Besserung

Leipssgk・Wolffgang Stöckel・1520

An den Christlichen Adel deutscher Nation: von des Christlichen standes besserung D. Martinus Luther.

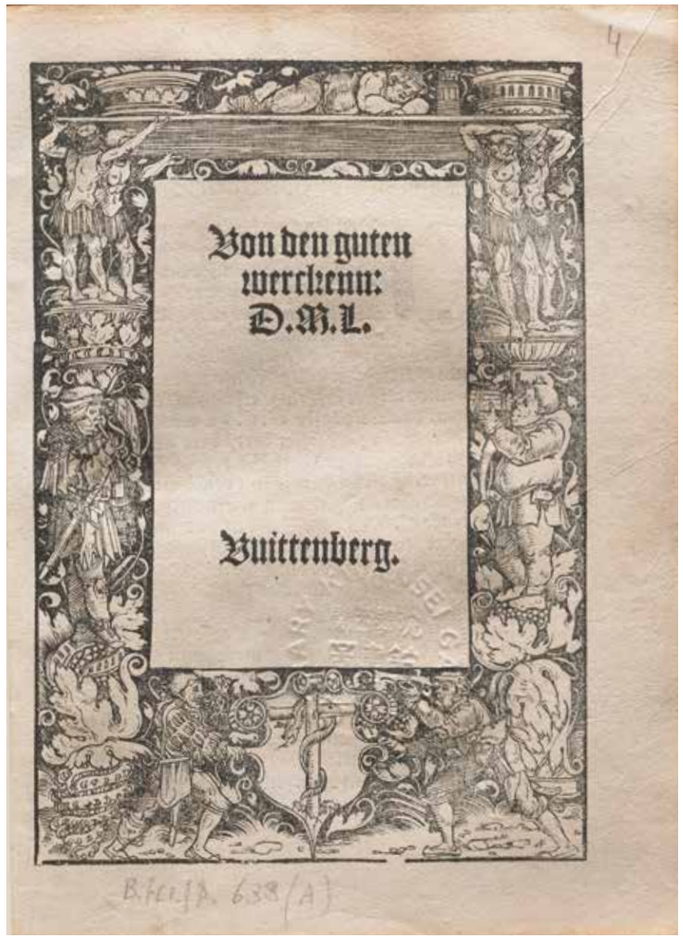
Getrucke zu Leipsigk durch Wolffgang Stöckel. 1520.

本書は、1520年に書かれたマルティン・ルターの「宗教改革三大文書」と呼ばれる著作のひとつです（他の2冊は『教会のバビロニア捕囚について』『キリスト者の自由』）。富と権力に堕落して、もはや「反キリスト」と見なさざるを得なくなったカトリック教会の世俗的な地位と財産を批判し、聖書に基づいて一人ひとりが祭司であるとする考え方（万人祭司説）を主張し、教会改革の必要を説いています。内容は具体的で、当時のドイツ諸邦の問題点27項目を列挙し、それらを改善する方法を示しています。さらに、「ローマの三つの城壁」としてカトリック教会のあり方を批判して、聖書に根拠がなく、打倒すべきものと主張しています。【WA6：404-469】

8 善きわざについて

Von den guten Werckenn

Wittenberg・Melchior Lotther・1520?


Von den guten werckenn: D.M.L.

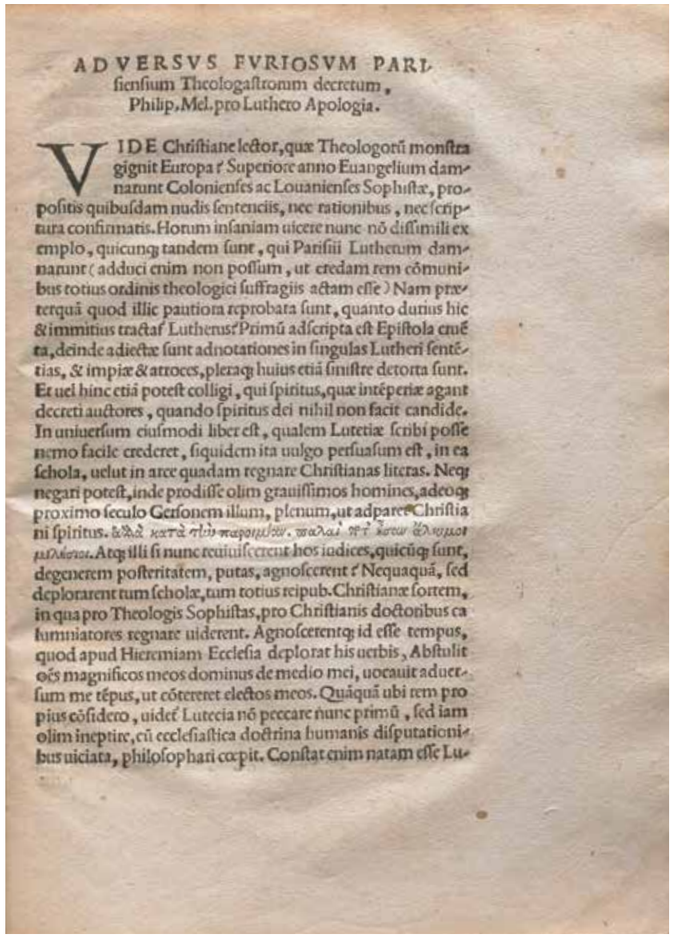
Wuittenberg.

「宗教改革三大文書」に先行して1520年5月に出版された本書は、ルターの福音主義に基づいて、キリスト教倫理の原則をわかりやすく説明したものです。タイトルの「善きわざ」とはキリスト教信者としての「よい行い」を示しており、その第一は言うまでもなく、キリストを信じる「信仰」です。この「信仰」から何が「善きわざ」で、何がそうではないかを識別しなければならないと考えられています。ルターは、旧約聖書出エジプト記に記されている「十戒」と「善きわざ」との関係を、具体的な例を引きながら分かりやすく説明し、「善きわざ」がよい人間をつくるのではなく、よい信仰が「善きわざ」を生み出すと強調します。本書の課題は、「宗教改革三大文書」の最後の著作、『キリスト者の自由』第2部における「キリスト者の愛」へと受け継がれることになります。【WA6：202-276】

9 これまでのルターの教義に関するパリ大学神学部の判断：パリの判断に対するルターの弁明

Determinatio theologicae facultatis Parisien super doctrina Lutheriana hactenus per eam visa, Apologia pro Luthero adversus decretu[m] Parisiensium

Wittembergae・1521



ADVERSVS FVRIOSVM PARI-
sienſium Theologaſtrorum decretum,
Philip.Mel.pro Luthero Apologia.

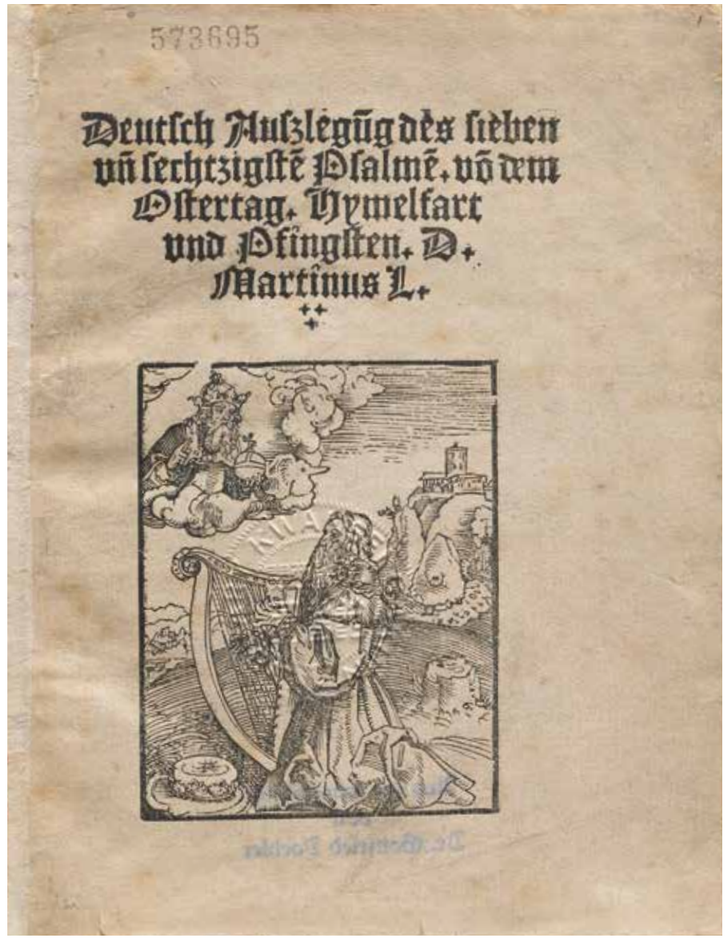
VIDE Chriſtiane lector,quæ Theologorũ monſtra
gignit Europa? Superiore anno Euangelium dam-
narunt Colonienſes ac Louanienſes Sophiſtæ, pro-
poſitis quibuſdam nudis ſententiis, nec rationibus, nec ſcrip-
tura confirmatis.Horum inſaniam uicere nunc nõ diſſimili ex
emplo, quicunq; tandem ſunt, qui Pariſiii Lutherum dam-
narunt (adduci enim non poſſum, ut credam rem cõmuni-
bus totius ordinis theologici ſuffragiis actam eſſe) Nam præ-
terquã quod illic pauciora reprobata ſunt, quanto durius hic
&immitius tractat Lutherus? Primũ adſcripta eſt Epiſtola cruẽ
ta,deinde adiectæ ſunt adnotationes in ſingulas Lutheri ſentẽ-
tias, & impiæ & atroces,pleraq; huius etiã ſiniſtre detorta ſunt.
Et uel hinc etiã poteſt colligi, qui ſpiritus,quæ intẽperiæ agant
decreti auctores, quando ſpiritus dei nihil non facit candide.
In uniuerſum eiuſmodi liber eſt, qualem Lutetiæ ſcribi poſſe
nemo facile crederet, ſiquidem ita uulgo perſuaſum eſt, in ea
ſchola, uelut in arce quadam regnare Chriſtianas literas. Neq;
negari poteſt,inde prodiſſe olim graueſſimos homines,adeoq;
proximo ſeculo Gerſonem illum, plenum,ut adparet Chriſtia
ni ſpiritus. ἀλλὰ κατὰ τὴν παροιμίαν. πολλοὶ τοῦ κόπου ὀλίγοι
μάρτυρες. Atq; illi ſi nunc reuiuiſcerent hos iudices,quicũq; ſunt,
degenerem poſteritatem, putas, agnoſcerent? Nequaquã, ſed
deplorarent tum ſcholæ,tum totius reipub.Chriſtianæ ſortem,
in qua pro Theologis Sophiſtas,pro Chriſtianis doctoribus ca
lumniatores regnare uiderent. Agnoſcerentq; id eſſe tempus,
quod apud Hieremiam Eccleſia deplorat his uerbis, Abſtulit
oẽs magnificos meos dominus de medio mei, uocauit aduer-
ſum me tẽpus,ut cõtereret electos meos. Quãquã ubi rem pro
pius cõſidero, uideõ Lutecia nõ peccare nunc primũ, ſed iam
olim ineptire,cũ eccleſiaſtica doctrina humanis diſputationi-
bus uiciata, philoſophari cœpit. Conſtat enim natam eſſe Lu-

ルターがヴィッテンベルク城教会の扉に張り出した『95箇条の提題』は、「贖宥（免罪符）」の効力について神学的な討論を行うためのテーゼを記したものでした。その後の論争がルターの望んだものであったかどうかは不明ですが、1518年にはハイデルベルクで開かれたアウグスティヌス修道会の総会で、1519年にはヨハン・エック（Johann Eck, 1486-1543）を相手にライプツィヒで、討論に臨むことになります。本書には、パリ大学神学部の教員によるルターの神学的主張に対する意見と、それに対するフィリップ・メランヒトン（Philipp Melanchthon, 1497-1560）の反論とが掲載されています。メランヒトンは、ルターの協力者としてプロテスタントの神学の体系化に大きな功績があった人物です。【WA 8：267-312】

10 詩編67(68)編のドイツ語による解釈：イースター、昇天日、ペンテコステについて

Deutsch Auszlegu[n]g des sieben un[d] sechtzigste[n] Psalme[n]: vo[n] dem Ostertag, Hymelfart und Pfingsten

1521?



573695

Deutsch Auszlegũg des sieben
vñ sechtzigstẽ Psalmẽ, võ dem
Ostertag, Hymelfart
vnd Pfingsten. D.
Martinus L.

ルターは1512年に神学博士となり、ヴィッテンベルク大学神学部で聖書の講義を始めます。それは詩編から始まり、ローマの信徒への手紙、ガラテヤの信徒への手紙、ヘブライ人への手紙へと続けられていきます。これらの講義の準備を通して、ルターの「信仰義認」という神学が形成されていったと考えられます。また、1518年冬学期から始められた『（第2回）詩編講義』は印刷され、学生を超えて広く読まれるようになりました。聖書の講義はルターの存命中続けられ、やがては聖書全巻の翻訳に結実します。本書は、詩編67編（『ウルガタ』の番号、現在の聖書では68編）のドイツ語訳にその神学的な意義を論じる注解が付けられたものです。【WA 8：4-35】

11 「これはわたしのからだである……」とのキリストの言葉は熱狂主義者たちに対してなおも固く立つ

Das diese Wort Christi (Das ist mein Leib etce) noch fest stehen widder die Schwermgeister

Wittemberg・Michael Lotther・1527

No.11とNo.12の2冊は、「聖餐」に関するルターの著作です。「聖餐」とは、キリストが最後の晩餐の折に「このように行え」と命じた（マルコによる福音書14章22節とその並行箇所）ことに基づく、パンとぶどう酒を分かち合う儀式です。ルターは、キリストによって制定された儀式（「聖礼典」）は「洗礼」と「聖餐」の2つだけとし、それまでのカトリック教会における、「秘跡」を7つとする考え方に反対しました（「秘跡」のうち他の5つは「堅信」「結婚」「叙階」「懺悔」「終油」）。

聖餐をめぐる理解は宗教改革の当初から議論の的となっており、本書は、プロテスタント陣営でありながら見解の異なる、フルドリッヒ・ツヴィングリ（Huldrych Zwingli, 1484-1531）やエコランパディウス（Johannes Oecolampadius, 1482-1531）を厳しい調子で批判したものです。【WA23：64-283】

12 キリストの聖餐について、信仰告白

Vom Abendtmal Christi, Bekendtnis

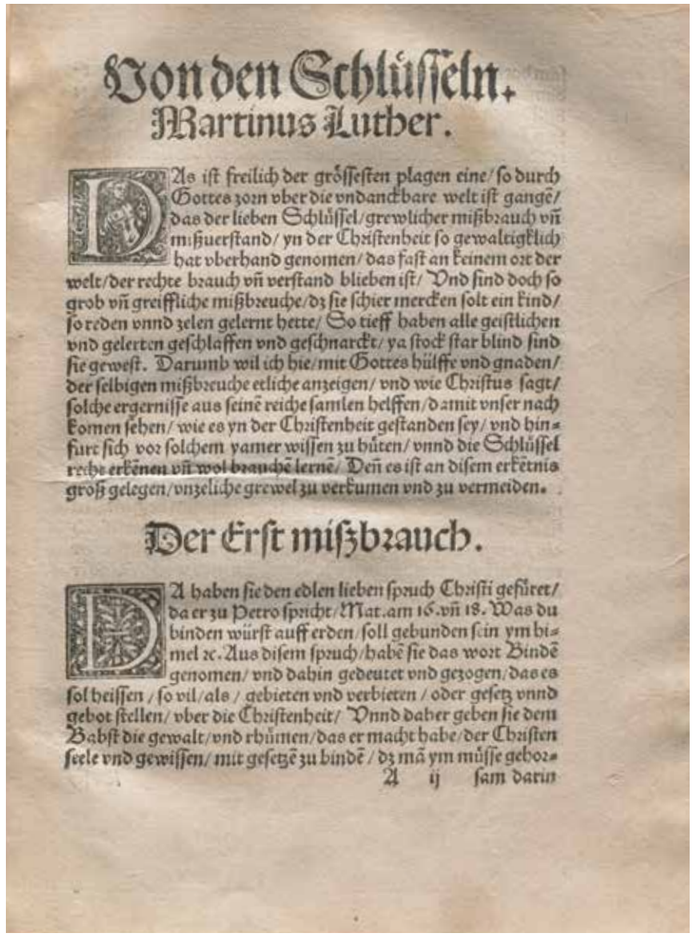
1528

ルターは、聖餐のパンが、形相はパンのままで実質はキリストの体に変化するというカトリック教会の「実質変化説」に反対し、パンはパンのままで、そのパンと共にキリストの体が現存するとする「共在説」を主張しました。しかしこれによって、プロテスタント陣営内での意見一致も難しくなりました。ルターは、何冊も聖餐に関する著作を残していますが、本書は、ルターの聖餐論にとって重要な書物と考えられています。この1528年の『キリストの聖餐について』では、ツヴィングリの聖餐論への批判から始めて、キリストの遍在を説き、キリストの制定の言葉「これはわたしのからだである」をそのままに受け止めることが必要だと述べています。また、「信仰告白」の部分は、後の『アウグスブルク信仰告白』（No.16）にも影響を与えたとされています。【WA26：261-509】

13 鍵（の務め）について

Von den Schlüsseln

Wittemberg・1530



Von den Schlüsseln.
Martinus Luther.

DAs ist freilich der grössesten plagen eine/ so durch Gottes zorn vber die vndanckbare welt ist gangē/ das der lieben Schlüssel/ grewlicher mißbrauch vñ mißuerstand/ yn der Christenheit so gewaltigklich hat vberhand genomen/ das fast an keinem ort der welt/ der rechte brauch vñ verstand blieben ist/ Vnd sind doch so grob vñ greiffliche mißbreuche/ dz sie schier mercken solt ein kind/ so reden vnnd zelen gelernt hette/ So tieff haben alle geistlichen vnd gelerten geschlaffen vnd geschnarckt/ ya stock star blind sind sie gewest. Darumb wil ich hie/ mit Gottes hülffe vnd gnaden/ der selbigen mißbreuche etliche anzeigen/ vnd wie Christus sagt/ solche ergernisse aus seinē reiche samlen helffen/ damit vnser nach komen sehen/ wie es yn der Christenheit gestanden sey/ vnd hinfurt sich vor solchem yamer wissen zu hüten/ vnnd die Schlüssel recht erkēnen vñ wol brauchē lernē/ Deñ es ist an disem erkēntnis groß gelegen/ vnzeliche grewel zu verkumen vnd zu vermeiden.

Der Erst mißbrauch.

DA haben sie den edlen lieben spruch Christi gefüret/ da er zu Petro spricht/ Mat. am 16. vñ 18. Was du binden würst auff erden/ soll gebunden sein ym himel ꝛc. Aus disem spruch/ habē sie das wort Bindē genomen/ vnd dahin gedeutet vnd gezogen/ das es sol heissen/ so vil/ als/ gebieten vnd verbieten/ oder gesetz vnnd gebot stellen/ vber die Christenheit/ Vnnd daher geben sie dem Babst die gewalt/ vnd rhümen/ das er macht habe/ der Christen seele vnd gewissen/ mit gesetzē zu bindē/ dz mā ym müsse gehor-

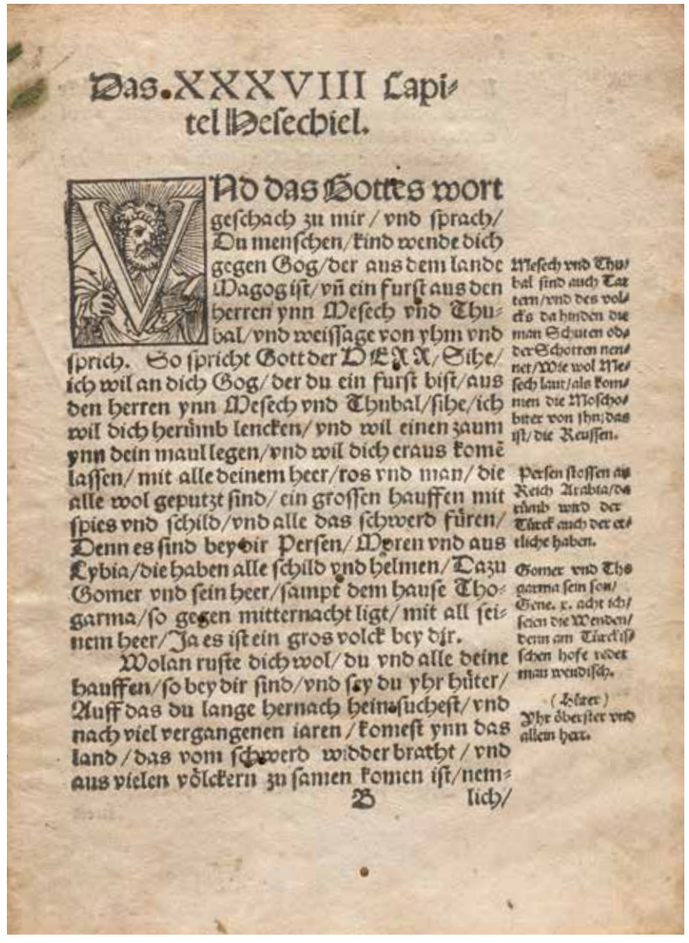
A ij sam darin

イエスをキリストと告白したペトロに対して、イエスが「天の国の鍵を授ける」と言ったことから（マタイによる福音書16章19節）、「鍵」とは、教会の持つ指導（牧会、司牧）的、教育的な務めを指すようになりました。特に、カトリック教会は、この聖書箇所を教皇権の根拠として用い続けてきました。本書においてルターは、独自の解釈により、教会には悔い改める人々の罪を許す権威が与えられているが、それは教皇個人のものではなく教会全体の権威であり、神の言葉を正しく宣べ伝えることによって実行されるものであると主張しています。【WA30.2：465-507】

14 エゼキエル書38章、39章 ゴグについて

Das XXXVIII und XXXIX Capitel Hesechiel vom Gog

Wittemberg・Nickel Schirlentz・1530



Das. XXXVIII Capitel Hesechiel.

VND das Gottes wort geschach zu mir/ vnd sprach/ Du menschen/ kind wende dich gegen Gog/ der aus dem lande Magog ist/ vñ ein furst aus den herren ynn Mesech vnd Thubal/ vnd weissage von yhm vnd sprich. So spricht Gott der DERR/ Sihe/ ich wil an dich Gog/ der du ein furst bist/ aus den herren ynn Mesech vnd Thubal/ sihe/ ich wil dich herümb lencken/ vnd wil einen zaum ynn dein maul legen/ vnd wil dich eraus komē lassen/ mit alle deinem heer/ ros vnd man/ die alle wol geputzt sind/ ein grossen hauffen mit spies vnd schild/ vnd alle das schwerd füren/ Denn es sind bey dir Persen/ Moren vnd aus Lybia/ die haben alle schild vnd helmen/ Dazu Gomer vnd sein heer/ sampt dem hause Thogarma/ so gegen mitternacht ligt/ mit all seinem heer/ Ja es ist ein gros volck bey dir.

Wolan ruste dich wol/ du vnd alle deine hauffen/ so bey dir sind/ vnd sey du yhr hüter/ Auff das du lange hernach heimsucheſt/ vnd nach viel vergangenen iaren/ komest ynn das land/ das vom schwerd widder bratht/ vnd aus vielen völckern zu samen komen ist/ nem-

B lich/

Mesech vnd Thubal sind auch Tartern/ vnd des volcks da hinden die man Schuten oder Schottren nennet/ Wie wol Mesech laut/ als kommen die Moschoviter von ihn; das ist/ die Reussen.

Persen stossen an Reich Arabia/ da rümb wird der Türck auch der etliche haben.

Gomer vnd Thogarma sein son/ Gene. x. acht ich/ seien die Wenden/ denn am Türckischen hofe werden man wendisch.

(Hüter) Yhr öberster vnd allen herr.

デジデリウス・エラスムス（Desiderius Erasmus, ca.1466-1536）によって校訂された新約聖書のギリシア語原典第2版（1519年、No.55）を入手したルターは、ヴァルトブルク城にこもり、新約聖書の翻訳に取り掛かります。1522年9月21日にそのドイツ語新約聖書は出版されましたが、表題には翻訳者の記載はありません。出版されたのが9月であったことから、この新約聖書は通称『9月聖書』と呼ばれています。

『9月聖書』出版後、ルターは旧約聖書の翻訳に取り組みましたが、特に1530年には翻訳だけでなく、詳しい注を付けた、『ダニエル書』とこの『エゼキエル書38章、39章』が発表されています。【WA30.2：223-226】

15 「ルター訳聖書」木版挿絵入り（ファクシミリ版）

Die Luther-Bibel von 1534 : Vollständiger Nachdruck

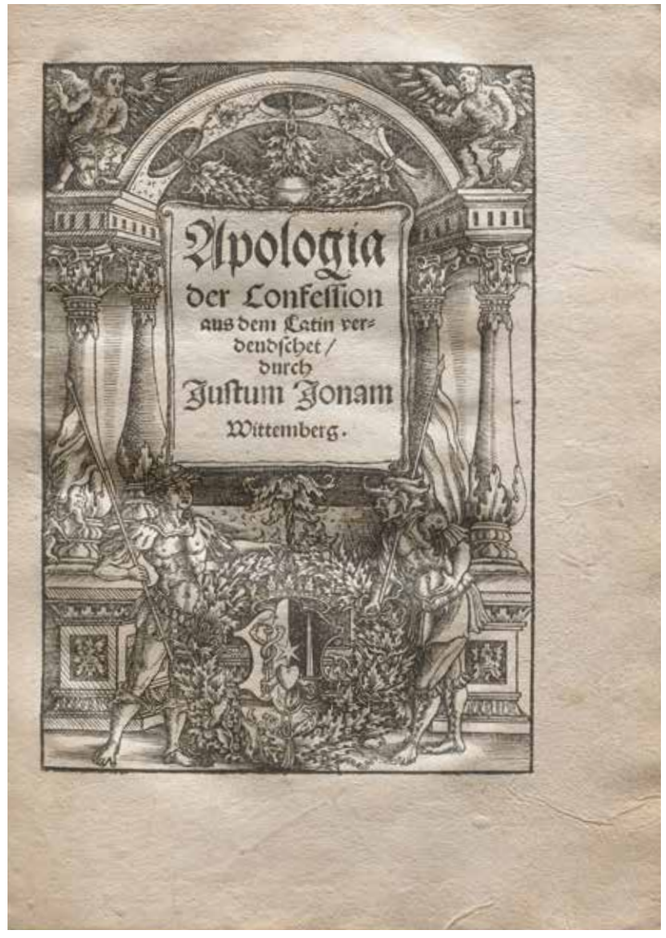
Köln・Taschen・2003

本書は、1534年にマルティン・ルターによってドイツ語に訳出された新約、旧約の聖書完本のファクシミリ版（2003年）です。1522年に『9月聖書』を出版して以来、旧約聖書の各書を順次出版し、同時に新約聖書や先に出版された旧約聖書各書を改訂するという、地道な翻訳作業が続けられていましたが（No.14参照）、旧約聖書（旧約聖書続編を含む）、新約聖書の完本が1534年10月にヴィッテンベルクで出版されました。表題には『聖書、すなわち、ドイツ語による聖書全巻（*Biblia, das ist die gantze Heilige Schrifft Deudsch*）』とあり、ルターの名前も書かれています。この聖書は広く読まれ、ルター訳聖書のドイツ語が、やがて今日のドイツ語の起源となっていきました。

16 アウグスブルク信仰告白・アウグスブルク信仰告白の弁明

Confessio odder Bekantnus des Glaubens etlicher Fürsten und Städte : Uberantwort Keiserlicher Majestat zu Augsburg, Anno MDXXX .
Apologia der Confession

Wittemberg・Georgen Rhaw・1531



本書は、フィリップ・メランヒトンによる『アウグスブルク信仰告白（*Augsburg Confession*）』と『アウグスブルク信仰告白の弁明（*Apologia Confessionis*）』を合本にしたものです。『アウグスブルク信仰告白』は、福音主義（プロテスタント）の信仰の要点を述べたもので、1530年にローマ皇帝カール5世（Karl V, 1500-1558）を迎えて開かれたアウグスブルク帝国議会に提出されました。メランヒトンの文章は非常に慎重なもので、巧妙にカトリック教会との論点を避けて論じられていましたが、それでもカトリック教会からの反発を招き、『アウグスブルク反駁書（*Confutatio Augustana*）』が提出されることになります。これに対して、メランヒトンは『弁明』を提出し、両者の対立は決定的なものとなります。この議会でプロテスタント諸侯とカトリック諸侯の対立が鮮明になり、プロテスタント諸侯は1531年にシュマルカルデン同盟を結成します。

17 マグデブルク教会史

Ecclesiastica historia, integram ecclesiae Christi ideam, ... per aliquot studiosos & pios viros in urbe Magdeburgica ...

Basileae・Ioannem Oporinum・1554?-1574

HISTORIAE ECCLE-
siasticæ Centuriæ pri-
mæ Liber primus.

CAPVT I.

CAPVT II.
DE LOCO ECCLESIÆ CHRI-
sti, eiusq; instauratione.

本書は、ルター派の立場から編まれた最初の教会史として貴重な文献です。ルター派のマティアス・フラキウス・イリリクス（Matthias Flacius Illyricus, 1520-1575）が編者となり、複数の学者によって執筆されました。各巻は百年単位で執筆され、第1巻は紀元1世紀、第2巻は2世紀というように区切られていますが、各巻の内容は年代順に記されているわけではなく、主題別になっており、宣教や迫害の様子、または教義などが論述されています。厳格ルター主義と反教皇主義によってまとめられており、キリスト教が次第に教皇という「反キリスト」の支配のもとに下り、最後には、ルターによって、「新約聖書の純粋なキリスト教」が解放される様子を描いています。

18 クリスチャン4世デンマーク語聖書

Biblia : det er, Den gantske Hellige Scrifft, paa Danske igien offuerseet oc prentet effter vor allernaadigste Herris oc Kongis K. Christian den IV ...

Kiøbenhaffn・1633

Biblia
Det er
Dyg gantske Hel-
lige Scrifft paa Danske
igien offuerseet oc Prentet
effter vor allernaadigste
Herris oc Kongis K. Christian
den IV Bestyrelse.
Den Konge-Lige/ alle
Kaiser/ Konger/ Fyrster/
Hans Majestæt Ydmyghed
og Vist Vaandel Dannemarck
Cum Gratia et Privilegio.
Kiøbenhafn
Anno Domini 1633.

本書は、デンマークにおいて名君と言われた国王クリスチャン4世（Christian Ⅳ, 1577-1648）によって、1633年に王立出版局から出版されたデンマーク語聖書です。当時の印刷技術を駆使した美しい出版物で、銅版画による国王の肖像画のほかに、銅版画3枚、木版画64枚が本文中に挿入されています。大型のフォリオ（二つ折）版による教会用聖書としては、デンマークにおける最後の出版物となりました。本文は、ルター訳によるドイツ語聖書からの重訳改訂版です。本書に先立つことほぼ100年前の1536年に、クリスチャン3世（Christian Ⅲ, 1503-1559）の手によりいち早く導入がなされて以降、デンマークはルター派のプロテスタントとしての立場を固持していました。そのため、クリスチャン4世の時代には、ドイツ国内のカトリック派諸侯との宗教的な対立から三十年戦争に参戦し、また晩年にはスウェーデン王国からの侵攻を受けるなど、デンマークの国力を衰退させてしまいました。一方で、コペンハーゲンやオスロなど今日の北欧を代表する都市を建設するなどの功績も残しました。

III

『欽定訳聖書』とその周辺

国王の離婚という独自の理由でローマ（カトリック）教会から分離したイングランド教会（英国国教会）は、16世紀プロテスタント宗教改革で主張された教えを取り入れ、改革を進めることになります。聖書と『祈祷書（*The Book of Common Prayer*）』を中心に置き、書物に基づいて、すべての信徒がキリスト教信仰を理解し実践するという形式を確立させました。特に、1611年出版の『欽定訳聖書（*The Authorized Version*）』と1662年出版の『祈祷書』（第5版、初版は1549年）は、その後300年以上英語圏で広く用いられ、宗教的、心情的な表現の源泉となりました。これらで用いられた表現は、現在でも英語の一般的な表現として定着しています。

ルターの影響を受けたティンダルによる翻訳が英語聖書出版の嚆矢となりましたが、ティンダル訳は様々な改訂を受けて、その後の『欽定訳聖書』にまで影響を与えています。また、カトリックへの復帰を図ったイギリス女王メアリー1世（Mary I, 1516-1558）による迫害を逃れたピューリタンが作った『ジュネーヴ聖書（*The Geneva Bible*）』は広く受け入れられ、親しまれましたが、イギリス王ジェームズ1世（James I, 1566-1625）はこれを嫌い、これに対抗するために、『欽定訳聖書』の作成を命じたとも考えられています。

1549年『祈祷書』の成立には、トーマス・クランマー（Thomas, Cranmer, 1489-1556）が大きく関与しました。『祈祷書』に記されている儀式やその言葉遣いは国教会派、非国教会派を問わず、大きな影響を与えました。英語圏のキリスト教の影響を受けている日本のプロテスタント教会の儀式にも、その影響を見てとることができます。メソジスト運動を始めたウェスレー兄弟はイングランド教会の聖職者であり、『祈祷書』に親しみ、大切にしていたと言われています。

19 慶應義塾図書館所蔵
ウィクリフ派「旧約聖書」（写本断簡）
Wycliffe Bible, in English

England・ca.1400-1430

最初の聖書英訳の試みは、1370年代頃にオックスフォード大学の神学者・哲学者であったジョン・ウィクリフ（John Wycliffe, ca.1320-1384）とその弟子たちによるもので、聖書の全体もしくはその一部が翻訳されたと言われています。ラテン語が教会の言葉とされていた当時の社会では、聖書を英訳するというウィクリフの試みは非常に危険なものと考えられました。ウィクリフはその死後の1415年に異端とされ、著書は焼かれ、墓はあばかれました。

なお、ウィクリフの弟子のひとりであるオックスフォードの同僚ニコラス・ヘレフォード（Nicholas Hereford, ca.1345-1420）が主に翻訳に関わったものを初期版、その後1390年代前半にかけてウィクリフの個人的な助手であったジョン・パーベイ（John Purvey, ca.1354-1414）が改訂したものを後期版と呼称しています。本写本は後期版テクストの縮約版です。損傷が著しいものの史料的価値はきわめて高く、本写本の残りの部分は、アメリカ・カリフォルニア州にあるハンティントン・ライブラリー（The Huntington Library）に所蔵されています。

20 ティンダル訳聖書（リプリント版）
The New Testament 1526

London・D. Paradine Developments・1976

The Actes off The Apostles.

The fyrst Chapter.

In my fyrst treati/se(Deare frende Theophilus(I have written off all that Jesus began to do & teache/ vntill the daye in the whiche he was take vp/ after that he thorowe the holy goost/ had geven commaundement vnto the Apostles/ whiche he chose: to whō also he shewed hym silfe alive/ after his passion by many tokens/ aperynge vnto them fourty dayes/ & spake vnto them off the kyngdom of god/ and gaddered them to gedder/ and cōmaunded them/ that they shulde not departe from Jerusale: but to wayte for the promys of the father/ wher of ye have herde off me. For Jhon baptised wyth water butt ye shalbe baptised with the holy goost/ and that wyth in this feawe dayes.

When they were come togedder/ they ared of vym/ sayinge: Master wilt thou at this tyme restore agayne the kyngdom of israhel? He sayde vnto them: It is not for you to knowe the tymes or the seasons which the father hath putt in hys awne power: but ye shall receave power off the holy goost which shall come on you. And ye shals

はじめて出版された英訳の新約聖書です。オックスフォード大学の学生であったウィリアム・ティンダル（William Tyndale, ca.1494-1536）は、マルティン・ルターのドイツ語新約聖書に影響されて、英語聖書の出版を志します。しかし、当時のイギリスでは聖書の英訳は厳しく禁止されていたため、ティンダルはドイツに移住し、身を隠しながら新約聖書を翻訳しました。1525年頃にケルンで印刷を開始しましたが、当局に発覚したため完成せず、翌1526年にヴォルムスで判型をやや小さくしたものを印刷し、出版しました。英国にも密輸入されましたが、激しい焚書にあったために現在確認されている冊数はわずかです。ティンダルは1535年にアントワープで逮捕され、翌年、異端の判決を受けて処刑されました。ティンダル訳聖書の訳文は、『マシュー聖書』『主教聖書』を経て『欽定訳聖書』の本文に受け継がれ、近代英語の形成に大きな影響を及ぼしました。

本書は、ティンダルによる英語新約聖書の出版450周年を記念して1976年に出版されたリプリント版です。

21 マシュー聖書

The Byble : that is to saye, all the Holye Scripture

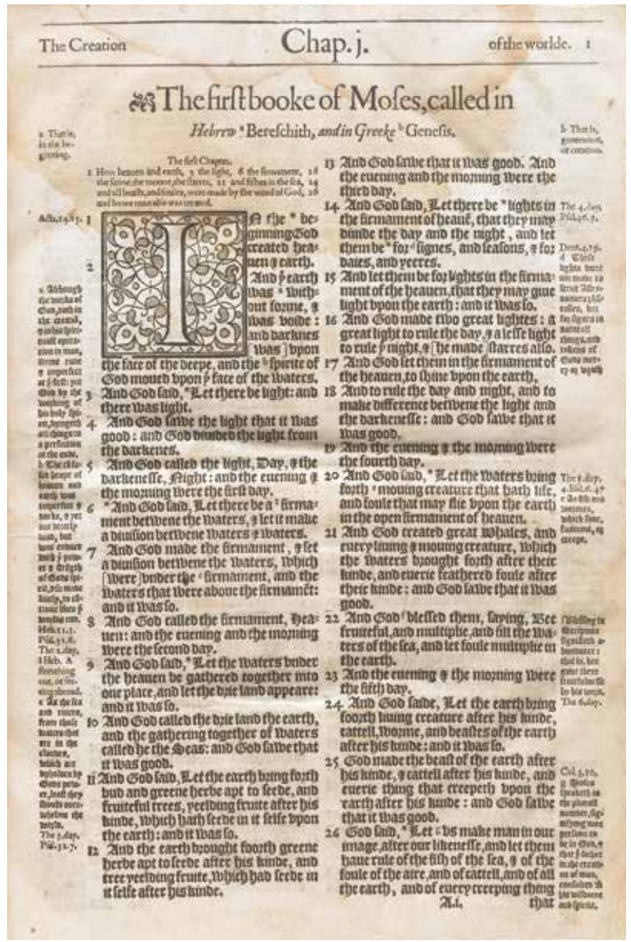
London・Nicolas Hyll・1551

『マシュー聖書（*The Matthew Bible*）』の名は、訳者“トマス・マシュー（Thomas Matthew）”の名に由来しますが、このトマス・マシューとは、ティンダルの僚友ジョン・ロジャーズ（John Rogers, ca.1500-1555）の偽名と言われています。1536年にティンダルが処刑された後、残された旧約聖書の遺稿をもとに、1537年にロンドンで初版が出版されました。『マシュー聖書』は大型のフォリオ（二つ折）版として出版され、全編にわたり注と引照を備えるなど、読み易かったことから、広く普及しました。しかし、本文の一部に残るティンダル訳の影響が保守層からの反感を買い、イギリス王室はマイルズ・カヴァデール（Miles Coverdale, ca.1488-1568）に『マシュー聖書』の改訂を指示します。これが、1539年の『大聖書（*The Great Bible*）』です。本書は1551年に出版された第3版です。なお、著者と目されるジョン・ロジャーズも1555年に処刑されました。

22 主教聖書

The Holy Byble, conteining the Olde Testament and the Newe

London・Christopher Barker・1585

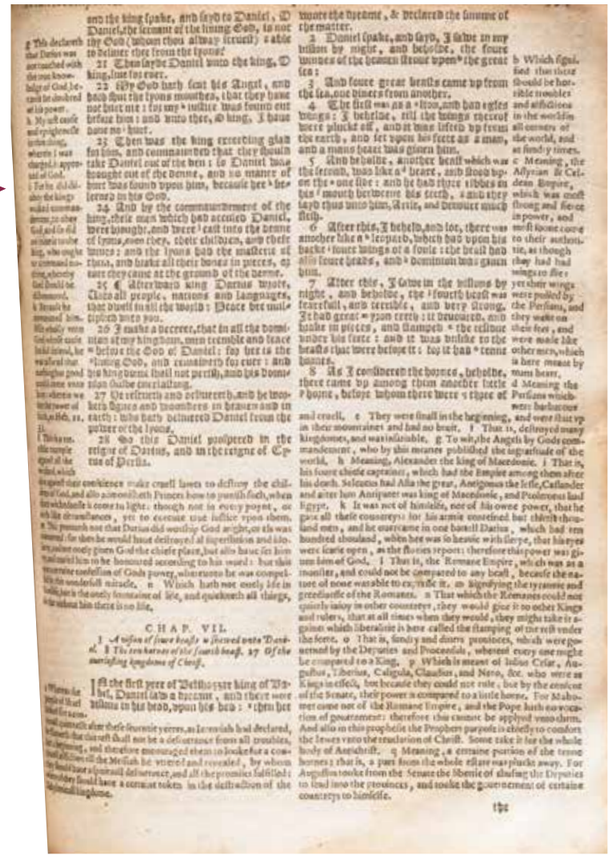


本書は、『大聖書』の改訂を目的に1566年にカンタベリー大司教パーカー（Matthew Parker, 1504-1575）の主導で企画され、国内の主教による共同作業で訳文が完成されたために、『主教聖書』と呼ばれています。1571年には、カンタベリー大主教区の会議により大聖堂や各教会での使用が決められました。『主教聖書』は多くの版を重ねましたが、一方で『ジュネーヴ聖書』に対する民衆の支持には抗すべくもなく、やがて1611年に『欽定訳聖書』が出版されることとなります。『欽定訳聖書』は、この『主教聖書』を基に、それまでに出版されていた『ティンダル訳聖書』『マシュー聖書』『大聖書』『ジュネーヴ聖書』における訳文との比較考量を経て、誕生しました。

23 ジュネーヴ聖書

The Bible : translated according to the Ebrew and Greeke, ...

London・Robert Barker・1600



CHAP. VII.

1 A vision of foure beasts. 9 Iehoua sitteth vpon the Ancient. 13 The sonne of man. 27 Of the euerlasting kingdome of Christ.

In the first yeere of Belshazzar king of Babel, Daniel saw a dreame, and visions in his head, vpon his bed: then he wrote the dreame, & declared the summe of the matter.

2 Daniel spake, and sayd, I saw in my vision by night, and behold, the foure winds of the heauen stroue vpon the great sea:

3 And foure great beasts came vp from the sea, one diuers from another.

4 The first was as a lion, and had eagles wings: I beheld, till the wings thereof were plucked off, and it was lifted vp from the earth, and set vpon his feete as a man, and a mans heart was giuen him.

5 And behold, another beast which was the second, was like a beare, and stood vpon the one side: and he had three ribbes in his mouth betweene his teeth, and they sayd thus vnto him, Arise, and deuoure much flesh.

6 After this, I beheld, and lo, there was another like a leopard, which had vpon his backe foure wings of a fowle: the beast had also foure heads, and dominion was giuen him.

7 After this, I saw in the visions by night, and behold, the fourth beast was fearefull, and terrible, and very strong. It had great iron teeth: it deuoured, and brake in pieces, and stamped the residue vnder his feete: and it was diuerse to the beasts that were before it: for it had ten horns.

8 As I considered the horns, behold, there came vp among them another little horne, before whom there were three of

b Which signified that these should be horrible troubles and afflictions in the worldly all ouers of the world, and at sundry times.

c Meaning, the Assyrian & Chaldean Empire, which was most strong and force in power, and most stoute cruel to their authorities, as though they had had wings to flie: yet their wings were pulled by the Persians, and they made an their feet, and were made like other men, which is here meant by mans heart.

d Meaning the Persians which were barbarous and were that vp in their mountaines and had no heart.

e That is, destroyed many kingdomes, and warlinlinable.

f To wit, the Angels by Gods commandement, who by shis meanes published the ingratitude of the world.

h Meaning, Alexander the king of Macedonie.

i That is, his foure chiefe captaines, which had the Empire among them after his death. Seleucus had Asia the great, Antigonus the lesse, Cassander and after him Antipater was king of Macedonie, and Ptolomeus had Egypt.

k It was not of himselfe, nor of his owne power, that he gaue all these countreys: for his armie conteined but thirtie thousand men, and he ouercame in one battell Darius, which had ten hundred thousand, which her was so heroic with his eye, that his eyes were ierie open, as the stories report: therefore this power was giuen him of God.

l That is, the Romane Empire, which was as a monster, and could not be compared to any beast, because the nature of none wasable to ex; ressle it. m Signifying the ty rannie and greedinesse of the Romanes.

n That which the Romanes could not quietly inioy in other countreys, they would give it to other Kings and rulers, that at all times when they would, they might take it against which liberalitie is here called the stamping of the rest under the feete.

o That is, finely and diuers promises, which were governed by the Deputies and Procensles, whereof every one might be compared to a King.

p Which is meant of Iulius Cesar, Augustus, Tiberius, Caligula, Claudius, and Nero, &c. who were as Kings in effect, but because they could not rule, but by the consent of the Senate, their power is compared to a little horne. For Mahomet came not of the Romane Empire, and the Pope hath no vocation of gouernement: therefore this cannot be applyed vnto them. And also in this prophecie the Prophet purpoſe is chiefly to comfort the Iewes vnto the redemption of Christ. Some take it for the whole body of Antichrist.

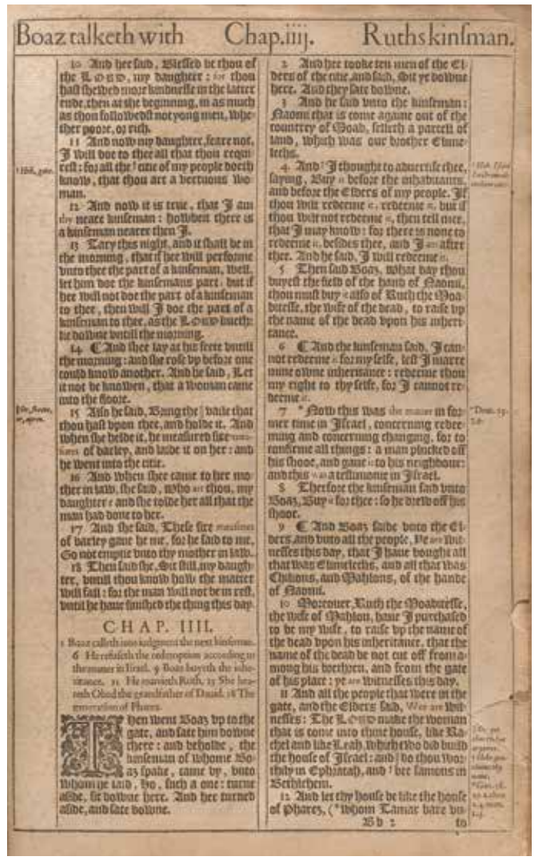
q Meaning, a certaine portion of the temporalitie: that is, a part from the whole estate was plucke away. For Augustus tooke from the Senate the libertie of chusing the Deputies to lead into the prouinces, and tooke the gouernement of certaine countreys to himselfe.

本書は、カトリック復帰を図ったイギリス女王メアリー1世によって追放されたピューリタンの手により、1560年にスイスのジュネーヴで翻訳・出版された英語聖書で、通称『ジュネーヴ聖書（*The Geneva Bible*）』と呼ばれています。『ジュネーヴ聖書』は、16世紀のイギリスで人々に最も愛された聖書と言われています。大量印刷の技術を駆使して数多く出版され、他の公用版の聖書と比べて一般の人々でも直接手に入れやすかったためです。加えて、シェイクスピア（William Shakespeare, 1564-1616）やバニヤン（John Bunyan, 1628-1688）などの文学者たちがその作品に『ジュネーヴ聖書』から引用したため、これ以降も英文学史、また英語の歴史において重要な位置を占めることになりました。ピューリタンの人々は『ジュネーヴ聖書』が教会の公用になることを望んでいましたが、本文の欄外に書かれている注が王政に対して批判的であったために（例えば、写真矢印部分のダニエル書6章22節注i）、イギリス王ジェームズ1世は新しい聖書翻訳を決断したとも考えられています。本書は、数ある版のうち1600年にロンドンで出版されたもので、王室御用達の印刷業者ロバート・バーカー（Robert Barker, d.1645）が出版しました。

24 欽定訳聖書

The Holy Bible, conteyning the Old Testament, and the New

London・Robert Barker・1611



Boaz talketh with Chap.iiij. Ruths kinsman.

CHAP. IIII.

1 Boaz calleth into iudgment the next kinsman. 6 He refuseth the redemption according to the manner in Israel. 9 Boaz buyeth the inheritance. 11 He marieth Ruth. 13 She beareth Obed the grandfather of Dauid. 18 The generation of Phares.

1 Then went Boaz vp to the gate, and sate him downe there: and behoulde, the kinsman of whome Boaz spake, came by, vnto whome he said, Ho, such a one: turne aside, sit downe here. And he turned aside, and sate downe.

2 And he tooke ten men of the Elders of the citie, and said, Sit ye downe here. And they sate downe.

3 And he said vnto the kinsman: Naomi that is come againe out of the countrey of Moab, selleth a parcell of land, which was our brother Elimelechs.

4 And I thought to aduertise thee, saying, Buy it before the inhabitants, and before the Elders of my people. If thou wilt redeme it, redeme it: but if thou wilt not redeme it, then tell me, that I may know: for there is none to redeme it, besides thee, and I am after thee. And he said, I will redeme it.

5 Then said Boaz, what day thou buyest the field of the hand of Naomi, thou mast buy also of Ruth the Moabitesse, the wife of the dead, to raise vp the name of the dead vpon his inheritance.

6 And the kinsman said, I cannot redeme it for my selfe, least I marre mine owne inheritance: redeme thou my right to thy selfe, for I cannot redeme it.

7 Now this was the manner in former time in Israel, concerning redeming and concerning changing, for to confirme all things: a man pluckeed off his shoe, and gaue it to his neighbour: and this was a testimonie in Israel.

8 Therefore the kinsman said vnto Boaz, Buy it for thee: so he drew off his shoe.

9 And Boaz said vnto the Elders and vnto all the people, Ye are witnesses this day, that I haue bought all that was Elimelechs, and all that was Chilions, and Mahlons, of the hande of Naomi.

10 Moreouer, Ruth the Moabitesse, the wife of Mahlon, haue I purchased to be my wife, to raise vp the name of the dead vpon his inheritance, that the name of the dead be not cut off from among his brethren, and from the gate of his place: ye are witnesses this day.

11 And all the people that were in the gate, and the Elders said, We are witnesses: The LORD make the woman that is come into thine house, like Rachel and like Leah, which two did build the house of Israel: and thou worship in Ephratah, and be famous in Bethlehem.

12 And let thy house be like the house of Phares, (whom Tamar bare vnto

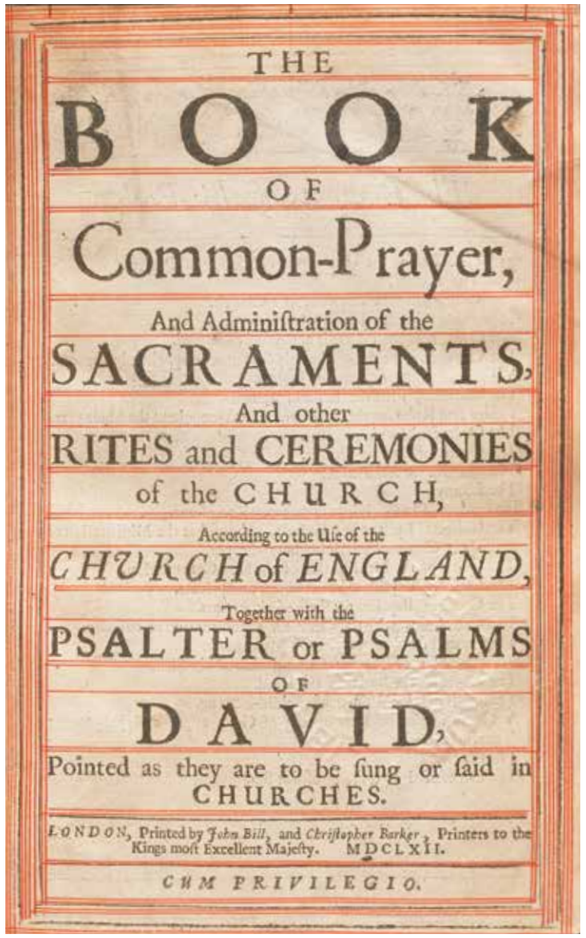
1611年公刊の英語聖書は、『ジュネーヴ聖書』を嫌ったイギリス王ジェームズ1世の命により翻訳編集されたため、『ジェームズ王聖書（*The King James Version*）』、あるいは『欽定訳聖書（*The Authorized Version*）』と呼ばれます。出版後400年以上を経た今日にいたるまで、英語圏で特に親しまれてきました。『欽定訳聖書』は、 1604年から7年の歳月をかけて、 50人近い翻訳者たちにより、『主教聖書』を基に、既に存在していたいくつかの英語聖書を参照しながら「より良い聖書の翻訳をつくる」ことを目的に生み出されました。美しく格調高い訳文は多くの人々から愛用され、シェイクスピアの作品と並んで、近代英語の文体形成に大きな役割を果たしたと言われています。

『欽定訳聖書』の初版は、現在確認されている残存部数が200部にも満たず、その中でも全ページ揃っているものは50部にも満たないと言われています。初版初刷は、ルツ記3章15節で“she went into the citie”とすべきところを“he went into the citie”と誤って印刷してしまったことから、“He Bible”と呼ばれることがあります（写真矢印部分参照）。さらに、『欽定訳聖書』のタイトルページには「木版刷」と「銅版刷」の2種が存在することが知られています。本書は木版刷のもので、新たなタイトルページの作成が間に合わなかったために、 1602年に出版された『主教聖書』の木版タイトルページを流用したものです。

25 祈祷書

The book of common-prayer, and administration of the sacraments, and other rites and ceremonies of the church, according to the use of the Church of England

London・John Bill, and Christopher Barker・1662



THE
BOOK
OF
Common-Prayer,
And Adminiſtration of the
SACRAMENTS,
And other
RITES and CEREMONIES
of the CHURCH,
According to the Uſe of the
CHURCH of ENGLAND,
Together with the
PSALTER or PSALMS
OF
DAVID,
Pointed as they are to be ſung or ſaid in
CHURCHES.

LONDON, Printed by *John Bill*, and *Chriſtopher Barker*, Printers to the Kings moſt Excellent Majeſty. MDCLXII.

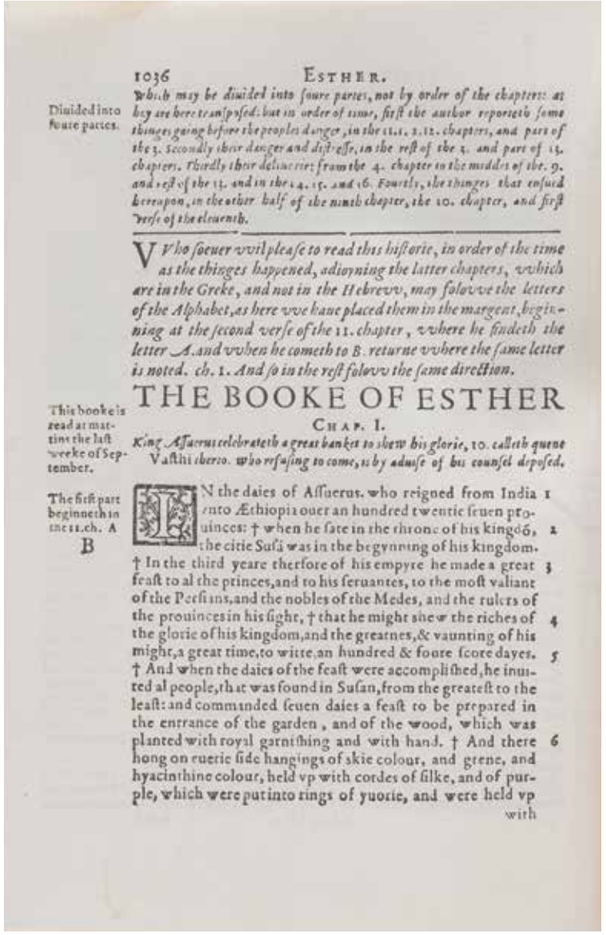
CUM PRIVILEGIO.

イングランド教会の『祈祷書（*The Book of Common Prayer*）』には、教会における礼拝や儀式、祈りのすべてが記されており、公的および私的な信仰生活がこれによって行われる重要な書物です。ヘンリー8世（Henry Ⅷ, 1491-1547）によるイングランド教会の設立後、その子、エドワード6世（Edward Ⅵ, 1537-1553）治下に出版された『（第一）祈祷書』（1549年）が最初です。その作成には、トーマス・クランマーが大きく貢献しました。その後、1552年、1559年、1604年と改訂されましたが、1662年、王政復古により王位に復位したチャールズ2世（Charles Ⅱ, 1630-1685）によって制定された『祈祷書』は、今日に至るまで、アングリカン教会の祈祷書として親しまれています。本書はギリシア語の新約聖書と合本になっており、余白のページには、以前の使用者による書き込みが見られます。

26 ドゥエー＝リームズ聖書（リプリント版）

The Holie Bible : Doway, 1609, 1610

京都・臨川書店・1990



1036 ESTHER.

Diuided into foure parties.

Which may be diuided into foure parties, not by order of the chapters: as they are here transposed: but in order of time, first the author reporteth some things going before the peoples danger, in the 11.12.13. chapters, and part of the 3. Secondly their danger and distresse, in the rest of the 3. and part of 13. chapters. Thirdly their deliuerie from the 4. chapter to the middes of the. 9. and rest of the 13. and in the 14. 15. and 16. Fourtly, the things that ensuid hereupon, in the other half of the ninth chapter, the 10. chapter, and first verse of the eleuenth.

VVho soeuer will please to read this historie, in order of the time as the thinges happened, adioyning the latter chapters, which are in the Greke, and not in the Hebrew, may folowe the letters of the Alphabet, as here we haue placed them in the margent, beginning at the second verse of the 11. chapter, where he findeth the letter A. and when he cometh to B. returne where the same letter is noted. ch. 1. And so in the rest folowe the same direction.

This booke is read at mattins the last weeke of September.

THE BOOKE OF ESTHER

CHAP. 1.

King Assuerus celebrateth a great banket to shew his glorie, 10. calleth quene Vasthi therto. who refusing to come, is by aduise of his counsel deposed.

The first part beginneth in the 11. ch. A B

IN the daies of Assuerus. who reigned from India 1
into Æthiopia ouer an hundred twentie seuen pro-
uinces: † when he sate in the throne of his kingdō, 2
the citie Susa was in the begynning of his kingdom.
† In the third yeare therfore of his empyre he made a great 3
feast to al the princes, and to his seruantes, to the most valiant
of the Peessians, and the nobles of the Medes, and the rulers of
the prouinces in his sight, † that he might shew the riches of 4
the glorie of his kingdom, and the greatnes, & vaunting of his
might, a great time, to witte, an hundred & foure score dayes. 5
† And when the daies of the feast were accomplished, he inui-
ted al people, that was found in Susan, from the greatest to the
least: and commanded seuen daies a feast to be prepared in
the entrance of the garden, and of the wood, which was
planted with royal garnishing and with hand. † And there 6
hong on euerie side hangings of skie colour, and grene, and
hyacinthine colour, held vp with cordes of silke, and of pur-
ple, which were put into rings of yuorie, and were held vp
with

前述のように、14世紀のウィクリフの時代から17世紀の宗教改革期まで、イギリス王室に近いイングランド教会だけでなく、プロテスタント各派によって英語聖書が出版されてきました。プロテスタントの勢力が大きくなるのに対抗して、カトリック教徒による英語聖書が出版されます。これが『ドゥエー＝リームズ聖書』です。巻頭にある「ドゥエー」とは、この聖書が印刷出版されたフランスの地名から取られています。本書は、トリエント公会議において「霊感を受けた聖書」と認定されたラテン語聖書『ウルガタ』から翻訳されているため、ギリシア語原典から翻訳したプロテスタントの英語聖書とは性格が異なります。本書は、1990年に京都の臨川書店から出版されたリプリント版です。

Ⅳ

18世紀イングランドにおけるメソジスト運動と出版

関西学院のルーツにあるメソジスト運動を始めたジョン（兄、John Wesley, 1703-1791）とチャールズ（弟、Charles Wesley, 1707-1788）のウェスレー兄弟は、生涯、イングランド教会の聖職者として『欽定訳聖書』や『祈祷書』を愛し、用い続けました。同時に、ジョンは新約聖書を研究し、古代・中世のキリスト教思想家に学び、また同時代のモラヴィア派からも影響を受けて、独自の信仰理解をもつようになり、それを書籍やパンフレットを使って広めようとしました。特に、ジョンは書籍を読んで信仰を深めることを推奨し、自身の説教や論文を出版し、また、古典となっていたトマス・ア・ケンピスの『キリストに倣いて』を翻訳したり、様々な信仰書を集めて *A Christian Library* を編纂しました。晩年になってからは、自分の著作集の編纂にもあたっています（1771−1774年、全32巻）。ジョンの著作は、現在も、メソジストとその神学を受け継ぐ諸教派（ホーリネス、ナザレン、救世軍など）において読まれ続けています。主な著作は、現在、インターネット上でも読むことができます。

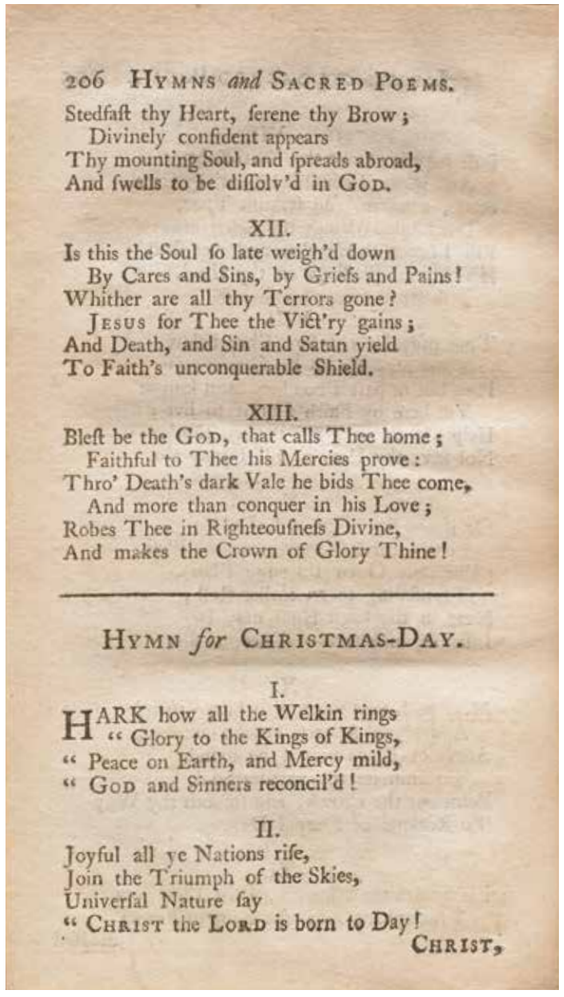
一方、チャールズは、生涯に6,000とも8,000とも言われる賛美歌詞を書いたことで知られています。その詞は、聖書の暗喩をふんだんに含み、伝統的な祈りの言葉や賛美を折り込みながら、キリスト教の教えを表現しています。同時に、信仰の感情的な部分（sentiment）を表現し、その多くは、キリスト教信仰を持つ者として生きていくということを強調しています。チャールズの詞は、今日でも広く歌われ、英米のメソジスト教会のみならず、イングランド教会系の諸教会（アングリカン教会）や日本においても親しまれています。

ウェスレー兄弟のイングランド教会内の運動（メソジスト・ソサエティー）は、アメリカでは独立した教派として組織されました。関西学院は、アメリカのメソジスト諸教派のひとつ、南メソジスト監督教会（The Methodist Episcopal Church, South）の宣教師ウォールター・ラッセル・ランバス（Walter Russell Lambuth, 1854-1921）によって1889年に創立されました。

27 賛美歌と聖なる詩（1739年）

Hymns and sacred poems

London・William Strahan・1739



206 HYMNS *and* SACRED POEMS.

Stedfaſt thy Heart, ſerene thy Brow;
Divinely confident appears
Thy mounting Soul, and ſpreads abroad,
And ſwells to be diſſolv'd in GOD.

XII.

Is this the Soul ſo late weigh'd down
By Cares and Sins, by Griefs and Pains!
Whither are all thy Terrors gone?
JESUS for Thee the Vict'ry gains;
And Death, and Sin and Satan yield
To Faith's unconquerable Shield.

XIII.

Bleſt be the GOD, that calls Thee home;
Faithful to Thee his Mercies prove:
Thro' Death's dark Vale he bids Thee come,
And more than conquer in his Love;
Robes Thee in Righteouſneſs Divine,
And makes the Crown of Glory Thine!

HYMN *for* CHRISTMAS-DAY.

I.

HARK how all the Welkin rings
"Glory to the Kings of Kings,
"Peace on Earth, and Mercy mild,
"GOD and Sinners reconcil'd!

II.

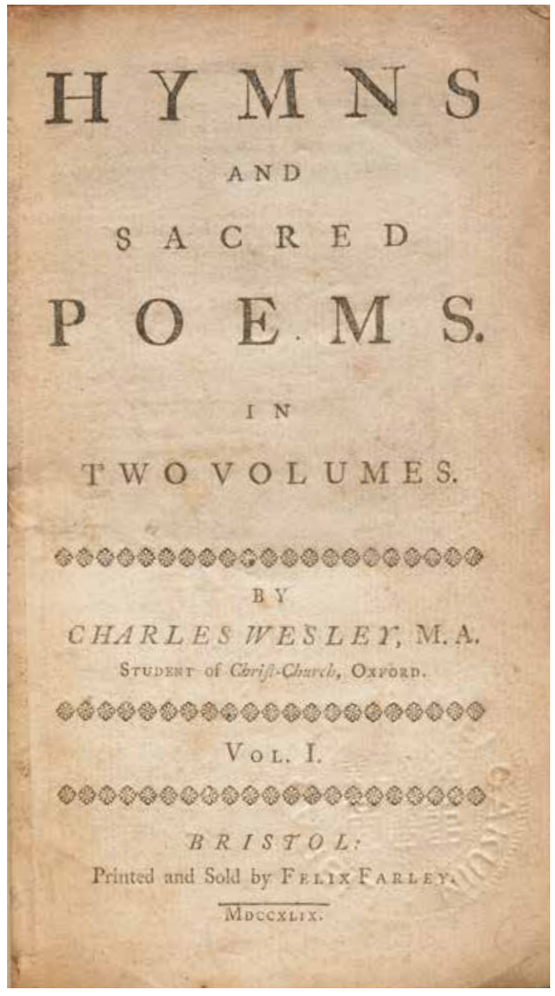
Joyful all ye Nations riſe,
Join the Triumph of the Skies,
Univerſal Nature ſay
"CHRIST the LORD is born to Day!

CHRIST,

28 賛美歌と聖なる詩（1749年）

Hymns and sacred poems

Bristol・Felix Farley・1749



HYMNS
AND
SACRED
POEMS.
IN
TWO VOLUMES.

BY
CHARLES WESLEY, M.A.
STUDENT of *Chriſt-Church*, OXFORD.

VOL. I.

BRISTOL:
Printed and Sold by FELIX FARLEY.
MDCCXLIX.

27 | 28

1739年、36歳のジョン・ウェスレーは野外での説教を始めます。イングランド教会の礼拝堂で説教することを拒否されたからですが、こうして、形骸化した18世紀イギリスのキリスト教を回復させるウェスレーの信仰復興（リバイバル）運動がさらに広範なものになっていきました。No.27は、チャールズとの共同による編著です。この後、メソジストは「歌うメソジスト（Singing Methodists）」と揶揄されるようになりますが、チャールズの詩によってジョンの唱えた信仰理解は人々の心に染みこんでいき、チャールズの賛美歌は「メソジストの信仰の教科書」と評価されるようになります。↗

1739年の初版（No.27）はウェスレー兄弟が編集した3冊目の賛美歌集ですが、1749年の改訂（第4）版（No.28）では、2巻本となり450以上の賛美歌（詞）を収めるほど、内容が充実していきました。ウェスレー兄弟の賛美歌集編纂はその後も続けられ、1780年に出版された『メソジストと呼ばれる人びとが用いるための賛美歌集（*A Collection of Hymns for the Use of the People Called Methodists*）』が、その到達点だと考えられています。

29 新約聖書注解

Explanatory notes upon the New Testament

New York・Phillips & Hunt・18--

CHAP. V. ST. MATTHEW. CHAP. VI

eye for an eye, and a tooth for a tooth: 39 But I say unto you, That ye resist not the evil man: but whosoever shall smite thee on the right cheek, turn to him the other also. 40 And if a man will sue thee, and take away thy coat, let him have thy cloak also. 41 And whosoever shall compel thee to go with him one mile, go with him twain. 42 Give * to him that asketh thee, and from him that would borrow of thee, turn not away.

43 Ye have heard that it hath been said, Thou shalt love thy neighbour, and hate thine enemy: 44 But I say unto you, Love ‡ your enemies, bless them that curse you, do good to them that hate you, and pray for them that despitefully use you and persecute you: 45 That ye may be the children of your Father who is in heaven; for he maketh his sun to rise on the evil and on the good, and sendeth rain on the just and the unjust. 46 For if ye love them that love you, what reward have ye? Do not even the publicans the same? 47 And if ye salute your friends only, what do ye more than others? do not even the heathens so? 48 Therefore ye shall be perfect, as your Father who is in heaven is perfect.

CHAPTER VI.

TAKE heed that ye practice not your righteousness before men, to be seen of them; otherwise ye have no reward from your Father who is in heaven. 2 Therefore when thou doest alms, do not sound a trumpet before thee, as the hypocrites do, in the synagogues, and in the streets, that they may have glory of men. Verily I say unto you, They have their reward. 3 But when

unknown to the scribes and Pharisees. *It hath been said*—In the law, as a direction to judges, in case of violent and barbarous assaults. *An eye for an eye, and a tooth for a tooth*—And this has been interpreted, as encouraging bitter and rigorous revenge.

Verse 39. *But I say unto you, That ye resist not the evil man*—Thus; the Greek word translated "resist," signifies "standing in battle array," "striving for victory." *If a man smite thee on the right cheek*—Return not evil for evil: yea, turn to him the other—Rather than revenge thyself.

Verses 40, 41. Where the damage is not great, choose rather to suffer it, though possibly it may be that occasion be repeated, than to demand "an eye for an eye," to enter into a rigorous prosecution of the offender. The meaning of the whole passage seems to be, rather than return evil for evil, when the wrong is purely personal, submit to one bodily wrong after another, give up one part of your goods after another, submit to one instance of imposition after another. That the words are not literally to be understood, appears from the behaviour of our Lord himself. John xviii. 22, 23.

Verse 42. Thus much for your behaviour toward the violent. As for those who use milder methods, *Give to him that asketh thee*—Give and lend to any as far (not no further, for God never contradicts himself) as is consistent with the requirements to the creditors, thy family, and the household of faith.

Verse 43. *Thou shalt love thy neighbour, and hate thine enemy*—God spake the former part; the scribes added the latter.

Verse 44. *Bless them that curse you*—Speak all the good you can to, and of them, who speak all evil to and of you. Repay love in thought, word, and deed, to those who hate you, and show it both in word and deed.

Verse 45. *That ye may be the children*—That is, that ye may conform and appear such before men and angels. *For he maketh his sun to rise*—He gives them such blessings as they will receive at his hands. Spiritual blessings they will not receive.

Verse 46. *The publicans*—were officers of the revenue, farmers, or receivers of the public money; now employed by the Romans to gather the taxes and customs, which they exacted of the nations they had conquered. These were generally odious for their extortion and oppression, and were reckoned by the Jews as the very scum of the earth.

Verse 47. *And if ye salute your friends only*

—Our Lord probably glances at those projections which different sects had against each other, and intimates, that he would not have his followers imitate that narrow spirit. Would to God this had been more attended to among the unhappy divisions and subdivisions into which his church has been crumbled! And that we might at least advance so far, as cordially to embrace our brethren in Christ, of whatever party or denomination they are!

Verse 48. *Therefore ye shall be perfect, as your Father who is in heaven is perfect*—So the original runs, referring to all that believes which is described in the foregoing verses, which our Lord in the beginning of the chapter recommends as happiness, and in the close of it as perfection.

And how wise and precious is this, to sum up, and, as it were, seal all his commandments with a promise; even the proper promise of the gospel, that he will "put" those "laws in our minds, and write them in our hearts!" He well knew how ready our unbelief would be to cry out, This is impossible! and therefore stakes down it all the power, truth, and faithfulness of Him to whom all things are possible.

Verse 1. In the foregoing chapter our Lord particularly described the nature of sincerely holy men. In this he describes that purity of intention without which none of our outward actions are holy. This chapter contains four parts: 1. The right intention and manner in giving alms, ver. 1-4. 2. The right intention, manner, form, and perseveration of prayer, ver. 5-15. 3. The right intention, and manner of fasting, ver. 16-18. 4. The necessity of a pure intention in all things, unmixed either with the desire of riches, or worldly care, and fear of want, ver. 19-34.

This verse is a general caution against vain glory, in any of our good works: all these are here summed up together, in the comprehensive word *righteousness*. This general caution our Lord applies in the sequel to the three principal branches of it, relating to our neighbour, ver. 2-4; to God, ver. 5, 6; and to ourselves, ver. 16-18.

To be seen—Rarely the being seen, while we are doing any of these things, is a circumstance purely indifferent. But the doing them with this view, to be seen and admired, this is what our Lord condemns.

Verse 2. *As the hypocrites do*—Many of the scribes and Pharisees did this under a pretence of calling the poor together. *They have their reward*—All they will have; for they shall have none from God.

Verse 3. *Let not thy left hand know what thy right hand doeth*—A proverbial expression for

* Luke v, 30. ‡ Lev. xix, 18.
‡ Luke vi, 27, 35.

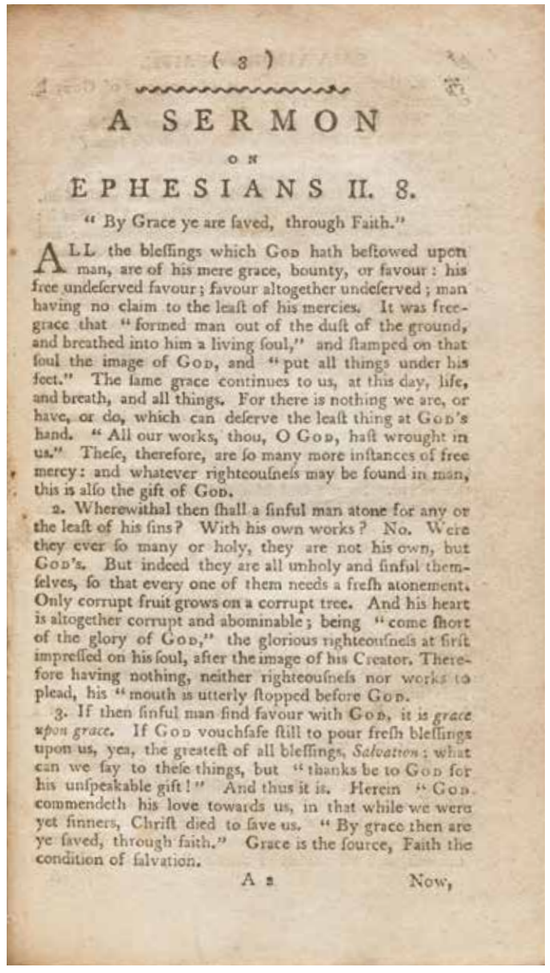
15

メソジストの教理は、ジョン・ウェスレーの『新約聖書注解』と『標準説教』に表されていると言われています。本書は、『新約聖書注解（*Explanatory Notes upon the New Testament*）』（初版1754年）で、19世紀にニューヨークで出版されたものです。新約聖書本文は、ウェスレー自身が原典から訳したものが用いられています。序文では、1742年に出版されたドイツのルター派敬虔主義者ベンゲル（Johann Albrecht Bengel, 1687-1752）による新約聖書の注解書*Gnomon Novi Testamenti*を翻訳・編集し、さらに自身による解説を加えたことが述べられています。彼が心がけたのは、高度な教育を受けていない人でも新約聖書を理解できるように、できるだけ簡単な言葉で解説することでした。そのため、各書のはじめには、その書の概要や主要なテーマについての説明が書かれています。また、ウェスレーは、1765年には『旧約聖書注解』を著しています。

30 説教 信仰による救いについて

A sermon on salvation by faith. 15th ed.

London・Printed for G. Whitfield・1798



(3)

A SERMON

ON

EPHESIANS II. 8.

"By Grace ye are saved, through Faith."

ALL the blessings which God hath bestowed upon man, are of his mere grace, bounty, or favour: his free undeserved favour; favour altogether undeserved; man having no claim to the least of his mercies. It was free-grace that "formed man out of the dust of the ground, and breathed into him a living soul," and stamped on that soul the image of God, and "put all things under his feet." The same grace continues to us, at this day, life, and breath, and all things. For there is nothing we are, or have, or do, which can deserve the least thing at God's hand. "All our works, thou, O God, hast wrought in us." These, therefore, are so many more instances of free mercy: and whatever righteousness may be found in man, this is also the gift of God.

2. Wherewithal then shall a sinful man atone for any or the least of his sins? With his own works? No. Were they ever so many or holy, they are not his own, but God's. But indeed they are all unholy and sinful themselves, so that every one of them needs a fresh atonement. Only corrupt fruit grows on a corrupt tree. And his heart is altogether corrupt and abominable; being "come short of the glory of God," the glorious righteousness at first impressed on his soul, after the image of his Creator. Therefore having nothing, neither righteousness nor works to plead, his "mouth is utterly stopped before God.

3. If then sinful man find favour with God, it is *grace upon grace*. If God vouchsafe still to pour fresh blessings upon us, yea, the greatest of all blessings, *Salvation*; what can we say to these things, but "thanks be to God for his unspeakable gift!" And thus it is. Herein "God commendeth his love towards us, in that while we were yet sinners, Christ died to save us. "By grace then are ye saved, through faith." Grace is the source, Faith the condition of salvation.

A 2 Now,

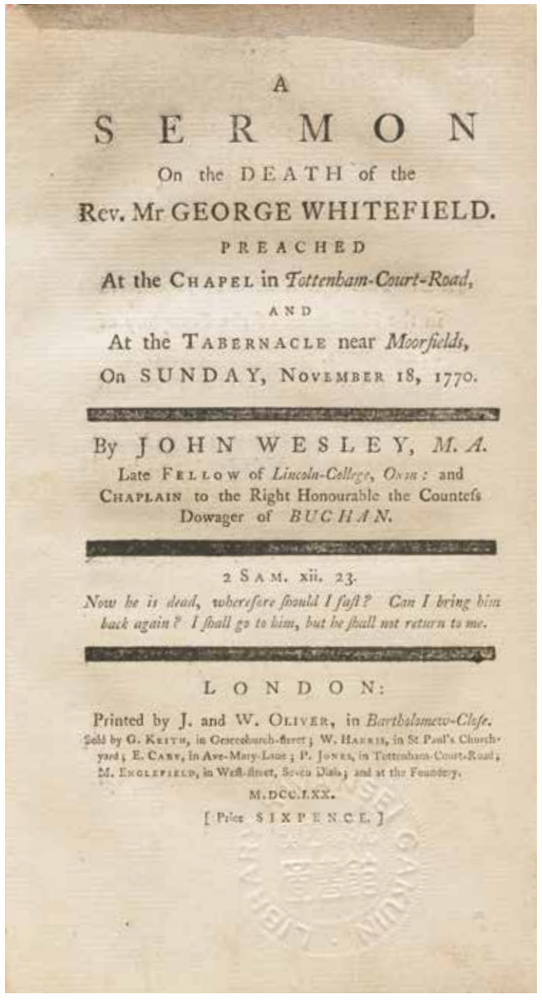
ジョン・ウェスレーは生涯、説教を続けましたが、そのうち52の説教がメソジストの教理を表すものとして、「標準説教（standard sermons）」と呼ばれています。本書に記されているのは「信仰による救いについて」と題された、新約聖書エフェソの信徒への手紙2章8節に基づいたもので、「標準説教」の第1番とされています。オールダーズゲートでの回心（1738年5月24日）直後の6月18日に、オックスフォードの聖マリア教会で行われたもので、大学礼拝で語られたものだと考えられます。初版は1738年に出版され、本書は、 1798年に出版された第15版です。救いをもたらす信仰とはどのようなものか、信仰による救いとは何かについて、聖書からの引用をふんだんに含みながら、平易に、かつ、論理的に語っていきます。大学礼拝という性格もあるのでしょうが、ウェスレーの説教は概して理性的で、簡明なものでした。オックスフォード聖マリア教会のホームページには、ジョン・ウェスレーが、オックスフォード時代に同教会で説教を行ったことが記されています。

http://www.university-church.ox.ac.uk/history.html

31 説教 ジョージ・ホイットフィールド牧師の死にあたって

A sermon on the death of the Rev. Mr. George Whitefield, ...

London・J. and W. Oliver・1770



A

SERMON

On the DEATH of the

Rev. Mr GEORGE WHITEFIELD.

PREACHED

At the CHAPEL in *Tottenham-Court-Road*,

AND

At the TABERNACLE near *Moorfields*,

On SUNDAY, NOVEMBER 18, 1770.

By JOHN WESLEY, *M. A.*

Late FELLOW of *Lincoln-College, Oxon*: and CHAPLAIN to the Right Honourable the Countess Dowager of *BUCHAN*.

2 SAM. xii. 23.

Now he is dead, wherefore should I fast? Can I bring him back again? I shall go to him, but he shall not return to me.

LONDON:

Printed by J. and W. OLIVER, in *Bartholomew-Close*.

Sold by G. KEITH, in Gracechurch-street; W. HARRIS, in St Paul's Church-yard; E. CABY, in Ave-Mary-Lane; P. JONES, in Tottenham-Court-Road; M. ENGLEFIELD, in West-street, Seven Dials; and at the Foundery.

M.DCC.LXX.

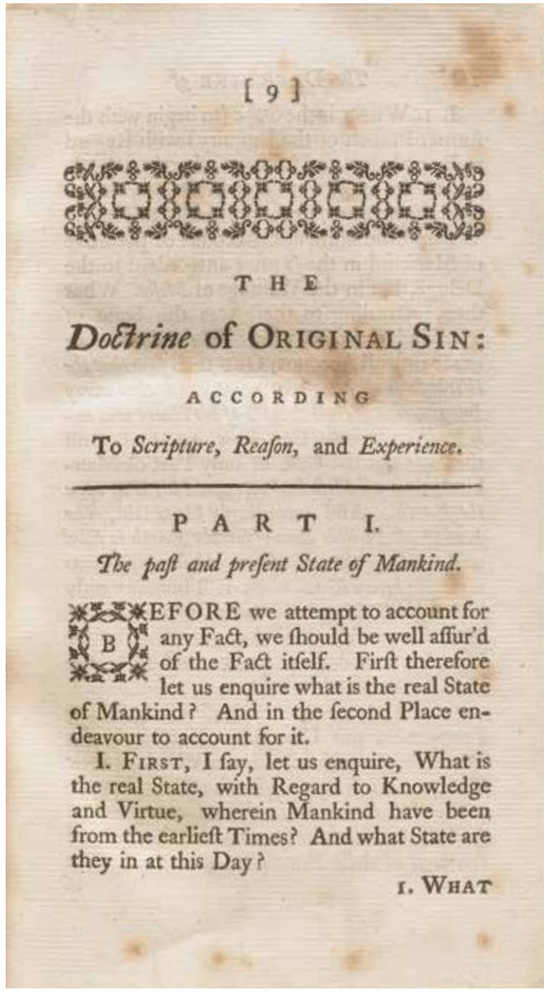
[Price SIXPENCE.]

ジョージ・ホイットフィールド（George Whitefield, 1714-1770）は、ウェスレー兄弟とともにメソジスト運動の創始者のひとりであり、特にアメリカ植民地への伝道で重要な役割を果たしました。兄弟とはオックスフォード大学のホーリークラブで親しくなり、ともに当時のキリスト教を改革する道を志します。ホイットフィールドは説教に長け、その弁説に涙しあるいは気を失ってしまう信者もいたと言われています。ホイットフィールド自身は予定説（No.33参照）を採っていたため、ウェスレー兄弟と袂を分かちます。しかし、本書に示されているように、親交は絶えることなく、ホイットフィールドの葬儀にあたっては、遺言によりジョンが説教し、チャールズは賛美歌を作っています。

32 原罪の教理：聖書、理性、経験に基づいて

The doctrine of original sin : according to scripture, reason, and experience

Bristol・E. Farley・1757



[9]

THE

Doctrine of ORIGINAL SIN:

ACCORDING

To *Scripture, Reason,* and *Experience.*

PART I.

The past and present State of Mankind.

BEFORE we attempt to account for any Fact, we should be well assur'd of the Fact itself. First therefore let us enquire what is the real State of Mankind? And in the second Place endeavour to account for it.

I. FIRST, I say, let us enquire, What is the real State, with Regard to Knowledge and Virtue, wherein Mankind have been from the earliest Times? And what State are they in at this Day?

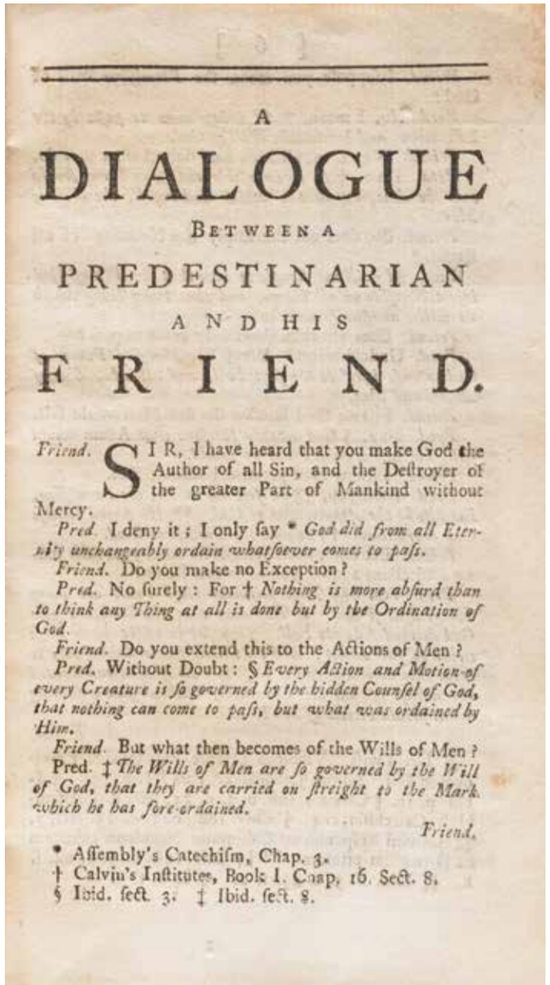
1. WHAT

ジョン・ウェスレー 54才の時の著作である本書は、ノリッジの非国教会派の牧師であったジョン・テイラー（John Taylor, 1694-1761）の、やはり原罪についての著作『原罪に関する聖書の教理（*The Scripture Doctrine of Original Sin*）』（1740年、1741年第2版）に対する応答として書かれたものです。ジョン・ウェスレーは、テイラーの学識を高く評価しながらも、その教説を「古い理神論が新しい装いで現れたもの（old Deism in a new dress）」と厳しく批判しています。ウェスレーは、人間を「完全に堕落した状態」にあるととらえ、信仰を持つのにも、それに「先行する恵み」が必要であると考えています。イエス・キリストの贖いによってのみ「義」と認められるとするキリスト教の教義をさらに強調したと言えるでしょう。本書のタイトルに掲げられた「聖書」「理性」「経験」は、「伝統」と共に、ウェスレーの神学において重要な要素であると考えられています。

33 予定論者とその友人との対話

A dialogue between a predestinarian and his friend. **2nd ed. corrected and enlarged**

London・W. Strahan・1741



A

DIALOGUE

BETWEEN A

PREDESTINARIAN

AND HIS

FRIEND.

Friend. SIR, I have heard that you make God the Author of all Sin, and the Destroyer of the greater Part of Mankind without Mercy.

Pred. I deny it; I only say * *God did from all Eternity unchangeably ordain whatsoever comes to pass.*

Friend. Do you make no Exception?

Pred. No surely: For † *Nothing is more absurd than to think any Thing at all is done but by the Ordination of God.*

Friend. Do you extend this to the Actions of Men?

Pred. Without Doubt: § *Every Action and Motion of every Creature is so governed by the hidden Counsel of God, that nothing can come to pass, but what was ordained by Him.*

Friend. But what then becomes of the Wills of Men?

Pred. ‡ *The Wills of Men are so governed by the Will of God, that they are carried on straight to the Mark which he has fore-ordained.*

Friend.

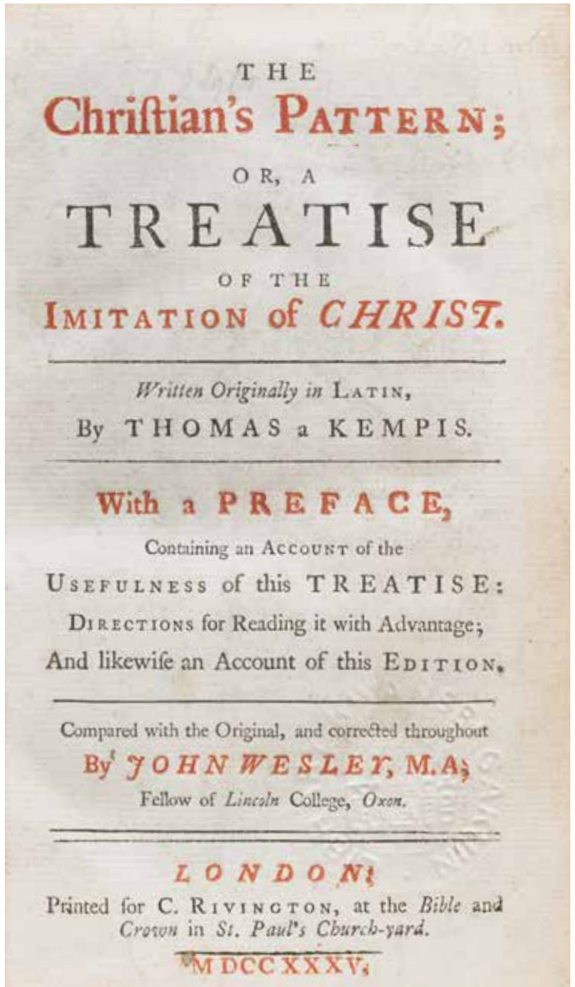
* Assembly's Catechism, Chap. 3.
† Calvin's Institutes, Book 1. Chap. 16. Sect. 8.
§ Ibid. sect. 3. ‡ Ibid. sect. 8.

17世紀末に出版された『ある長老派信者とバプテスト派信者のあいだの対話』をもとに出版された書物です。本書は改訂増補された第2版で、その後も版を重ねました。ジョン・ウェスレーは、イングランド教会に大きな影響を与えたカルヴァン（Jean Calvin, 1509-1564）の教説に尊敬を払い、大きく影響を受けながらも、その「二重予定説」（世界の始まる前から、救いに予定されている人と、滅びに予定されている人があるとする説）には強く反対しました。ヤコブス・アルミニウス（Jacobus Arminius, 1560-1609）の主張に沿って、万人の救済と救いを受け入れる意志の重要性を主張するようになります。1778年から発刊された雑誌を、ジョン・ウェスレーは『アルミニウス主義雑誌（*The Arminian Magazine*）』と名付けるほどでした。

34 キリスト者の手本：あるいは、キリストに倣いて

The Christian's pattern, or, A treatise of the Imitation of Christ

London・Printed for C. Rivington・1735



THE

Christian's PATTERN;

OR, A

TREATISE

OF THE

IMITATION of CHRIST.

Written Originally in LATIN,

By THOMAS a KEMPIS.

With a PREFACE,

Containing an ACCOUNT of the

USEFULNESS of this TREATISE:

DIRECTIONS for Reading it with Advantage;

And likewise an Account of this EDITION.

Compared with the Original, and corrected throughout

By JOHN WESLEY, M.A.

Fellow of *Lincoln* College, *Oxon.*

LONDON:

Printed for C. RIVINGTON, at the *Bible* and *Crown* in *St. Paul's Church-yard.*

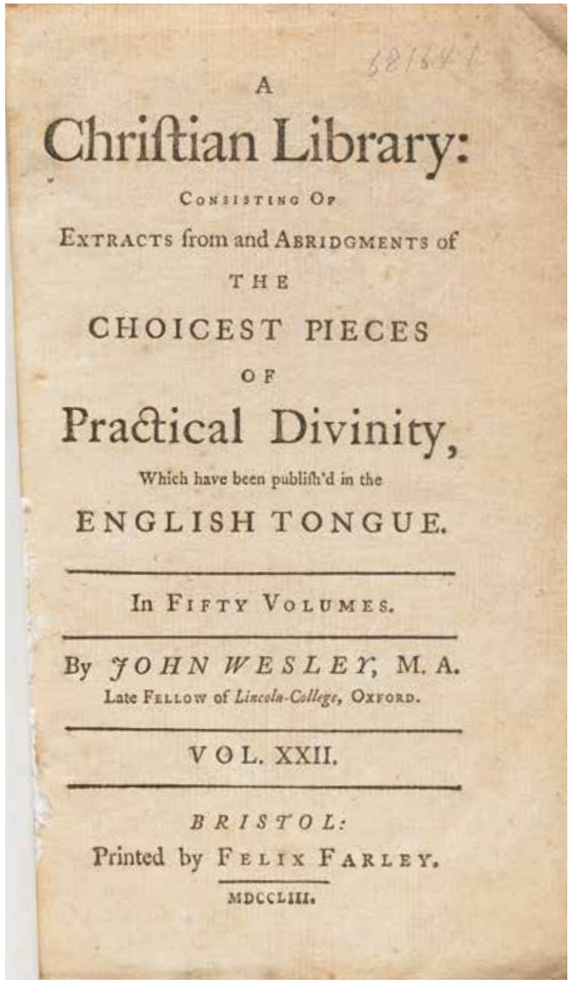
MDCCXXXV.

本書は、15世紀の宗教思想家トマス・ア・ケンピス（Thomas à Kempis, ca.1379-1471）の著作『キリストに倣いて（*De imitatione Christi*）』のジョン・ウェスレーによる翻訳です。本書が出版された1735年は、やはりイングランド教会の司祭であった父サミュエル・ウェスレー（Samuel Wesley, 1662-1735）が亡くなり、ジョン・ウェスレー自身もジョージアなど各地への伝道を始めた年です。『キリストに倣いて』は、宗教改革以前にはキリスト教信者のあいだで最も広く読まれ、キリスト教徒としての日々の営みの手引きのひとつとして用いられていました。ジョン・ウェスレーは本書に大きく影響を受けており、翻訳にあたっては、彼自身が全面的に校訂を施しています。

35 キリスト教徒のための文庫（全50巻のうち第22巻）

A Christian Library, v. 22

Bristol・Felix Farley・1753



A
Christian Library:
CONSISTING OF
EXTRACTS from and ABRIDGMENTS of
THE
CHOICEST PIECES
OF
Practical Divinity,
Which have been publish'd in the
ENGLISH TONGUE.

In FIFTY VOLUMES.

By *JOHN WESLEY*, M. A.
Late FELLOW of *Lincoln-College*, OXFORD.

VOL. XXII.

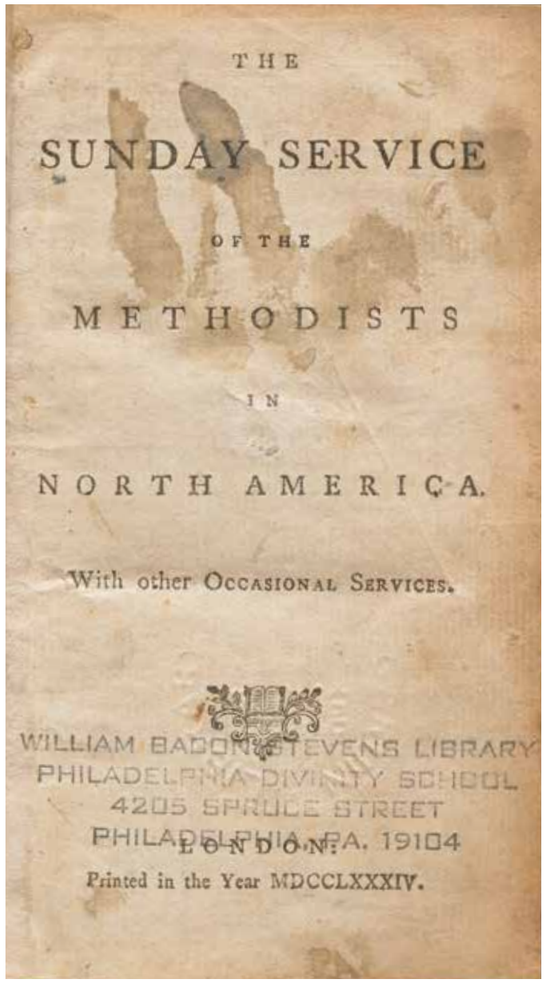
BRISTOL:
Printed by FELIX FARLEY.
MDCCLIII.

ジョン・ウェスレーは、キリスト教徒としての信仰生活を送る（practical divinity）ためには宗教的な知識の向上が不可欠であると考え、信仰に関する書物を読むことを推奨しました。そして、メソジスト・ソサエティーのメンバーのために神学書や信仰書の抜粋を、1749年から1755年の間に *A Christian Library* 叢書として編集し、全50巻を出版しました。その中には、同時代の信仰書や説教の他、使徒教父文書と呼ばれる「クレメンスの手紙」や「イグナティウスの手紙」、殉教者たちの評伝なども含まれていました。本書には、「結婚した人びとの手引き」と「サンダーソン主教の著作からの抜粋」が載せられています。

36 北アメリカにおけるメソジストの日曜礼拝

The Sunday service of the Methodists in North America

London・1784



THE
SUNDAY SERVICE
OF THE
METHODISTS
IN
NORTH AMERICA.

With other OCCASIONAL SERVICES.

WILLIAM BADDOCK STEVENS LIBRARY
PHILADELPHIA DIVINITY SCHOOL
4205 SPRUCE STREET
PHILADELPHIA, PA. 19104

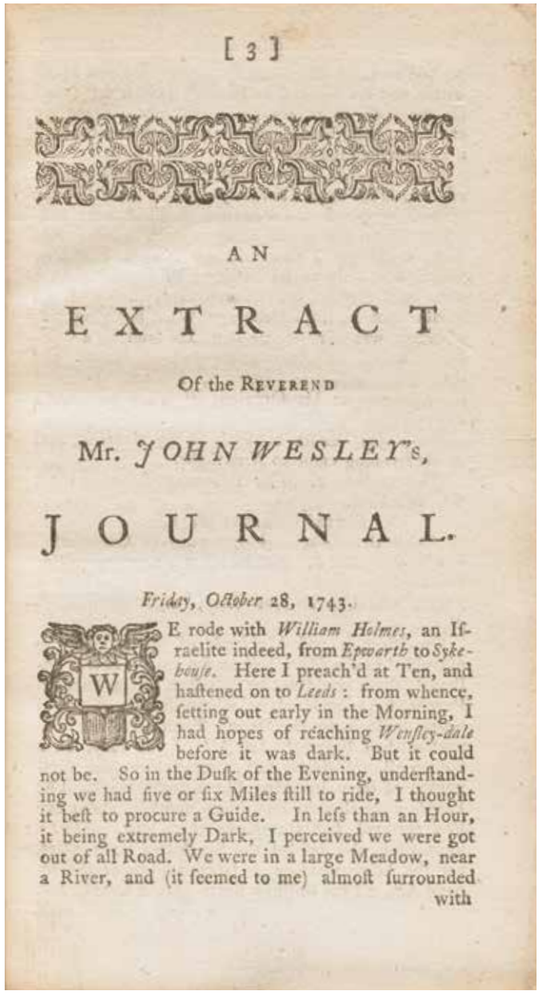
LONDON:
Printed in the Year MDCCLXXXIV.

1735年のジョージア州伝道は成功とは言い難く、ジョン・ウェスレーは失意の帰国をしましたが、その後、メソジスト・ソサエティーのメンバーがアメリカに渡っていくことになります。ウェスレーはこれらの人々のために、イングランド教会から司祭を送るよう要請しますが、拒否されたため、トーマス・コーク（Thomas Coke, 1747-1814）をアメリカにおけるメソジスト・ソサエティーの「監督」（superintendent）として派遣します。アメリカのメソジストは、1784年にメソジスト監督教会（The Methodist Episcopal Church）を組織します。ウェスレーは、イギリスではメソジスト・ソサエティーがイングランド教会から離脱することに強く反対していましたが、アメリカでの独立は認め、アメリカのメソジストのために、イングランド教会の『祈祷書』（No.25参照）を改訂して本書を出版し、また、イングランド教会の教えが要約されている「39箇条」を改訂して独自の「25箇条」を作成し、送ります。本書は、同年出版の *A Collection of Psalms and Hymns for the Lord's Day* と合本になったもので、日曜日（「主日」the Lord's day）の礼拝をこの1冊で行えるようになっています。

37 ジョン・ウェスレーの日誌

An extract of the Revd. Mr. John Wesley's journal

Bristol・Felix Farley...・1749-1754



[3]

AN

EXTRACT

Of the REVEREND

Mr. JOHN WESLEY's,

JOURNAL.

Friday, October 28, 1743.

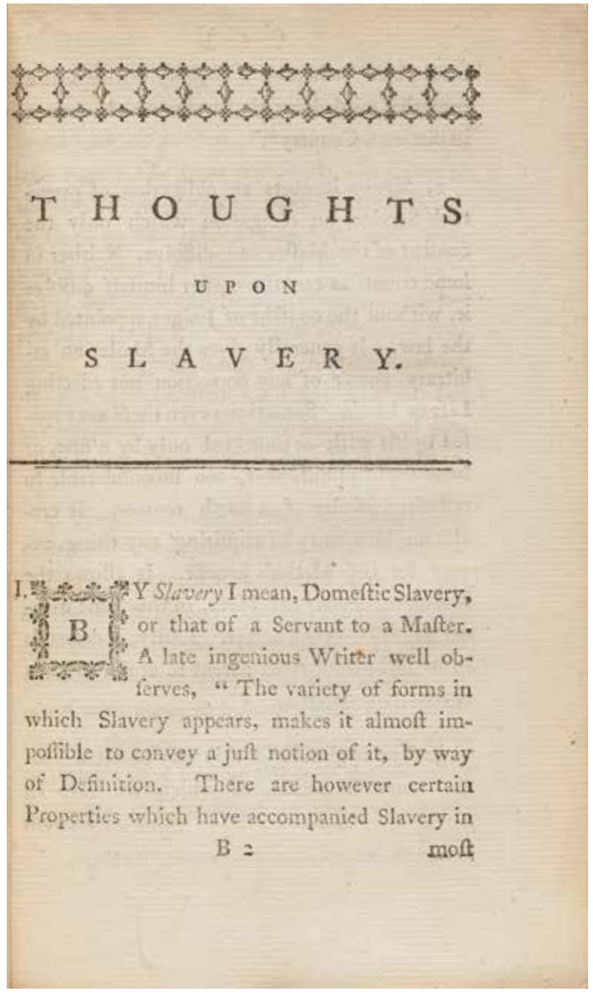
WE rode with *William Holmes*, an Iſraelite indeed, from *Epworth* to *Sykehouſe*. Here I preach'd at Ten, and haſtened on to *Leeds*: from whence, ſetting out early in the Morning, I had hopes of reaching *Wenſley-dale* before it was dark. But it could not be. So in the Duſk of the Evening, underſtanding we had five or ſix Miles ſtill to ride, I thought it beſt to procure a Guide. In leſs than an Hour, it being extremely Dark, I perceived we were got out of all Road. We were in a large Meadow, near a River, and (it ſeemed to me) almoſt ſurrounded with

ジョン・ウェスレーは88年におよぶ生涯のうち、伝道をはじめた32才（1735年）の頃から死の4ヶ月前にあたる1790年10月24日までの55年間、日々の詳細な記録を『日誌』に書き記していました。ウェスレーはこの『日誌』からの抜粋を自ら編集し、1740年から1789年にかけて出版しました。その目的は、ウェスレーとメソジスト・ソサエティーに対する中傷や誹謗を鎮めるためであったと考えられています。内容は、主に、自分の伝道とメソジスト・ソサエティーの活動についてですが、オールダーズゲートにおける回心についての有名な記述も含まれています。また、ヘンデル《メサイア》の演奏会を聴きに行った感想も記されています。今回展示している『日誌』3冊には、1741年9月3日から1750年7月20日までの記述が含まれており、はじめて開かれたメソジスト協議会（1744年6月25日～30日）の様子も記されています。

38 奴隷制度についての論考

Thoughts upon slavery

London・R. Hawes・1774



THOUGHTS

UPON

SLAVERY.

I. BY *Slavery* I mean, Domeſtic Slavery, or that of a Servant to a Maſter. A late ingenious Writer well obſerves, "The variety of forms in which Slavery appears, makes it almoſt impoſſible to convey a juſt notion of it, by way of Definition. There are however certain Properties which have accompanied Slavery in

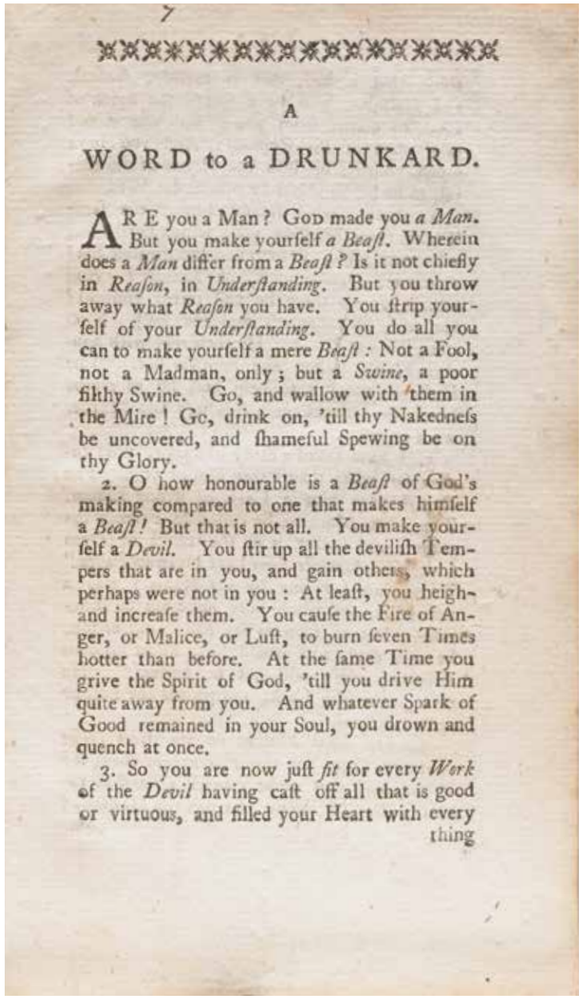
B 2 moſt

ジョン・ウェスレーは、奴隷貿易に反対していました。本書では、アフリカから連行された奴隷たちがどれほど酷い扱いをされているか詳細に述べた後、アフリカ人にもイギリス人と同じ権利があることを説いて、奴隷貿易や奴隷の所有を「悪行（villainy）」と批判します。さらに、キリスト教徒としての倫理に基づいて、奴隷を解放し、奴隷貿易を終わらせるよう、強い調子で勧めます。このウェスレーの思想は、イギリスが奴隷貿易を廃止するよう運動を指導した国会議員、ウィリアム・ウィルバーフォース（William Wilberforce, 1759-1833）にも大きく影響を与えました。このように、ウェスレーは徹底した奴隷制度廃止論者でした。アメリカのメソジスト監督教会が奴隷制度の是非をめぐって1844年に南北に分裂したのは皮肉なことでした（メソジスト監督教会は1939年に再合同される）。

39 大酒飲みへの言葉

A word to a drunkard

17--



A

WORD to a DRUNKARD.

ARE you a Man? God made you *a Man*. But you make yourself *a Beast*. Wherein does a *Man* differ from a *Beast*? Is it not chiefly in *Reason*, in *Underſtanding*. But you throw away what *Reason* you have. You ſtrip yourſelf of your *Underſtanding*. You do all you can to make yourſelf a mere *Beaſt*: Not a Fool, not a Madman, only; but a *Swine*, a poor filthy Swine. Go, and wallow with them in the Mire! Go, drink on, 'till thy Nakedneſs be uncovered, and ſhameful Spewing be on thy Glory.

2. O how honourable is a *Beaſt* of God's making compared to one that makes himſelf a *Beaſt*! But that is not all. You make yourſelf a *Devil*. You ſtir up all the deviliſh Tempers that are in you, and gain others, which perhaps were not in you: At leaſt, you heighand increaſe them. You cauſe the Fire of Anger, or Malice, or Luſt, to burn ſeven Times hotter than before. At the ſame Time you grive the Spirit of God, 'till you drive Him quite away from you. And whatever Spark of Good remained in your Soul, you drown and quench at once.

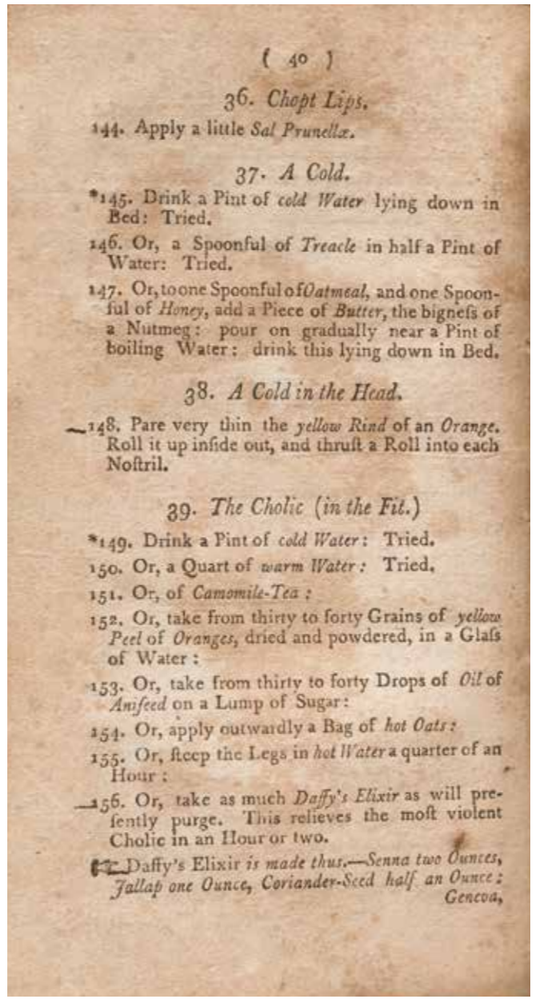
3. So you are now juſt *fit* for every *Work* of the *Devil* having caſt off all that is good or virtuous, and filled your Heart with every thing

本書は、日付、著者、印刷者の記載はありませんが、ジョン・ウェスレーの著作として知られており、大酒飲みを「獣」や「悪魔」にたとえて、その行いを改めるよう諭しています。4ページの小さな印刷物ですが、他のメソジストのパンフレット(「トラクト」)と同様、巡回説教者によって各地に配布されたと考えられます。ウェスレーは、メソジスト・ソサエティーに対して、特に蒸留酒を医療の目的以外に使うことを厳しく戒めたり、説教において、酒の中には「毒がある」のでそれを捨てるよう勧めています(「人びとの生き方の転換について(On Public Diversions)」)。生活のすべてにおいて信仰を実践すること(practical divinity)を大きな目的としていたウェスレーにとって、飲酒によって生活が乱されることは、すなわち、信仰生活を危うくするものと考えられたのでしょう。

40 医学基礎:あるいは、ほとんどの病気を治すための、簡単で自然な方法

Primitive physic, or, An easy and natural method of curing most diseases. 20th ed.

London・J. Paramore・1781?



(40)

36. *Chopt Lips.*

144. Apply a little *Sal Prunellæ*.

37. *A Cold.*

*145. Drink a Pint of *cold Water* lying down in Bed: Tried.

146. Or, a Spoonful of *Treacle* in half a Pint of Water: Tried.

147. Or, to one Spoonful of *Oatmeal*, and one Spoonful of *Honey*, add a Piece of *Butter*, the bigneſs of a Nutmeg: pour on gradually near a Pint of boiling Water: drink this lying down in Bed.

38. *A Cold in the Head.*

148. Pare very thin the *yellow Rind* of an *Orange*. Roll it up inſide out, and thruſt a Roll into each Noſtril.

39. *The Cholic (in the Fit.)*

*149. Drink a Pint of *cold Water*: Tried.

150. Or, a Quart of *warm Water*: Tried.

151. Or, of *Camomile-Tea*;

152. Or, take from thirty to forty Grains of *yellow Peel* of *Oranges*, dried and powdered, in a Glaſs of Water:

153. Or, take from thirty to forty Drops of *Oil* of *Aniſeed* on a Lump of Sugar:

154. Or, apply outwardly a Bag of *hot Oats*:

155. Or, ſteep the Legs in *hot Water* a quarter of an Hour:

156. Or, take as much *Daffy's Elixir* as will preſently purge. This relieves the moſt violent Cholic in an Hour or two.

☞ Daffy's Elixir *is made thus.—Senna two Ounces, Jallap one Ounce, Coriander-Seed half an Ounce; Genova,*

ジョン・ウェスレーは、説教やメソジスト・ソサエティーにおける活動とともに、貧しい人々に対する医療活動にも精力的に取り組み、特に電気治療に強い関心を持っていました。本書には、200以上のさまざまな病気に対して、700以上もの治療法が挙げられています。本書は、何度も改訂され、出版され続けました。身体の状態は信仰生活にとって重要であるとの思想から、病気を治すことは単に身体を健康にするだけでなく、信仰生活を送るのに十分な状態を保つことだと考えられたのです。決して豊かでない人々が、医者にかからず、「簡単に自然に(easy and natural)」病気を治せるようその方法を示すことは、単に人々の福祉を目指しただけではなく、信仰上の意味合いもあったのです。

V

日本語聖書と排耶論

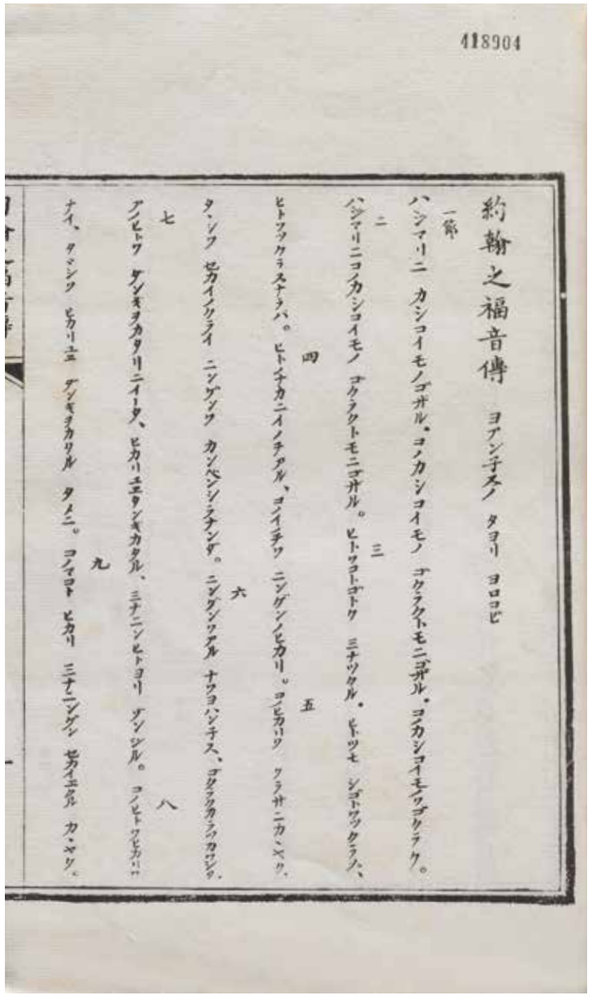
19世紀後半において、日本は、世界で最も識字率の高い国であり、独自の印刷技術（木版印刷）も発達していました。宣教師たちは、ヨーロッパ、アメリカでのように、文書を用いた宣教を日本でも行おうとしましたが、それは、日本におけるキリスト教受容のかたちにも影響を与えることとなりました。文書によってキリスト教への理解を広めようとしたことで、知識階級、主として士族が、キリスト教を受け入れた中心的な層となり、キリスト教は「学ぶもの」となったのです。

宣教は日本に先だって中国で行われており、聖書や他のキリスト教関係書籍はすでに中国語で出版されていました。そのため、中国語聖書に訓点を付けて日本語として読めるようにしたものが出版されたり、翻訳の際に中国語聖書の訳語（例えば、「歴代誌」や「雅歌」などの書名）が用いられるなど、キリスト教の受容そのものにも中国での宣教の影響が大きく見られます。

一方、キリスト教に反対した人々も、キリスト教を信じたのと同じ士族の人々でした。彼らも書物を著すことで、その主張を世に広めようとしました。

41 約翰福音之傳（復刻版）

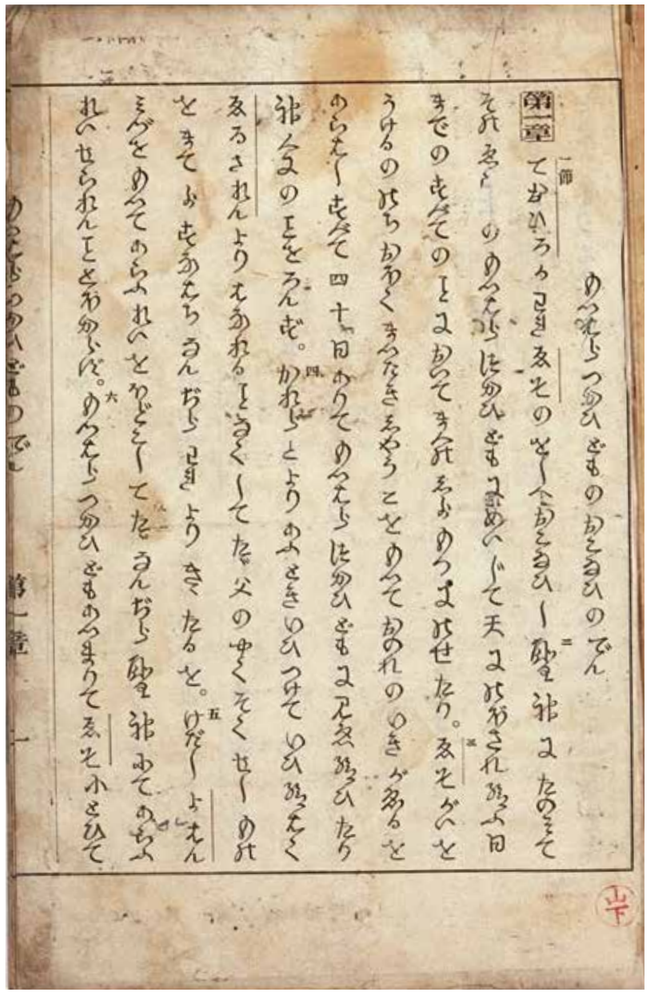
東京・新教出版社・1976



本書は、現存するものとしては初めて日本語に翻訳された聖書として知られている、『約翰福音之傳』（ヨハネによる福音書）の復刻版です。ドイツ人宣教師ギュツラフ（Karl Friedrich August Gützlaff, 1803-1851）により翻訳され、1837年に出版されました。鎖国下の日本へのキリスト教伝道の機をうかがっていたギュツラフは、漂流難民であった尾張（現在の愛知県）出身の日本人少年3人の協力をうけ、マカオにおいて、この事業を成し遂げました。同じギュツラフによる翻訳書『約翰上中下書』（ヨハネの手紙一、二、三）とともに、シンガポールのアメリカン・ボード（American Board of Commissioners for Foreign Missions）の印刷局であった「堅夏書院」からおよそ1500部が印刷されたと言われています。

42 使徒行傳

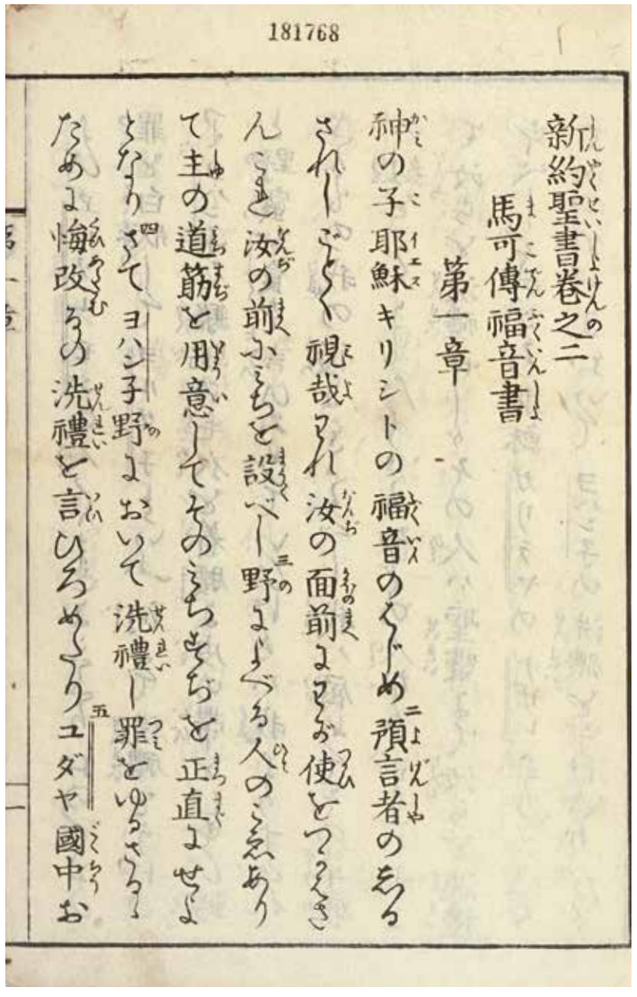
ウィーン ・ アドルフ・ホルツハウゼン ・ 1874?



ハンガリー出身で英国海軍所属の宣教師で、医師でもあったベッテルハイム（Bernard J. Bettelheim, 1811-1870）は、香港でギュツラフと出会います。彼はギュツラフから鎖国下の日本伝道への志を受け継ぎ、1846年に家族とともに当時半独立国であった琉球に上陸します。ベッテルハイムは、那覇近郊の寺院に住み込んで街頭での伝道を行い、聖書の翻訳に取り組みました。そして、1855年に『路加傳福音書』（ルカによる福音書）などを香港で出版しました。ベッテルハイムはその後も漢日対訳聖書の作成を手がけ、その死後に夫人らの努力でオーストリアの東洋学者プィッツマイアー（August S. Pfizmaier, 1808-1887）の手に渡った原稿が、ウィーン版として出版されました。本書はそのうちの1冊で、ウィーンのアドルフ・ホルツハウゼン（Adolf Holzhauzen）印刷所で1874（明治7）年に出版されました。独特な平仮名書きに、協力者で万葉学者であったプィッツマイアーの影響が感じられます。

43 馬可傳福音書

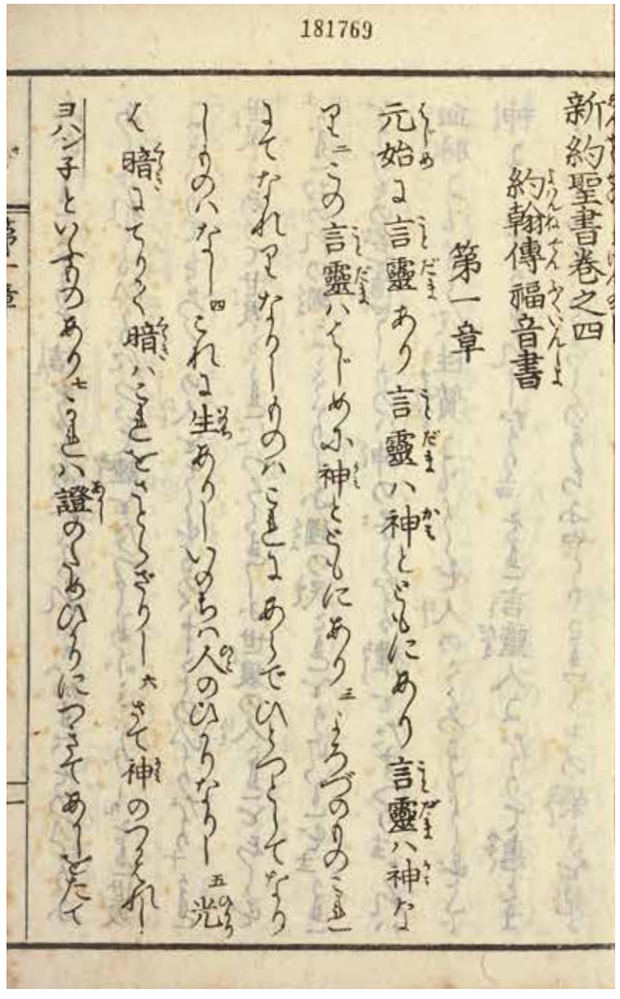
横濱・米國聖書會社・1872


181768

新約聖書卷之二
馬可傳福音書
第一章
神の子耶蘇キリストの福音のくだめ預言者のもる
されーごとく視哉われ汝の面前よりおのれ使をつかさ
んこと汝の前ふちを設べし野よりぐる人のこえあり
て主の道筋を用意してその路をなおくせよ
なりさてヨハネ子野よりおいて洗禮し罪をゆるさるる
ためよ悔改るの洗禮と言ひろめたりユダヤ國中お

44 約翰傳福音書

横濱・米國聖書會社・1872


181769

新約聖書卷之四
約翰傳福音書
第一章
元始に言靈あり言靈ハ神とともにあり言靈ハ神な
りこの言靈ハくだめふ神とともにあり万づのものこと
もそなれりなりものハことごとくこれによりてなりて
しものハなしこれに生ありしいのちハ人のひかりなりー五光
く暗きてりく暗ハこれをさとらざりー六さて神のつかれ
ヨハネ子といふものありきこれハ證のためにつかれあ

アメリカの長老派教会系宣教師ヘボン（James Curtis Hepburn, 1815-1911）と、同じくアメリカのオランダ改革派宣教師ブラウン（Samuel R. Brown, 1810-1880）が共同で翻訳したマルコによる福音書とヨハネによる福音書です。ヘボンは、近代日本の日本語聖書の歴史において最も重要な人物であると同時に、日本最初の和英辞典『和英語林集成』の出版（1867年）や、ヘボン式ローマ字など↗でも知られています。シンガポールで知り合った2人はそれぞれ、1859年に来日しました。2人とも来日以前に、中国での宣教の経験や漢文の素養があったため、すでに翻訳されていた中国語聖書を改稿し日本語聖書を準備しました。これらは日本国内において、キリスト教禁制が解かれる1873（明治6）年以前に出版されました。

45 クンテンキュウヤクセイショソウセイキ：カン 訓點舊約聖書創世記：完

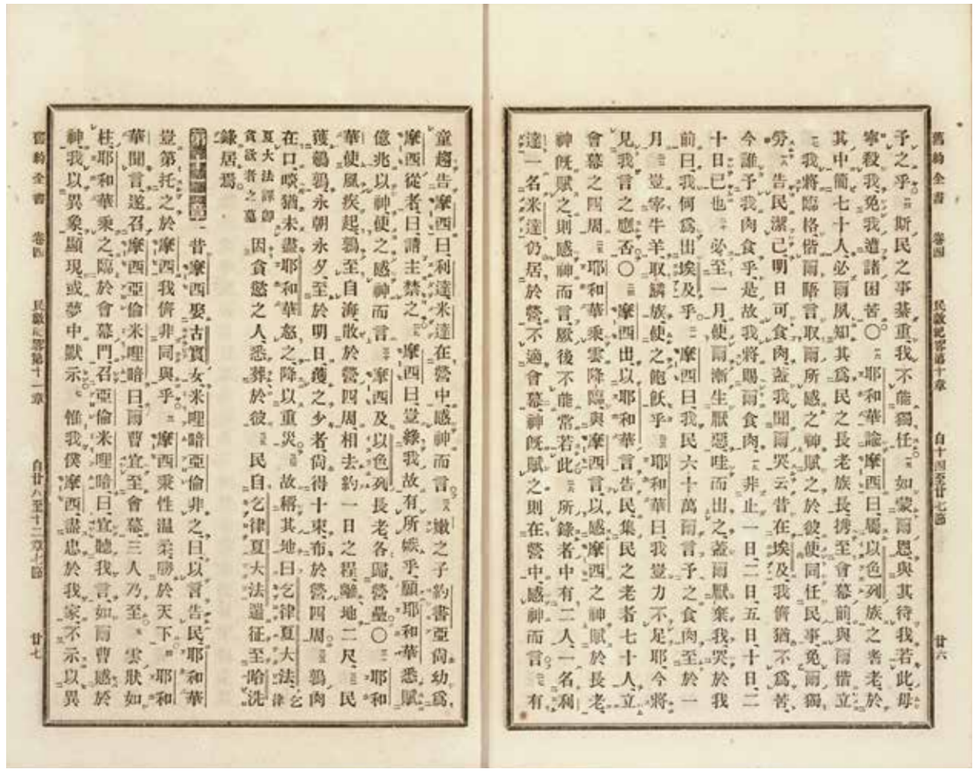
横濱・米國聖書會社・1881

舊約全書創世記

第一章 大初之時神創造天地。地乃虛曠淵際晦冥神之靈煦育乎水面。神曰宜有光卽有光。神視光爲善遂判光暗。謂光爲晝謂暗爲夜有夕有朝是乃首日○ 神曰宜有穹蒼使上下之水相隔。遂作穹蒼而上下之水截然中斷有如此也。神謂穹蒼爲天有夕有朝是乃二日○ 神曰天下諸水宜匯一區使陸地顯露有如此也。神謂陸地爲塊謂水匯爲海神視之爲善。神曰地宜生草蔬結實樹生菓菓懷核各從其類有如此也。地遂生草蔬結實樹生菓菓懷核各從其類神視之爲善。有夕有朝是乃三日○ 神曰穹蒼宜輝光衆著以分晝夜以定四時以記年日光麗於天照臨於地有如此也。神造二耿光大以理晝小以理夜亦造星辰以理晝夜以分明晦神視之爲善。有夕有朝是乃四日○ 神曰水必滋生生物鱗蟲畢具鳥飛於地戾於穹蒼遂造巨魚暨水中所

46 クンテンキュウヤクセイショミンスウキリャク：カン 訓點舊約聖書民數紀略：完

横濱・北英國聖書會社・1882



舊約全書 卷四 民數紀略第十一章 自十四至廿七節 廿六

子之乎。斯民之爭葬重我不能獨任。如蒙爾恩與其待我若此毋寧殺我免我遭諸困苦。○ 耶和華諭摩西曰屬以色列族之耆老於其中簡七十人必爾夙知其爲民之長老族長携至會幕前與爾借立我將臨格俯爾聽言取爾所感之神賦於彼使同任民事免爾獨勞。告民潔己明日可食肉蓋我聞爾哭云昔在埃及我曾猶不爲苦今誰予我肉食乎是故我將賜爾食肉非止一日二日五日十日二十日已也。爾必至一月使爾漸生厭惡哇而出之蓋爾黨棄我哭於我前曰我何爲出埃及乎。摩西曰我民六十萬丁予之食肉至於一月豈宰牛羊取鱗族使之飽飫乎。耶和華曰我豈力不足耶今將見我言之應否○ 摩西出以耶和華言告民集民之老者七十人立會幕之四周。耶和華乘雲降臨與摩西言以感摩西之神賦於長老神既賦之則感神而言厥後不能常若此。所錄者中有二人一名利達一名米達仍居於營不適會幕神既賦之則在營中感神而言。有童趨告摩西曰利達米達在營中感神而言。摩西從者曰請主禁之。摩西曰豈緣我故有所嫉乎願耶和華悉賦民億兆以神使之感神而言。摩西及以色列長老各赴營壘○ 耶和華使風疾起鵪至自海散於營四周相去約一日之程離地二尺民獲鵪鶉永朝永夕至於明日獲之少者尚得十束布於營四周。鵪肉在口嚙猶未盡耶和華怒之降以重災。故稱其地曰乞律夏大法譯卽貪慾者之墓因貪慾之人悉葬於彼。民自乞律夏大法遷征至哈洗

舊約全書 卷四 民數紀略第十二章 自廿八至十二節 廿七

童趨告摩西曰利達米達在營中感神而言。摩西從者曰請主禁之。摩西曰豈緣我故有所嫉乎願耶和華悉賦民億兆以神使之感神而言。摩西及以色列長老各赴營壘○ 耶和華使風疾起鵪至自海散於營四周相去約一日之程離地二尺民獲鵪鶉永朝永夕至於明日獲之少者尚得十束布於營四周。鵪肉在口嚙猶未盡耶和華怒之降以重災。故稱其地曰乞律夏大法譯卽貪慾者之墓因貪慾之人悉葬於彼。民自乞律夏大法遷征至哈洗

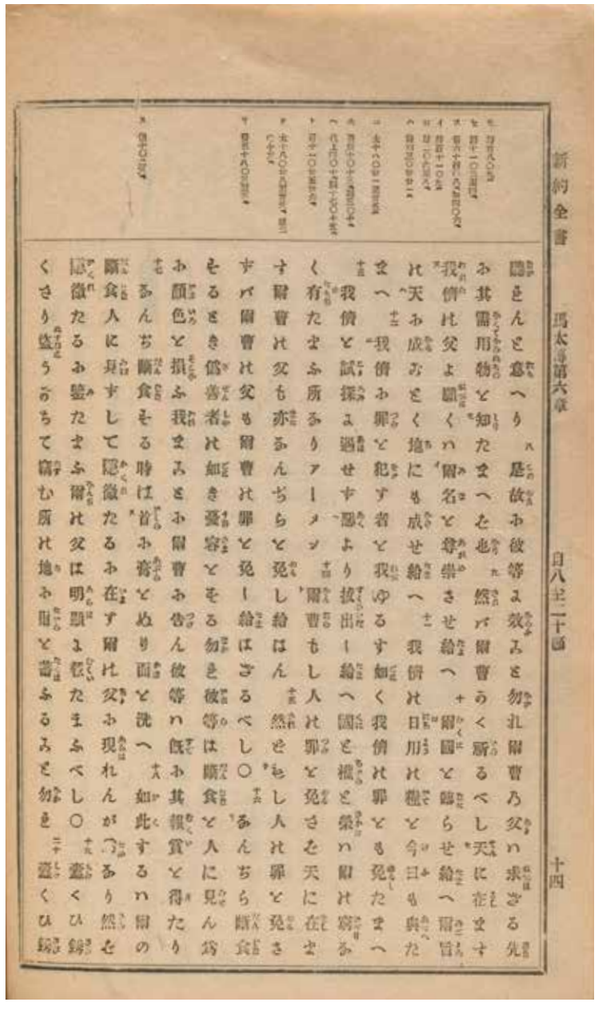
昔摩西娶古實女米哩暗亞倫非之曰以言告民耶和華豈第托之於摩西我倩非同與乎。摩西乘性溫柔勝於天下。耶和華聞言遂召摩西亞倫米哩暗曰爾曹宜至會幕三人乃至。雲狀如柱耶和華乘之臨於會幕門召亞倫米哩暗曰宜聽我言如爾曹感於神我以異象顯現或夢中默示。惟我僕摩西盡忠於我家不示以異

45｜46

これらは、訓点がほどこされた漢文旧約聖書の創世記と民数記です。日本に来た宣教師のほとんどがすでに中国伝道の経験があり、また当時の日本では漢文の素養がある知識人（士族階級）が数多くいたことから、初期においては、日本語の翻訳よりも、返り点を打った訓点付漢文聖書のほうが求められていました。時代を経るにつれて、漢文を書き下したかたちで日本語聖書が出版されることになります。これらの訓点付漢文聖書の底本には、バプテスト派のブリッジマン（Elijah C. Bridgman, 1801-1861）およびカルバートソン（Michael S. Culbertson, 1819-1862）により翻訳された中国語聖書が用いられています。中国語聖書の翻訳にあたっては、イギリス系の宣教師とアメリカ系の宣教師との間でいくつかの訳語をめぐり対立していました。例えば、"God"の訳語としてイギリス系宣教師は「上帝」を用い、アメリカ系宣教師は「神」を用いていました。アメリカ系宣教師の影響を受けている本書では、「神」が用いられていますが、それぞれの訳語を用いた聖書が、今日に至るまで出版されています。

47 引照新約全書（インショウシンヤクゼンショ）

横濱・北英國聖書會社・1880



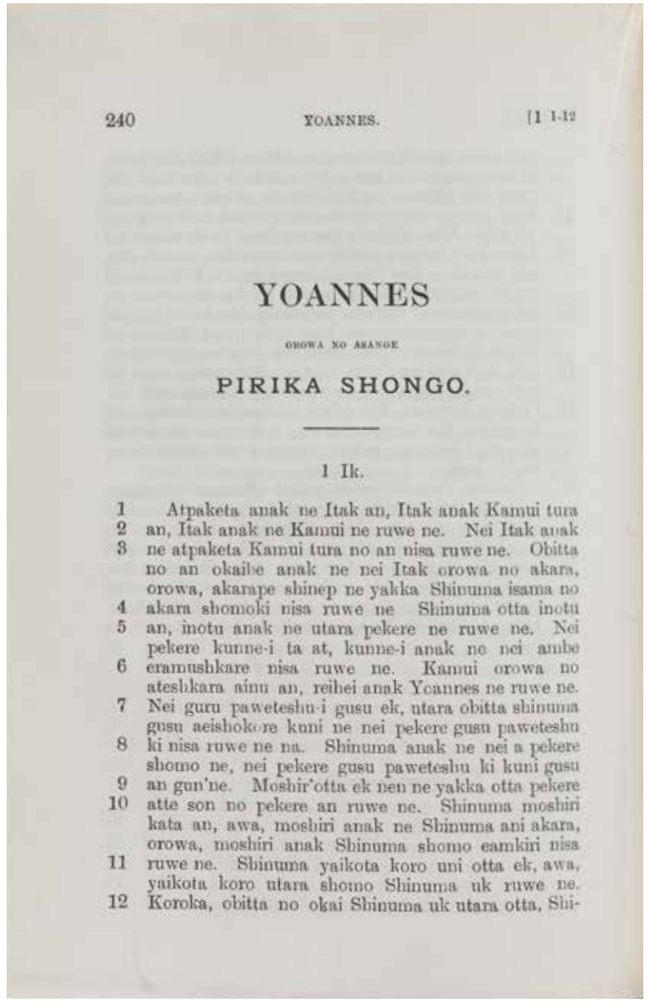
新約全書　馬太傳第六章　十四

各教派から集まった委員による翻訳委員社中が組織され、1874年から順次日本語への翻訳作業がすすめられました。それらは、1875年から分冊で出版されます。1880年には新約聖書全体の翻訳が完成し、『新約全書』と題され、1冊の書物として出版されました。本書にある「引照」とは、新約聖書内の関連箇所を指示するもので、「聖書によって聖書を解釈する」とするプロテスタントの正統神学から生まれたものです。英語聖書では古くから行われており、日本語聖書の引照もこの伝統に倣ったと思われます。引照の作成はイギリス人宣教師ジョン・パイパー（John Piper, 1840-1932）によると言われています。写真は、キリスト自身が教えたとされる「主の祈り」（マタイによる福音書6章9～13節）で、この訳が、プロテスタント教会では、今日まで一般的に用いられています。

48 バチェラー訳アイヌ語新約聖書（復刻版）

Chikoro utarapa ne Yesu Kiristo ashiri aeuitaknup oma kambi

東京・日本聖書協会・1981



240 YOANNES. [1 1-12

YOANNES

OROWA NO ASANGE

PIRIKA SHONGO.

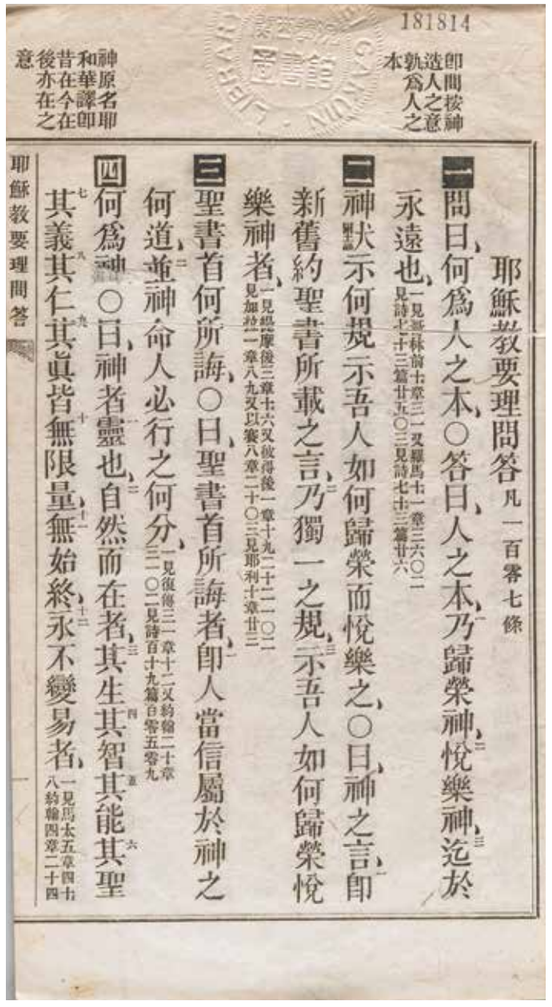
1 Ik.

1 Atpaketa anak ne Itak an, Itak anak Kamui tura
2 an, Itak anak ne Kamui ne ruwe ne. Nei Itak anak
3 ne atpaketa Kamui tura no an nisa ruwe ne. Obitta
no an okaibe anak ne nei Itak orowa no akara,
orowa, akarape shinep ne yakka Shinuma isama no
4 akara shomoki nisa ruwe ne Shinuma otta inotu
5 an, inotu anak ne utara pekere ne ruwe ne. Nei
pekere kunne-i ta at, kunne-i anak ne nei ambe
6 eramushkare nisa ruwe ne. Kamui orowa no
ateshkara ainu an, reihei anak Yeannes ne ruwe ne.
7 Nei guru paweteshu-i gusu ek, utara obitta shinuma
gusu aeishokore kuni ne nei pekere gusu paweteshu
8 ki nisa ruwe ne na. Shinuma anak ne nei a pekere
shomo ne, nei pekere gusu paweteshu ki kuni gusu
9 an gun'ne. Moshir'otta ek nen ne yakka otta pekere
10 atte son no pekere an ruwe ne. Shinuma moshiri
kata an, awa, moshiri anak ne Shinuma ani akara,
orowa, moshiri anak Shinuma shomo eamkiri nisa
11 ruwe ne. Shinuma yaikota koro uni otta ek, awa,
yaikota koro utara shomo Shinuma uk ruwe ne.
12 Koroka, obitta no okai Shinuma uk utara otta, Shi-

聖公会の宣教師であったイギリス人ジョン・バチェラー（John Batchelor, 1854-1944）によって、聖書はアイヌ語にも翻訳され、1889年から分冊で出版されました。バチェラーは、1892年から札幌に移住し、北海道のアイヌの教育とキリスト教伝道に尽力しました。アイヌの長老からアイヌ語を学んだバチェラーは、アイヌ語、日本語、英語を併記したアイヌ語辞書を完成させるなど、アイヌ研究者として多くの功績を残しました。そのため、「アイヌの父」とも呼ばれています。本書は、バチェラーによってギリシア語原典からアイヌ語に全訳されたアイヌ語聖書（1897年）をもとに1981年に日本聖書協会から出版された復刻版です。

49 耶蘇教要理問答（ヤソキョウヨウリモンドウ）

上海・美華書館・1866



181814

神原名耶和華譯即昔在今在後亦在之意

即造人之意按神孰爲人之本

耶蘇教要理問答 凡一百零七條

一 問曰、何爲人之本、○答曰、人之本、乃歸榮神、悅樂神、迄於永遠也、一見哥林前十章三一又羅馬十一章三六○二見詩七十三篇廿五○三見詩七十三篇廿六

二 神默示何規示吾人如何歸榮而悅樂之、○曰、神之言、即新舊約聖書所載之言、乃獨一之規、示吾人如何歸榮悅樂神者、一見約一章十六又彼得後三章十六又使徒二十一章八九又以賽八章二十○三見耶利十章廿三

三 聖書首何所誨、○曰、聖書首所誨者、即人當信屬於神之何道、並神命人必行之何分、一見復得三章十二又約翰二十章三一○二見詩百十九篇百零五零九

四 何爲神、○曰、神者靈也、自然而在者、其生其智其能其聖其義其仁其眞皆無限量無始終永不變易者、一見馬太五章四十八約翰四章二十四

耶蘇教要理問答

本書は、上海にあった印刷所・美華書館で出版されたカテキズムの書物です。カテキズムとは、一問一答の形式でキリスト教の教えを解説するもので、「教理問答」「信仰問答」とも呼ばれています。序にある「1643年の神学者の会議」という記述やその内容から見て、『ウェストミンスター大教理問答（*Westminster Larger Catechism*）』（1648年）に基づいた翻案と思われます。印刷元の美華書館は、中国におけるプロテスタント系出版物の大部分を引き受けていた印刷所で、ヘボンが日本語聖書を出版する際にも、ここで校正作業をするなど、日本、中国を含めた近代東アジアにおける伝道において欠くことのできない一大拠点となっていました。この美華書館で使われていた活字が、その後日本の近代活版印刷の先駆けとなる築地活版所に伝えられ、今日の明朝体の起源になったとされています。

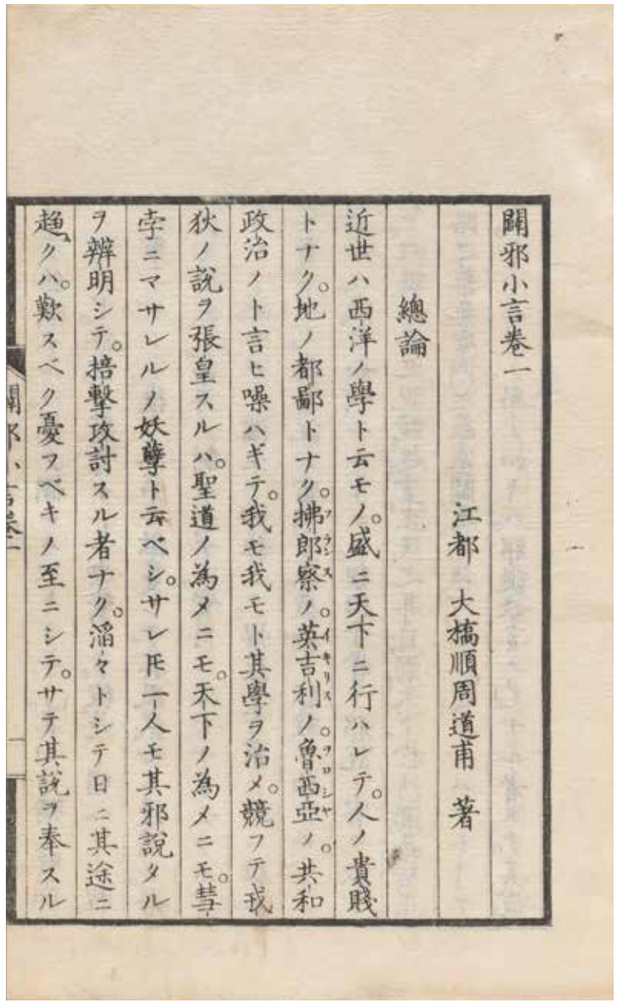
50 聖玫瑰花冠記録（セイロザリヨキロク）

1869?

本書は、フランス人のカトリック宣教師ベルナール・プティジャン（Bernard Petitjean, 1829-1884）の認可のもとに出版されたいわゆる「プティジャン版」のうちの1冊です。まえがきには、「童身（処女）聖瑪利亜（マリア）の聖きろざりよ（ロザリオ）の花園に喩る事　じわん・で・るへた（ファン・デ・ルエダ）翻譯」と記され、1622年マニラにおいて出版されたものを再版した旨が述べられています。内容は、ドミニコ会員ファン・デ・ルエダ（Juan Rueda de los Angeles, ca.1580-ca.1624）がマニラで出版した『ロザリヨの修行』（1622年）とその改訂増補版『ロザリヨの記録』（1623年）（ローマ字本）をプティジャンがまとめて編纂し、漢字仮名交じりの文章にしたものです。

51 闢邪小言（ヘキジャショウゲン）

江戸・思誠塾・1857



闢邪小言卷一

江都　大橋順周道甫　著

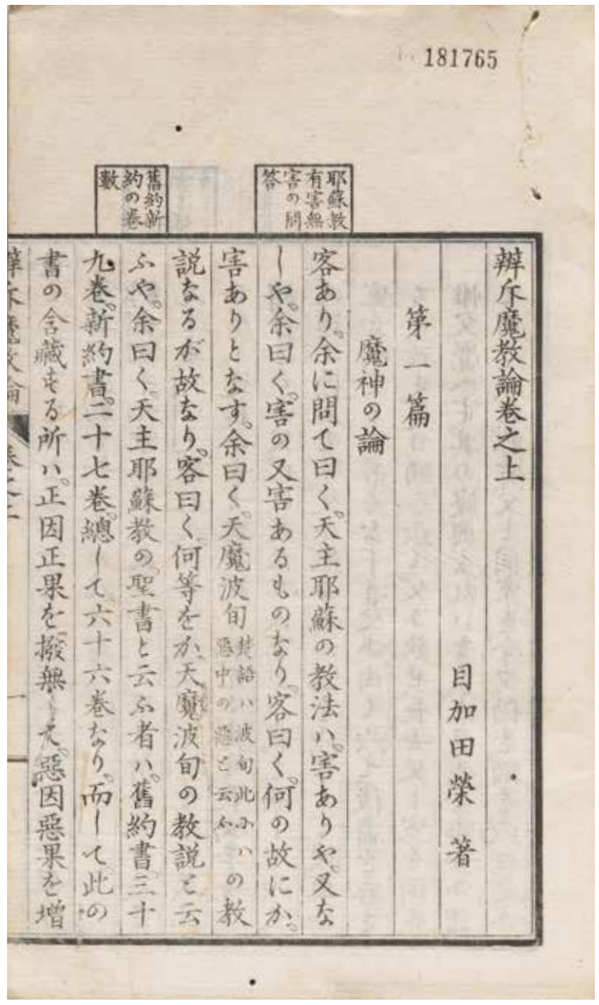
總論

近世ハ西洋ノ學ト云モノ盛ニ天下ニ行ハレテ人ノ貴賤トナク地ノ都鄙トナク佛郎察ノ英吉利ノ魯西亞ノ共和政治ノト言ヒ噪ハキテ我モ我モト其學ヲ治メ競フテ戎狄ノ說ヲ張皇スルハ聖道ノ為メニモ天下ノ為メニモ彗孛ニマサレルノ妖孽ト云ベシサレドモ一人モ其邪說タルヲ辨明シテ掊擊攻討スル者ナク滔々トシテ日ニ其途ニ趨クハ歎スベク憂フベキノ至ニシテサテ其說ヲ奉スル

本書は江戸時代末期の儒学者である大橋訥庵（おおはし とつあん、1816-1862）の1857（安政4）年の著作です。朱子学の立場から西洋文明を批判しており、当然その批判の対象にはキリスト教も含まれています。本書の同時代への影響は大きく、大橋自身も老中安藤信正の暗殺を画策し（坂下門外の変）、後に投獄されています。江戸時代の禁教下にこのようなキリスト教を論駁する書物が出版されていたことは一見奇妙に思えますが、将軍吉宗による洋学推進の後は、漢籍の科学書が幅広く流通し、それに付随して、いわゆる西洋の「天主教」の知識も一定層にはすでに広まっていたと言われています。

52 辨斥魔教論（ベンセキ マキョウロン）

神戸・船井弘文堂・1886



181765

辨斥魔教論卷之上

目加田榮　著

第一篇

魔神の論

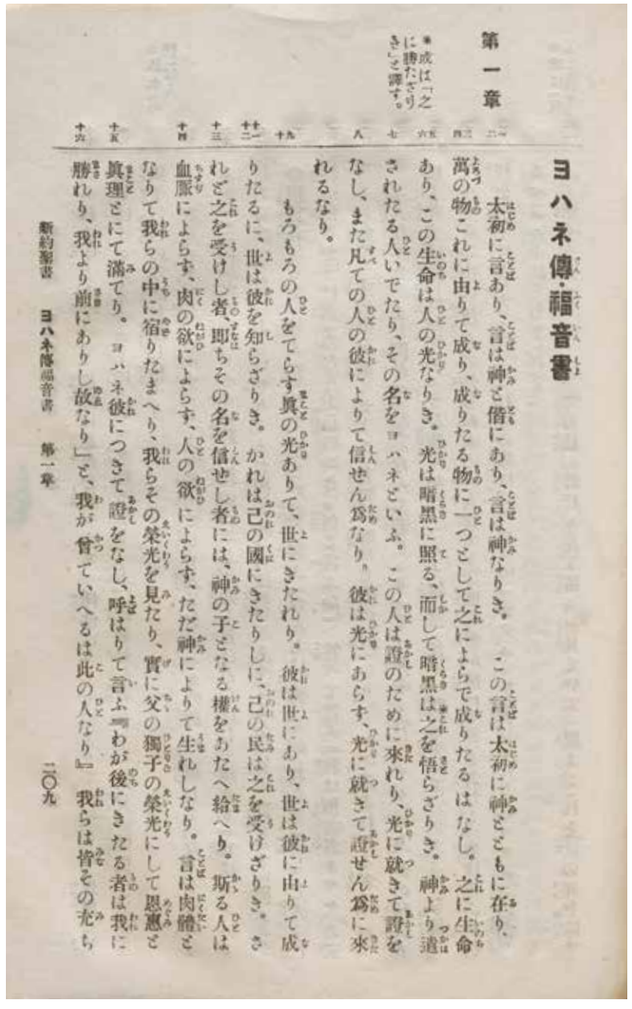
客あり余に問て曰く天主耶蘇の教法ハ害ありや又なしや余曰く害の又害あるものなり客曰く何の故にか害ありとなす余曰く天魔波旬（其語ハ波旬此ふいの惡中の惡と云ふ）の教說なるが故なり客曰く何等をか天魔波旬の教說と云ふや余曰く天主耶蘇教の聖書と云ふ者ハ舊約書三十九卷新約書二十七卷總して六十六卷なり而して此の書の含藏する所ハ正因正果を撥無して惡因惡果を增

本書は、目賀田栄によって著され、1886（明治19）年に出版されたものです。最初に、聖書の物語から、ロトがその娘たちとの間に子どもをもうけたこと（創世記19章）や、ダビデがウリヤを激戦地に送って戦死するように仕向け、ウリヤの妻を自分の妻としたこと（サムエル記下11章）などを挙げて、神がこれらの「邪淫」を罰しないのを非倫理的であると批判しています。さらに、キリスト教の教えを仏教の教えと対比して、キリスト教が劣っていると論じます。最後には、東方教会（正教会）、カトリック、プロテスタントの教義、儀式、習慣の違いを論ずるなど、総じて、キリスト教に関する知識を十分に持った上で、論難しているのが特徴です。日本においては、明治期には士族らの知識階級がキリスト教を受容していく中心であったため、それらの人々に訴えるよう、丁寧で緻密な議論が行われています。

53 新約聖書：改譯（大正訳聖書）

シンヤクセイショ ： カイヤク

横濱・米國聖書會社・1920



第一章

ヨハネ傳福音書

太初に言あり、言は神と偕にあり、言は神なりき。この言は太初に神とともに在り、萬の物これに由りて成り、成りたる物に一つとして之によらで成りたるはなし。之に生命あり、この生命は人の光なりき。光は暗黑に照る、而して暗黑は之を悟らざりき。神より遣されたる人いでたり、その名をヨハネといふ。この人は證のために來れり、光に就きて證をなし、また凡ての人の彼によりて信せん爲なり。彼は光にあらず、光に就きて證せん爲に來れるなり。

もろもろの人をてらす眞の光ありて、世にきたれり。彼は世にあり、世は彼に由りて成りたるに、世は彼を知らざりき。かれは己の國にきたりしに、己の民は之を受けざりき。されど之を受けし者、即ちその名を信せし者には、神の子となる權をあたへ給へり。斯る人は血脈によらず、肉の欲によらず、人の欲によらず、ただ神によりて生れしなり。言は肉體となりて我らの中に宿りたまへり、我らその榮光を見たり、實に父の獨子の榮光にして恩惠と眞理とにて滿てり。ヨハネ彼につきて證をなし、呼はりて言ふ『わが後にきたる者は我に勝れり、我より前にありし故なり』と、我が曾ていへるは此の人なり』我らは皆その充ち

新約聖書　ヨハネ傳福音書　第一章　二〇九

1880年の『新約全書』（No.47参照）に続いて、1887（明治20）年には、アメリカ、イングランド、スコットランドの各聖書協会の経済的助力を受けて、旧約聖書も含めた聖書全巻（旧約聖書続編は含まず）が出版されています。その後、1910年に改訳委員会が組織され、ネストレ校訂版（No.61参照）を底本として新約聖書の改訳が行われ、1917（大正6）年10月に出版されました。本書は1920年に印刷されたものです。改訳委員会には日本人も加わりましたが、賛美歌の部分でも大きな功績を残した別所梅之助（1872-1945）、松山高吉（1847-1935）も委員となっています。これらの旧約聖書と大正訳の新約聖書が、併せて『舊新約聖書』として、『口語訳』（新約聖書1954（昭和29）年、旧約聖書1955（昭和30）年）が出版されるまで、親しまれました。

VI

近代聖書学と印刷技術

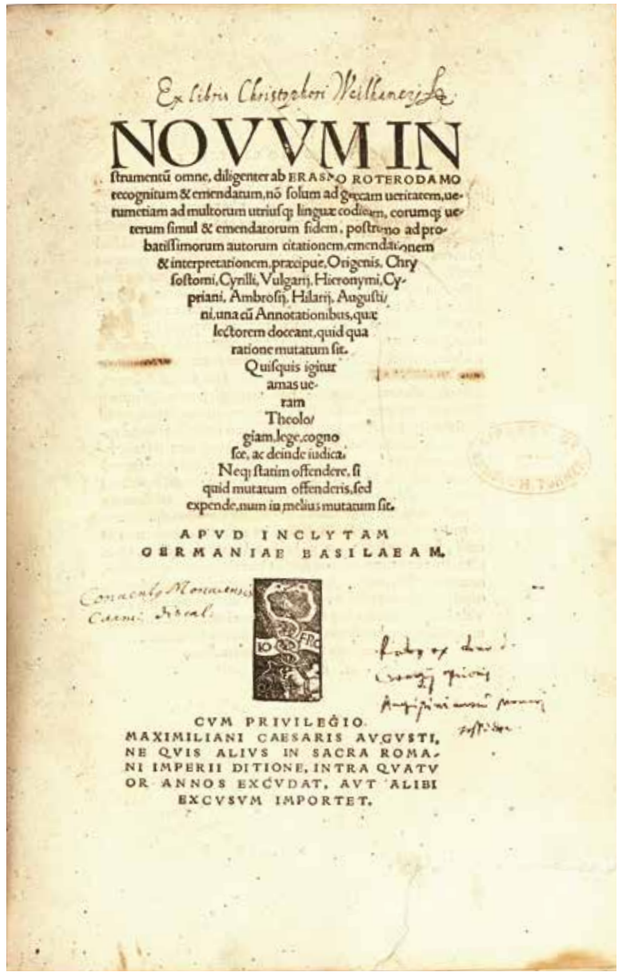
聖書は教理の源泉として重視された一方、人文主義以来、聖書の伝達に興味が持たれるようになりました。エラスムスは、種々の写本を照合して新約聖書の校訂テクストを作成し、「本文批評」と呼ばれる研究の嚆矢となりました。この校訂テクストは、『ルター訳聖書』や『欽定訳聖書』の底本となりました。しかし、現在では、時代の制約により、エラスムスが入手できた写本には限界があったと考えられています。19世紀以降、古代オリエントへの関心の高まりとも相まって、より古い写本（シナイ写本No.58、レニングラード写本No.63など）がヨーロッパに知られ、参照されるようになり、本文批評は大きく発展しました。1947年には死海近郊のクムランの洞穴から多数の聖書写本（死海写本No.57）が発見されたことにより、参照できる旧約聖書の写本が一気に1000年以上も遡ることになりました。これにより、本文批評が進むと同時に、それまで最古とされてきたレニングラード写本の正確さも再認識されました。

関西学院神学部は、伝統的に聖書の研究が強いと評価されており、聖書学、聖書本文批評学や聖書解釈学などにおいて多くの研究者を輩出してきました。

54 エラスムス校訂新約聖書（初版）

Novum instrumentu[m] omne, diligenter ab Erasmo Roterodamo recognitum & emendatum, no[n] solum ad græcam veritatem, ...

Basileae・Ioannis Frobenij・1516



Ex libris Christophori Wellauer

NOVVM IN
strumentũ omne, diligenter ab ERASMO ROTERODAMO
recognitum & emendatum, nõ solum ad græcam ueritatem, ue-
rumetiam ad multorum utriusq; linguæ codicum, eorumq; ue-
terum simul & emendatorum fidem, postremo ad pro-
batissimorum autorum citationem, emendationem
& interpretationem, præcipue, Origenis, Chry
sostomi, Cyrilli, Vulgarij, Hieronymi, Cy-
priani, Ambrosij, Hilarij, Augusti-
ni, una cũ Annotationibus, quæ
lectorem doceant, quid qua
ratione mutatum sit.
Quisquis igitur
amas ue-
ram
Theolo-
giam, lege, cogno
sce, ac deinde iudica.
Neq; statim offendere, si
quid mutatum offenderis, sed
expende, num in melius mutatum sit.
APVD INCLYTAM
GERMANIAE BASILEAEAM.

CVM PRIVILEGIO
MAXIMILIANI CAESARIS AVGVSTI,
NE QVIS ALIVS IN SACRA ROMA-
NI IMPERII DITIONE, INTRA QVATV
OR ANNOS EXCVDAT, AVT ALIBI
EXCVSVM IMPORTET.

55 エラスムス校訂新約聖書（第2版）

Novum Testamentum omne, multo quam antehac diligentius ab Erasmo Roterodamo recognitu[m], eme[n]datum ac translatum, ...

Basileae・Ioannem Frobenium・1519

90 e

NOVVM TESTA-
MENTVM OMNE, MVLTO QVÀM ANTEHAC DI
ligentius ab ERASMO ROTERODAMO recognitũ, emẽ
datum ac translatum, nõ solum ad Græcam ueritatẽ, uerum
etiam ad multorũ utriusq; linguæ codicum, eorumq; uetera
simul & emẽdatorum fidem, postremo ad probatissimorũ
autorum citationem, emẽdationem & interpretationẽ, præ-
cipue Origenis, Athanasij, Nazianzeni, Chrysostomi, Cy-
rilli, Theophylacti, Hieronymi, Cypriani, Ambrosij, Hila-
rij, Augustini, una cũ Annotationibus recognitis, ac magna
accessione locupletatis, quæ lectorem doceant, quid qua ra-
tione mutatũ sit. Quisquis igitur amas ueram Theologiam, le
ge, cognosce, ac deinde iudica. Neq; statim offendere, si quid
mutatum offenderis, sed expende, num in melius mutatum
sit. Nam morbus est, non iudicium, damnare quod non in-
spexeris.
SALVO VBIQVE ET ILLABEFACTO
ECCLESIAE IVDICIO.
Addita sunt in singulas Apostolorum epistolas
Argumenta per ERASMVM ROT.

54 | 55

ルネサンス期ヨーロッパを代表するフマニスト（人文主義者）、エラスムスによるギリシア語原典新約聖書の校訂版初版（No.54）と第2版（No.55）です（関西学院大学図書館では第5版（1535年）も所蔵）。エラスムスは、ヒエロニムス（Eusebius Sophronius Hieronymus, ca.347-ca.420）によるラテン語聖書、いわゆる『ウルガタ』への無批判な依存を脱却し、ギリシア語の原典にもとづく研究を推進するため、本書を出版しました。

書物としての聖書は、その原本が残っておらず、さまざまな写本によって伝えられています。そこには、書き間違いや意図的な変更が含まれています。そこから、写本の系統を調べ、つきあわせることによって、もともと書かれた原文を学問的に再構成しようとするのが、本文批評学と呼ばれる↗聖書学の分野です。エラスムスによるこの校訂本は、新約聖書本文批評学の嚆矢となりました。

校訂版初版（No.54）の表題にある“Novum instrumentu[m]”という書名は、研究のための「道具」といった意味で、通常使われる“Testamentum（証言）”の言葉を敢えて使っていません（第2版以降は、“Testamentum”が使用されています）。

エラスムスは、この校訂版が最終的な権威を持つものとは考えておらず、批判を受け入れ、新たな写本を手に入れるなどして、改訂を続けました。第2版以降には、注解の他、キリスト教神学に関する論議も加えられていくことになります。この1519年出版の第2版は、マルティン・ルターが1522年に最初のドイツ語新約聖書（いわゆる『9月聖書』）を出版した際の底本となりました。

56 多言語聖書

Biblia Sacra Polyglotta

Londini・Thomas Roycroft・1657

ルネサンス期以降の聖書学の営みにおいては、フマニスムス（人文主義）に共通する方法として、原語・原典が重視されていました。最初の多言語訳聖書として有名なコンプルトゥム版（1514-1517）から、オランダの大出版社プランタン社によるアントウェルペン版（1569-1572）、さらにパリ版（1629-1645）を経て、4番目に出版された多言語訳の聖書が本書です。ラテン語（『ウルガタ』）、ヘブライ語、サマリア語、カルデア語、ギリシア語、シリア語、アラビア語の他に、それまでになかったエチオピア語、ペルシア語を収録し、過去最大の9言語が収録されている多言語対照聖書となっています。編者ブライアン・ウォルトン（Brian Walton, ca.1600-1661）はチェスター主教でしたが、オックスフォード大学で東洋語を学んだこともある学者で、1647年に本書の製作を発案し、1652年に予約購読を募集しました。これはイギリスにおける最も早い予約出版のひとつとされています。ウォルトンは当時のイギリスを代表する書誌学者とともにこの困難な事業を成し遂げますが、多言語聖書の趣意書を出版した際には、時の宰相クロムウェル（Oliver Cromwell, 1599-1658）によって「実に尊敬すべき、また、援助に値すべき事業」であると称賛されました。

57 死海写本レビ記断片

A fragment from the Dead Sea Scrolls : 11 Qpaleolev, Fragment L.

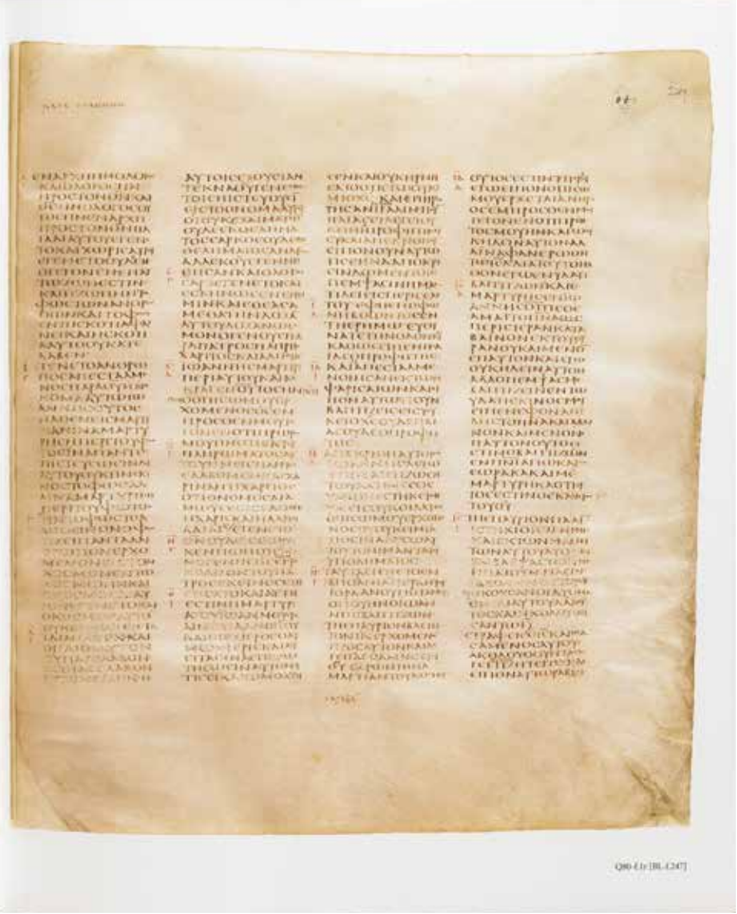
赤外線カメラにて透過撮影した写真

死海写本は、1947年、死海近くのクムラン渓谷でベドウィンの羊飼いの若者によって偶然に発見されました。それまでに知られていた最古のヘブライ語聖書は10世紀頃のアレッポ写本とレニングラード写本（No.63参照）で、死海写本はそれよりさらに1000年以上も古く、「世紀の大発見」と呼ばれました。写真の死海写本断片は「11Qpaleo-Leviticus, Fragment L」（クムランの第11洞窟で発見されたヒブル語古書体によるレビ記のL断片）のうちの一片です。これは獣皮紙と思われ、視認できないものの、透過撮影で文字を確認することができます。第11洞窟からは、ヘブライ語古書体によるレビ記のかなり大きな断片と、同じくヘブライ語古書体による別のレビ記の写本と思われる小断片群、申命記の一部と断片、エゼキエル書の一部、詩編の一部、アラム語ヨブ記などが数多く見つかっています。死海写本の大半は、現在エルサレムにあるイスラエル博物館の写本館「聖書の殿堂（Shrine of the Book）」に収蔵されています。死海写本の多くは、インターネット上で見ることができます。http://dss.collections.imj.org.il/

58 シナイ写本（ファクシミリ版）

Codex Sinaiticus

Peabody, Massachusetts・Hendrickson・2010



4世紀中頃に制作されたと言われるシナイ写本（略号ℵ）は、ヴァチカン写本（4世紀、略号B）、アレクサンドリア写本（5世紀前半、略号A）とともに、現存する最古の聖書写本のひとつです。本書は、ギリシア語で書かれた七十人訳聖書（Septuaginta）として知られる旧約聖書の一部と、古代ギリシアの共通語であったコイネーで書かれた新約聖書のほとんどを含んでいます。1844年にシナイ山の聖カタリナ修道院でドイツの聖書学者コンスタンティン・ティッシェンドルフ（Lobegott Friedrich Constantin von Tischendorf, 1815-1874）によって発見され、ロシア皇帝に献上されましたが、ロシア革命後の1930年代にスターリンによって英国に売却され、現在は大英図書館、ロシア国立図書館、ライプツィヒ大学および聖カタリナ修道院に分散して保管されています。このファクシミリ版は、シナイ写本の大部分を所蔵する大英図書館が中心となり、他の所蔵3機関との協力の下に開始したシナイ写本プロジェクトの一環として出版されたものです。また、同プロジェクトはシナイ写本をデジタル化しており、インターネット上で見ることができます。http://www.codex-sinaiticus.net/

59 新約本文批評

東京・新教出版社・1962

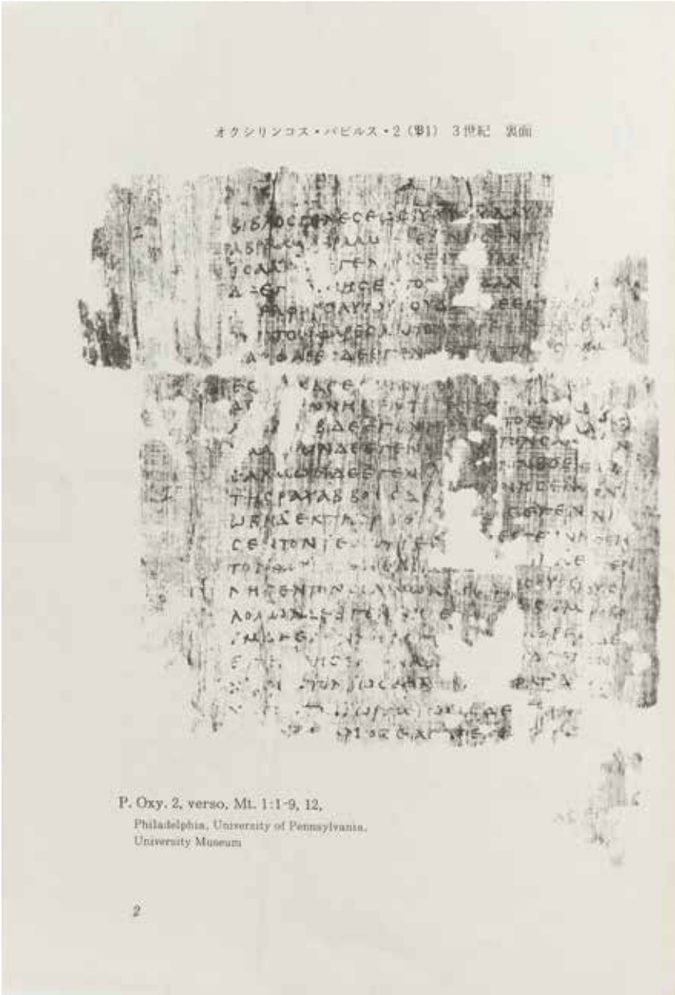
59 | 60

著者、蛭沼寿雄（ひるぬま としお、1914-2001）は、東京大学を卒業後、1949年から1982年まで関西学院大学文学部で言語学の教鞭をとっていました。『新約本文のパピルス』は、新約聖書のギリシア語原典本文批評の大家であった蛭沼が生涯をかけた全3巻の大作で、新約聖書のパピルス写本を番号順に可能な限り写真を添えて紹介しています。世界的に見ても稀な事業ですが、大変残念なことに、第3巻完成を前に蛭沼が死去したため、大学の関係者が遺志を継ぐ形で遺稿を編集し、2010年に大阪キリスト教書店から出版して完結させました。

『新約本文批評』は、それに先立つものですが、本文批評に欠かせない写本について丁寧に紹介されており、本文批評学に関する格好の入門書となっています。

60 新約本文のパピルス

大阪・大阪キリスト教書店・1994-2010

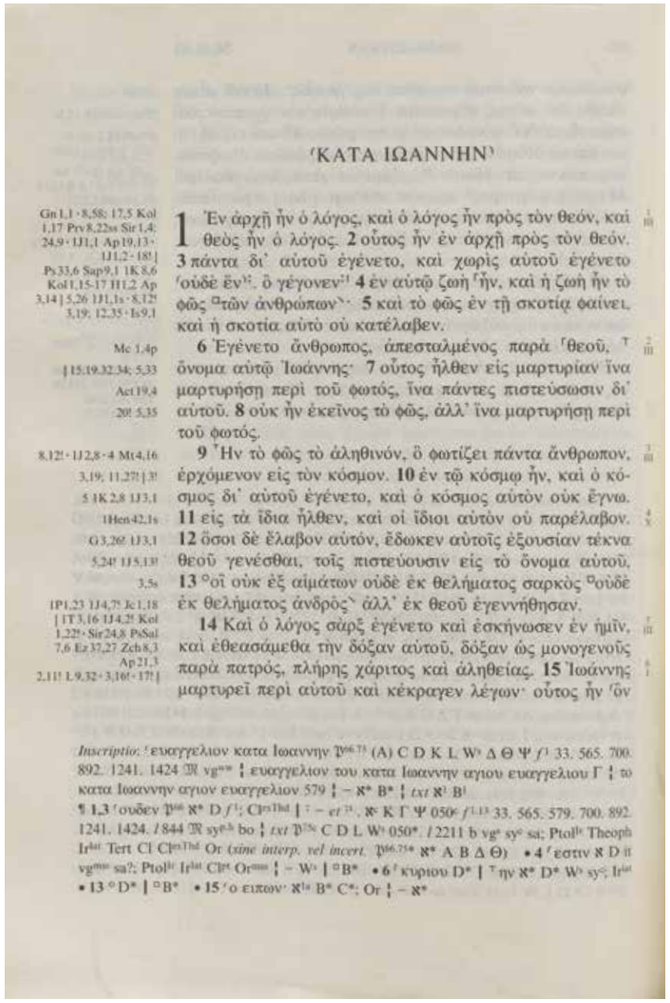


※解説はp.71をご覧ください。

61 ネストレ=アーラント校訂ギリシア語聖書

Novum Testamentum Graece : begründet von Eberhard und Erwin Nestle.
28. revidierte Aufl.

Stuttgart・Deutsche Bibelgesellschaft・2012



'ΚΑΤΑ ΙΩΑΝΝΗΝ'

Gn 1,1 · 8,58; 17,5 Kol 1,17 Prv 8,22ss Sir 1,4; 24,9 · 1J1,1 Ap 19,13 · 1J1,2 · 18! | Ps 33,6 Sap 9,1 1K 8,6 Kol 1,15-17 1J1,2 Ap 3,14 | 5,26 1J1,1s · 8,12! 3,19; 12,35 · Is 9,1

1 Ἐν ἀρχῇ ἦν ὁ λόγος, καὶ ὁ λόγος ἦν πρὸς τὸν θεόν, καὶ θεὸς ἦν ὁ λόγος. 2 οὗτος ἦν ἐν ἀρχῇ πρὸς τὸν θεόν. 3 πάντα δι' αὐτοῦ ἐγένετο, καὶ χωρὶς αὐτοῦ ἐγένετο ⌜οὐδὲ ἕν⌝. ὃ γέγονεν⌝ 4 ἐν αὐτῷ ζωὴ ⌜ἦν, καὶ ἡ ζωὴ ἦν τὸ φῶς ᵃτῶν ἀνθρώπων⌝· 5 καὶ τὸ φῶς ἐν τῇ σκοτίᾳ φαίνει, καὶ ἡ σκοτία αὐτὸ οὐ κατέλαβεν.

Mc 1,4p | 15.19.32.34; 5,33 Act 19,4 20! 5,35

6 Ἐγένετο ἄνθρωπος, ἀπεσταλμένος παρὰ ⌜θεοῦ, ⌝ ὄνομα αὐτῷ Ἰωάννης· 7 οὗτος ἦλθεν εἰς μαρτυρίαν ἵνα μαρτυρήσῃ περὶ τοῦ φωτός, ἵνα πάντες πιστεύσωσιν δι' αὐτοῦ. 8 οὐκ ἦν ἐκεῖνος τὸ φῶς, ἀλλ' ἵνα μαρτυρήσῃ περὶ τοῦ φωτός.

8,12! · 1J2,8 · 4 Mt 4,16 3,19; 11,27! | 3! 5 1K 2,8 1J3,1 1Hen 42,1s G 3,26! 1J3,1 5,24! 1J5,13! 3,5s

9 ⌜Ἦν τὸ φῶς τὸ ἀληθινόν, ὃ φωτίζει πάντα ἄνθρωπον, ἐρχόμενον εἰς τὸν κόσμον. 10 ἐν τῷ κόσμῳ ἦν, καὶ ὁ κόσμος δι' αὐτοῦ ἐγένετο, καὶ ὁ κόσμος αὐτὸν οὐκ ἔγνω. 11 εἰς τὰ ἴδια ἦλθεν, καὶ οἱ ἴδιοι αὐτὸν οὐ παρέλαβον. 12 ὅσοι δὲ ἔλαβον αὐτόν, ἔδωκεν αὐτοῖς ἐξουσίαν τέκνα θεοῦ γενέσθαι, τοῖς πιστεύουσιν εἰς τὸ ὄνομα αὐτοῦ, 13 ᵒοἳ οὐκ ἐξ αἱμάτων οὐδὲ ἐκ θελήματος σαρκὸς ᵒοὐδὲ ἐκ θελήματος ἀνδρὸς⌝ ἀλλ' ἐκ θεοῦ ἐγεννήθησαν.

1P 1,23 1J4,7! Jc 1,18 | 1T 3,16 1J4,2! Kol 1,22! · Sir 24,8 PsSal 7,6 Ez 37,27 Zch 8,3 Ap 21,3 2,11! L 9,32 · 3,16! · 17! |

14 Καὶ ὁ λόγος σὰρξ ἐγένετο καὶ ἐσκήνωσεν ἐν ἡμῖν, καὶ ἐθεασάμεθα τὴν δόξαν αὐτοῦ, δόξαν ὡς μονογενοῦς παρὰ πατρός, πλήρης χάριτος καὶ ἀληθείας. 15 Ἰωάννης μαρτυρεῖ περὶ αὐτοῦ καὶ κέκραγεν λέγων· οὗτος ἦν ⌜ὃν

Inscriptio: ᶠευαγγελιον κατα Ιωαννην $\mathfrak{P}^{66.75}$ (A) C D K L W^s Δ Θ Ψ f^{1} 33. 565. 700. 892. 1241. 1424 𝔐 vg^{mss} ¦ ευαγγελιον του κατα Ιωαννην αγιου ευαγγελιου Γ ¦ το κατα Ιωαννην αγιον ευαγγελιον 579 ¦ – ℵ* B* ¦ *txt* ℵ¹ B¹

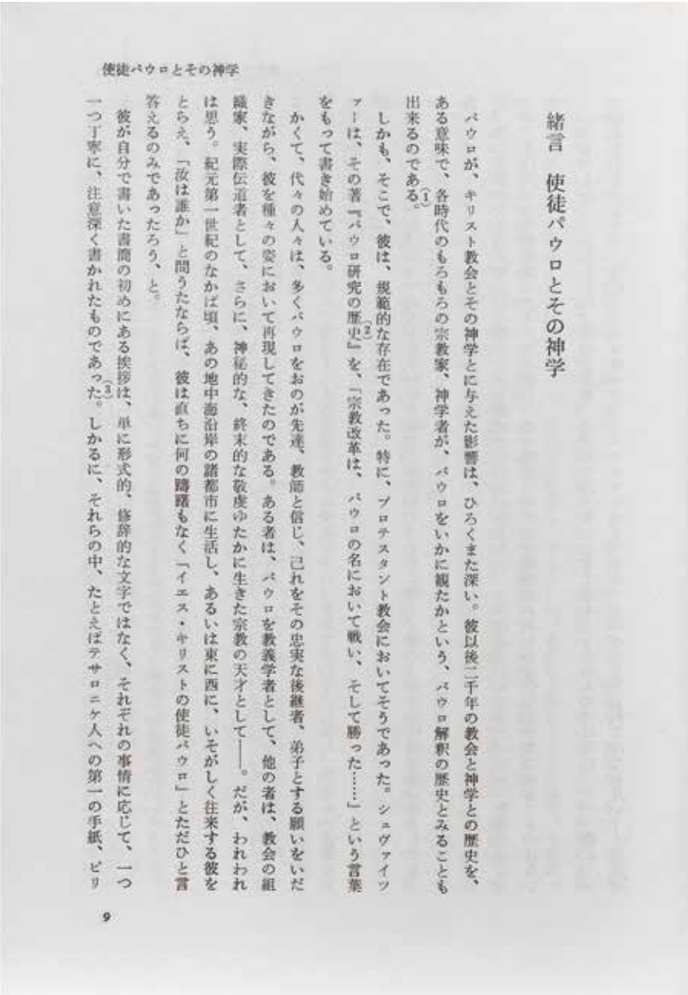
¶ 1,3 ᶠουδεν $\mathfrak{P}^{66}$ ℵ* D f^{13}; $Cl^{pt.Thd}$ | ᵗ – *et* ^{24}. ℵ^{c} K Γ Ψ 050^{c} $f^{1.13}$ 33. 565. 579. 700. 892. 1241. 1424. *l* 844 𝔐 $sy^{p.h}$ bo ¦ *txt* $\mathfrak{P}^{75s}$ C D L W^s 050*. *l* 2211 b vg^{c} sy^{c} sa; $Ptol^{lc}$ Theoph Ir^{lat} Tert Cl $Cl^{pt.Thd}$ Or (*sine interp. vel incert.* $\mathfrak{P}^{66.75*}$ ℵ* A B Δ Θ) • 4 ᶠεστιν ℵ D it vg^{mss} sa?; $Ptol^{lc}$ Ir^{lat} Cl^{pt} Or^{mss} ¦ – W^s | ᵒB* • 6 ᶠκυριου D* | ᵗην ℵ* D* W^s sy^{c}; Ir^{lat} • 13 ᵒD* | ᵒB* • 15 ᶠο ειπων· ℵ^{1s} B* C*; Or ¦ – ℵ*

© 2012 Deutsche Bibelgesellschaft, Stuttgart. Used by permission.

本書は、今日、学術的に高い評価を受けている新約聖書の校訂版です。ドイツの聖書学者エーバーハルト・ネストレ（Eberhard Nestle, 1851-1913）によるギリシア語校訂版を、やはりドイツの聖書学者であったクルト・アーラント（Kurt Aland, 1915-1994）が再校訂して出版したことから、通称「ネストレ=アーラント（NA）」と呼ばれています。初版が出されて以来、本文批評学の進展に合わせて改訂が加えられ、 2012年には第28版が出版されました。写本の照合によって再構成された本文の下に校訂注（apparatus）が記される形で紙面が構成されており、注には、この本文を再構成するための根拠となる写本が記号（ℵ、A、B、パピルス番号など）で示されています。

62 松木治三郎著作集 第1巻

東京・新教出版社・1991



使徒パウロとその神学

緒言　使徒パウロとその神学

パウロが、キリスト教会とその神学とに与えた影響は、ひろくまた深い。彼以後二千年の教会と神学との歴史を、ある意味で、各時代のもろもろの宗教家、神学者が、パウロをいかに観たかという、パウロ解釈の歴史とみることも出来るのである。[1]

しかも、そこで、彼は、規範的な存在であった。特に、プロテスタント教会においてそうであった。シュヴァイツァーは、その著『パウロ研究の歴史』[2]を、「宗教改革は、パウロの名において戦い、そして勝った……」という言葉をもって書き始めている。

かくて、代々の人々は、多くパウロをおのが先達、教師と信じ、己れをその忠実な後継者、弟子とする願いをいだきながら、彼を種々の姿において再現してきたのである。ある者は、パウロを教義学者として、他の者は、教会の組織家、実際伝道者として、さらに、神秘的な、終末的な敬虔ゆたかに生きた宗教の天才として――。だが、われわれは思う。紀元第一世紀のなかば頃、あの地中海沿岸の諸都市に生活し、あるいは東に西に、いそがしく往来する彼をとらえ、「汝は誰か」と問うたならば、彼は直ちに何の躊躇もなく「イエス・キリストの使徒パウロ」とただひと言答えるのみであったろう、と。

彼が自分で書いた書簡の初めにある挨拶は、単に形式的、修辞的な文字ではなく、それぞれの事情に応じて、一つ一つ丁寧に、注意深く書かれたものであった。[3] しかるに、それらの中、たとえばテサロニケ人への第一の手紙、ピリ

9

63 レニングラード写本（ファクシミリ版）

The Leningrad Codex : a facsimile edition

Grand Rapids, Michigan ・ W.B. Eerdmans ・1998

FOLIO 1 VERSO　　GENESIS 1:1 – 1:26A

14

※解説はp.76,77をご覧ください。

松木治三郎（まつき じさぶろう、1906-1994）は福井県に生まれ、1951年から定年となる1975年まで関西学院大学神学部で新約聖書学を教えました。1953年から1991年までは、日本基督教団塚口教会の牧師としても働きました。また、長く日本新約学会会長の重責を担い、その間、新約聖書の解釈を中心とした研究を多く発表するとともに、多くの牧師、新約聖書研究者を育てました。この著作集第1巻は、松木の主要著作である「使徒パウロとその神学」を収めています。

64 ビブリア・ヘブライカ・シュトゥットガルテンシア

***Biblia Hebraica Stuttgartensia.* editio secunda emendata**

Stuttgart・Deutsche Bibelstiftung・1984

GENESIS בראשית

1 בראשית ברא אלהים את השמים ואת הארץ׃ 2 והארץ
היתה תהו ובהו וחשך על־פני תהום ורוח אלהים מרחפת על־פני
המים׃ 3 ויאמר אלהים יהי אור ויהי־אור׃ 4 וירא אלהים את־
האור כי־טוב ויבדל אלהים בין האור ובין החשך׃ 5 ויקרא
אלהים לאור יום ולחשך קרא לילה ויהי־ערב ויהי־בקר יום
אחד׃ פ 6 ויאמר אלהים יהי רקיע בתוך המים ויהי מבדיל
בין מים למים׃ 7 ויעש אלהים את־הרקיע ויבדל בין המים אשר
מתחת לרקיע ובין המים אשר מעל לרקיע ויהי־כן׃ 8 ויקרא
אלהים לרקיע שמים ויהי־ערב ויהי־בקר יום שני׃ פ
9 ויאמר אלהים יקוו המים מתחת השמים אל־מקום אחד ותראה
היבשה ויהי־כן׃ 10 ויקרא אלהים ליבשה ארץ ולמקוה המים
קרא ימים וירא אלהים כי־טוב׃ 11 ויאמר אלהים תדשא הארץ
דשא עשב מזריע זרע עץ פרי עשה פרי למינו אשר זרעו־בו
על־הארץ ויהי־כן׃ 12 ותוצא הארץ דשא עשב מזריע זרע למינהו
ועץ עשה פרי אשר זרעו־בו למינהו וירא אלהים כי־טוב׃ 13 ויהי־
ערב ויהי־בקר יום שלישי׃ פ 14 ויאמר אלהים יהי מארת
ברקיע השמים להבדיל בין היום ובין הלילה והיו לאתת ולמועדים
ולימים ושנים׃ 15 והיו למאורת ברקיע השמים להאיר על־הארץ
ויהי־כן׃ 16 ויעש אלהים את־שני המארת הגדלים את־המאור

Cp 1 *Mm 1. *Mm 2. *Mm 3. *Mm 1139. *Mp sub loco. *Mm 4. *Jer 4,23, cf Mp sub loco. *BH 38,18. *2 Ch 24,20. *Mm 5. *Mm 6. *Mm 3105. *דמי לחיים BH 28,3. *Mm 206. *Mm 7. *Mm 1421. *Mm 2773. *Mm 3706. *Mm 736. *נפלא מן Ps 66,6. *Mm 722. *Mm 2045. *Qoh 4,3.

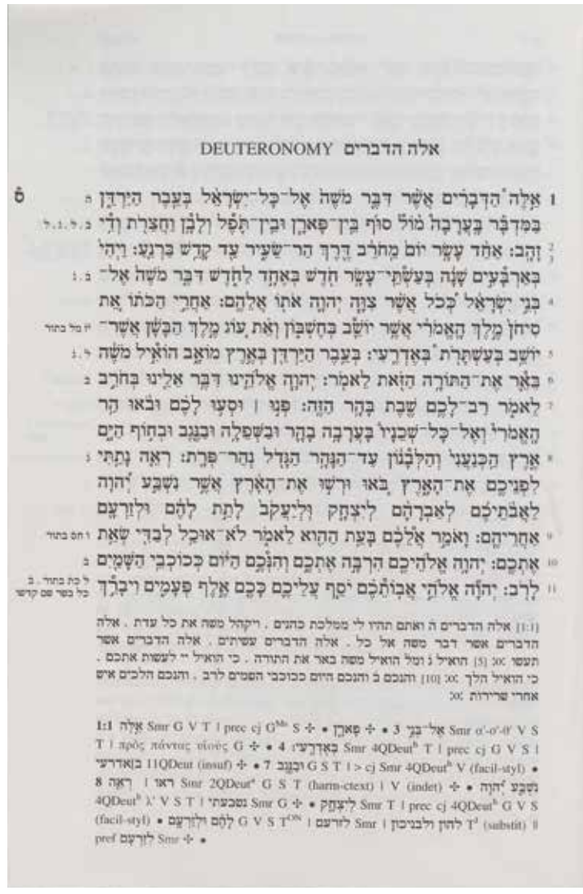
Cp 1, 1 Orig *Βηρεσθ* vel *Βαρεσθ (-αιθ)*; Samar *bārēšīt* ‖ 6 *hoc tr 7*-* cf 𝔊 et 9.11.15.20. 24.30 ‖ 7 *-* cf 6*; ins ראה אלהים כי־טוב cf 4.10.12.18.21.31 et 8 (𝔊) ‖ 9 *𝔊 συναγωγὴν — מקוה cf מקוה המים 10 ‖ *𝔊 + καὶ συνέχθη τὸ ὕδωρ τὸ ὑποκάτω τοῦ οὐρανοῦ εἰς τὰς συναγωγὰς αὐτῶν καὶ ὤφθη ἡ ξηρά — נקוו המים מתחת השמים אל־מקומם ותראה היבשה ‖ 11 *-* 𝔊Ol cj עשב c דשא ‖ *l c pc Mss ms𝔊Sc ע׳ זרע cf 12 ‖ *prb dl cf 12.

© 1977 and 1997 Deutsche Bibelgesellschaft, Stuttgart. Used by permission.

65 ビブリア・ヘブライカ・クインタ

Biblia Hebraica quinta editione, fasc.5

Stuttgart・Deutsche Bibelgesellschaft・2007



DEUTERONOMY אלה הדברים

1 אלה הדברים אשר דבר משה אל־כל־ישראל בעבר הירדן ס
במדבר בערבה מול סוף בין־פארן ובין־תפל ולבן וחצרת ודי
זהב׃ אחד עשר יום מחרב דרך הר־שעיר עד קדש ברנע׃ ויהי
בארבעים שנה בעשתי־עשר חדש באחד לחדש דבר משה אל־ 3
בני ישראל ׳ככל אשר צוה יהוה אתו אלהם׃ אחרי הכתו את
סיחן מלך האמרי אשר יושב בחשבון ואת עוג מלך הבשן אשר־ 4 ל בתור
יושב בעשתרת ׳באדרעי׃ בעבר הירדן בארץ מואב הואיל משה 5
באר את־התורה הזאת לאמר׃ יהוה אלהינו דבר אלינו בחרב 6
לאמר רב־לכם שבת בהר הזה׃ פנו ׀ וסעו לכם ובאו הר 7
האמרי׳ ואל־כל־שכניו בערבה בהר ובשפלה ובנגב ובחוף הים
ארץ הכנעני׳ והלבנון עד־הנהר הגדל נהר־פרת׃ ראה נתתי 8
לפניכם את־הארץ באו ורשו את־הארץ אשר נשבע יהוה
לאבתיכם לאברהם ליצחק וליעקב לתת להם ולזרעם
אחריהם׃ ואמר אלכם בעת ההוא לאמר לא־אוכל לבדי שאת ו חס בתור
אתכם׃ יהוה אלהיכם הרבה אתכם והנכם היום ככוכבי השמים 9
לרב׃ יהוה אלהי אבותיכם יסף עליכם ככם אלף פעמים ויברך 10
כל בשר שם קדשו ל בת בתור ב
אלה הדברים ה ואתם תהיו לי ממלכת כהנים . ויקהל משה את כל עדת . אלה (1:1)
הדברים אשר דבר משה אל כל . אלה הדברים עשיתים . אלה הדברים אשר
תעשו ׳ס׳ (5) הואיל ג ומל הואיל משה באר את התורה . כי הואיל יי לעשות אתכם .
כי הואיל הלך ׳ס׳ (10) והנכם ב והנכם היום ככוכבי השמים לרב . והנכם הלכים איש
אחרי שרירות ׳ס׳

1:1 אֵלֶּה Smr G V T | prec cj G^Mss S ✠ • סָאנֵן ✠ • 3 אֶל־בְּנֵי Smr α'-σ'-θ' V S T | πρὸς πάντας υἱοὺς G ✠ • 4 בְּאַדְרֶעִי Smr 4QDeut^h T | prec cj G V S | בְּאַדְרֶעִי 11QDeut (insuf) ✠ • 7 הַכְּנַעַנִי G S T | > cj Smr 4QDeut^h V (facil-styl) • 8 רְאֵה | ראו Smr 2QDeut^a G S T (harm-ctext) | V (indet) ✠ • נִשְׁבַּע יְהוָה 4QDeut^h λ' V S T | נשבעתי Smr G ✠ • לְיִצְחָק Smr T | prec cj 4QDeut^h G V S (facil-styl) • לָהֶם וּלְזַרְעָם G V S T^ON | לזרעם Smr | להן ולבניכן T^J (substit) ‖ pref לְזַרְעָם Smr ✠ •

© 2007 Deutsche Bibelgesellschaft, Stuttgart. Used by permission.

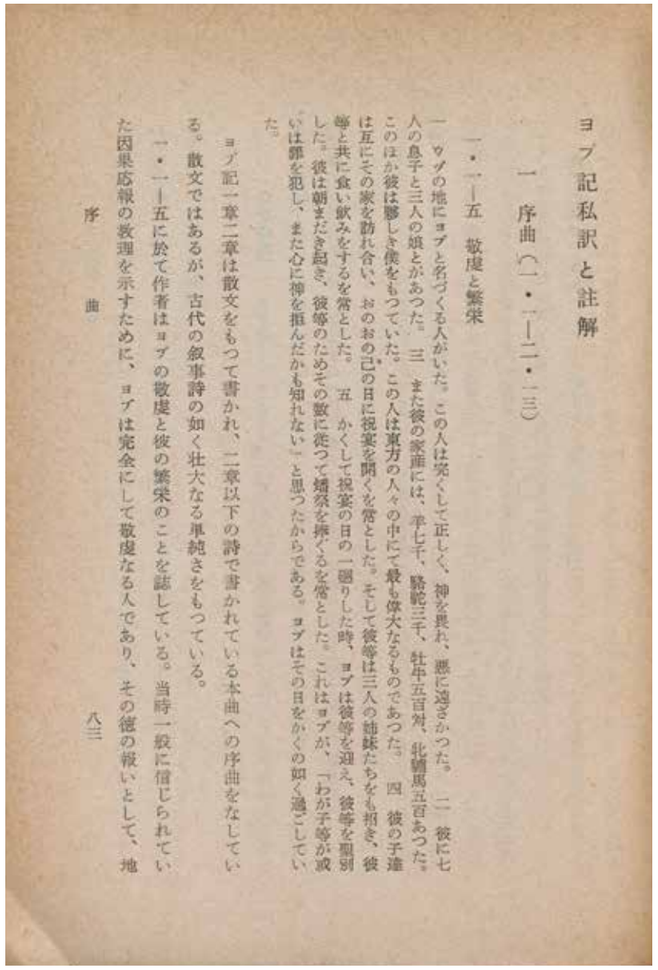
63 | 64 | 65

No.63は、ヘブライ語で書かれた旧約聖書の写本であるレニングラード写本のファクシミリ版です。レニングラード写本は、ヘブライ語聖書写本の伝承を保存・校訂するマソラ学者（「マソラ」は「伝承」の意）の家系であるベン・アシェル家によって1008年に作成されたと考えられ、ヘブライ語聖書正典の全巻を含む最古の写本です。マソラ学者は本文を書き写しただけでなく、校訂の結果を欄外の注に記したり（「小マソラ」と呼ばれる）、チェインリファレンスを作成したりしました（「大マソラ」）。1863年以降、サンクトペテルブルクにあるロシア国立図書館に保存されていたものが、ロシア革命以後にヘブライ語学者たちから「レニングラード写本」（略号L）と呼ばれるようになり、ソ連邦崩壊によりレニングラードの都市名が失われた後も、その名を遺しています。同じくヘブライ語写本として、レニングラード写本よりも古いものと考えられるアレッポ写本（エルサレム・ヘブライ大学所蔵）は、一部が失われてしまっています。アレッポ写本を基にした校訂版がヘブライ大学から出版され始めましたが、まだ、ごく一部しか出版されていません。↗

ヘブライ語聖書の代表的な校訂版として広く用いられている『ビブリア・ヘブライカ（*Biblia Hebraica*）』は、このレニングラード写本を底本としています。現在広く用いられているのは、『ビブリア・ヘブライカ・シュトゥットガルテンシア（*Biblia Hebraica Stuttgartensia*）』（BHS。現在は改訂第5版）です。また、現在、その後継版である*Biblia Hebraica Quinta*（BHQ）が刊行中です（全20巻のうち6巻が出版されている）。校訂版では、上にレニングラード写本の本文が活字体で印刷され、その下に校訂注が書かれるという、ネストレ=アーラント校訂ギリシア語聖書（No.61）と同じ紙面構成になっています。BHQでは、巻末に、さらに詳しくなった注が記され、「マソラ」についての解説も記されています。本文下の校訂注には、No.57の死海写本の他、古代語訳（七十人訳（ギリシア語）、古ラテン語訳、タルグム（アラム語訳）、『ウルガタ』など）との照合の結果が記されますが、現代においては、完本としてのレニングラード写本の本文を尊重する傾向が、新約聖書の本文批評に比べて強いのが特徴と言えるでしょう。

66 ヨブ記註解

東京・日本基督教団出版部・1954



ヨブ記私訳と註解

一　序曲（一・一―二・一三）

一・一―五　敬虔と繁栄

一　ウズの地にヨブと名づくる人がいた。この人は究くして正しく、神を畏れ、悪に遠ざかつた。二　彼に七人の息子と三人の娘とがあつた。三　また彼の家産には、羊七千、駱駝三千、牡牛五百対、牝牛五百頭、雌驢馬五百あつた。このほか彼は夥しき僕をもつていた。この人は東方の人々の中にて最も偉大なるものであつた。四　彼の子達は互にその家を訪れ合い、おのおの己の日に祝宴を開くを常とした。そして彼等は三人の姉妹たちをも招き、彼等と共に食い飲みをするを常とした。五　かくして祝宴の日の一巡りした時、ヨブは彼等を迎え、彼等を聖別した。彼は朝まだき起き、彼等のためその数に従つて燔祭を捧ぐるを常とした。これはヨブが、「わが子等が或いは罪を犯し、また心に神を拒んだかも知れない」と思つたからである。ヨブはその日をかくの如く過していた。

ヨブ記一章二章は散文をもつて書かれ、二章以下の詩で書かれている本曲への序曲をなしている。散文ではあるが、古代の叙事詩の如く壮大なる単純さをもつている。

一・一―五に於て作者はヨブの敬虔と彼の繁栄のことを誌している。当時一般に信じられていた因果応報の教理を示すために、ヨブは完全にして敬虔なる人であり、その徳の報いとして、地

松田明三郎（まつだ あけみろう、1894-1975）は、関西学院神学部で旧約聖書学を教えていましたが、神学部は戦時体制における牧師養成機関の再編を受けて1943年5月に閉鎖され、日本西部神学校となり、さらに1944年3月に日本基督教神学専門学校（現東京神学大学）に統合されました。これに伴い、松田は日本基督教神学専門学校に移りました（戦後、神学部は1948年新制大学において文学部の神学科として復活し、1952年に神学部神学科として独立している）。松田はこの『ヨブ記註解』の他、詩編や箴言など、韻文の研究で知られ、私訳と注解を載せた書物を多く著しています。

67 城崎進「旧約釈義 創世記 1」（『聖書雑誌』1966年4月号）

東京・日本基督教団出版部・1966

261529

旧約釈義

創世記 1

城崎進

一・一―二・四前半　祭司資料による創造神話

この神話の背後にはバビロニヤの天地創造神話が下敷きとして存在したことが明らかに認められる（略解・八頁以下参照）。しかし、現在のテキストは、イスラエルの祭司階級の紀元前6世紀にわたる神学的思索に基づく編集作業が行なわれ、完全にイスラエル独自のものとなっている。六書全体を貫く主題は、ヤハウェの救済である。このことは、六書冒頭の創造神話においても例外ではない。この物語の関心は、創造それ自身にあるのではなく、救済史の発端としての創造にあり、むしろ、イスラエルの救済史的体験の神話化であるといえよう（イザ五一・一〇はこのことを端的に示している）。史実から自由にされた神話の形を採っているだけに、ここには、記述の中の若干の矛盾にもかかわらず、磨きあげられた歴史の跡が見られ、その片鱗が祭司神学の精髄が凝集している。したがって、この神話を創造の史実であるかのように、たとえば古代生物学的に解釈したり、近代自然科学における宇宙論との調和を計ったりしてはならない。これは、創造主なる神と被造物なる世界に関する、イスラエルの救済史的体験に基づく信仰告白であるがゆえに、我々の実存に関わる語りかけとして解釈されることを要求している。

一・一―五　第一日

一節を独立した標題と見る読み方（口語訳）が印象としては好まれるにもかかわらず、詳細な文法的検討を加えるとき、一―三節は次のように読みかえられるべきであろう（RSV傾外）（注）。

「神が天と地を創造しはじめられたとき――（そもそ）地は形なく、むなしく、やみが淵のおもてにあり、神の霊が水のおもてをおおっていたが――神は「光あれ」と言われた。すると光があった。

すなわち、二節は神の創造開始以前における宇宙の状態を示す挿入節であり、主節である三節において創造は開始されるのである。これによって、神が混沌を創造したという解釈や、一節の創造と三節の創造の間隙に二節の混沌が存在したという解釈は排除されねばならない。

それでは二節の構文は何を意味するのであるか。それは、神の創造以前に何物かが存在したこと、また神は創造においてそれを素材として用いたことを意味するのであろうか。このことは、二節の用語を詳細に検討しなければならない。

形なく（תֹהוּ（トーフー））は、バビロニヤ神話におけるティアマトに相応する語で、旧約正典中二〇回使用されるが、そのすべてが、むなしさ、無意味さ、非実在性を示す語として用いられている。とくに現在のテキストと歴史的・思想的背景を同じくするヨブ記、第二イザヤにおいてそうである（ヨブ六・一八、二六・七、イ

城崎進（じょうざき すすむ、1924-）は、神戸市出身で、関西学院大学（旧制）予科、商経学部を経て、新制大学文学部神学科1期生となりました。1954年から、神戸女学院院長に就任する1990年9月まで、関西学院大学神学部で旧約聖書学を教えました。1981～1985年は関西学院大学学長も務めています。その傍ら、日本基督教団神戸東部教会、芦屋山手教会などで牧師を務め、次世代の牧師、研究者を育てました。この『聖書雑誌』は、日本基督教団出版部から、牧師向けの聖書研究雑誌として発刊されたもので、第1号から、旧約聖書と新約聖書の釈義が連載されています。城崎は、ドイツの新約聖書学者ルドルフ・ブルトマン（Rudolf Bultmann, 1884-1976）が提唱した「非神話化」をヘブライ語聖書の解釈に取り入れて、日本において「実存論的解釈」を行った最初の研究者の一人です。この『聖書雑誌』の連載では、創世神話（創世記1～11章）の実存論的解釈が展開されています。

VII

個人・家庭と聖書

聖書や、定められた祈りの言葉を記した『時祷書』は、信仰生活にとって重要な位置を占めていました。財力のある者は聖書を細密画（ミニアチュール）で飾るなど、美しく印刷・装丁して所有しました。印刷技術の進展によって、聖書も時祷書もより安価に手に入るようになり、多くの家庭が自分たちの聖書を持つようになりました。それでも、今よりも書物が高価であった時代、聖書はそれぞれの家庭において最も重要な蔵書であり、そこに、誕生や結婚、死亡など、家族の記録を書き込むようになりました。現在でも、家族の記録を書き込むための欄を備えた聖書が出版されており、「家族用聖書（Family Bible）」と呼ばれています。また、愛書家にとっても、聖書は重要な収集対象となり、そのような人々向けに、より豪華な聖書も印刷され、販売されました。そこには、写本をまねた挿絵や彩色、時代が下がれば、銅版画を用いた挿絵などが含まれていくことになります。

68

慶應義塾図書館所蔵

リヨン式ミサ典書

Missale ad vsum Lugdunen[se]

Lyons・Petrus Ungarus・1500

本書は、フランス中東部の都市リヨンの印刷者ペトルス・ウンガルス（Petrus Ungarus）が出版したミサ典礼書です。中世彩色写本を模して手彩色の欄外装飾が施され、全ページ大サイズの木版画2点が収録されています。本書にはタイトルページに“Pro Sacello B. Magdalence Ecclesiae Lugd.”という、リヨン大聖堂のマグダラのマリア礼拝堂に関係する書き込みがあることから、リヨンにおけるミサで実際に使用されていたと推測できます。リヨンは、パリなどのフランス北部の諸都市と、ミラノ、ヴェネチアなどのイタリア北部の諸都市との中継都市として、フランスにおけるインキュナブラの出版文化が栄えた街でした。キリストの生涯を描いた挿絵入りイニシャルが31点あり、いずれも彩色が施されています。本書には、日曜日や祝日ごとに異なる固有文や聖書朗読箇所、すべてのミサに共通する通常文や司式司祭が唱えたり歌ったりする式文が載せられています。特に、司祭の歌うべき部分に方形四線の楽譜が収録されています。本書はリヨンの大聖堂図書館に4部（うち完本は2部）、ヨークの大聖堂図書館に1部現存するのみで、インキュナブラとしても非常に希少なものといえます。

69

慶應義塾図書館所蔵

司教用典礼書

Paulo III Pont. Max. Pontificale Romanum in quo (ultraque in aliis pontificalibus hactenus impressis habent[ur]) nup[er] addita sunt

Venetiis・Apud Iuntas・1543

16世紀ヴェネチアの有力な印刷業者のひとりであるルカントニオ・ジュンタ（Lucantonio Giunta, 1457-1538）印刷所で出版されたラテン語の典礼書です。ジュンタ家は聖書、典礼書、聖務日課書などの宗教書を得意にしていた印刷業者で、16世紀をとおして活躍しました。本書は2段組みで、司教だけが執り行うことのできる儀式を収めた司教用典礼書です。唱えるべき部分は黒で、動作や執行上の規定を記した典礼注記は赤で印刷されています。この典礼注記は、写本の時代には赤インクで書き込まれたため、「ルブリック」と呼ばれ、この典礼書でも赤で印刷されています。司教が行う典礼の様子が、木製挿絵でテクストに多数挿入されています。写真は司教が人々のために最も頻繁に行う堅信礼の様子を載せたページ、展示ページは司教聖別の式文とその様子を載せたページです。

70 ラテン語時祷書（写本）

Horae Beatae Virginis Mariae, cum calendario

14--

時祷書とは、キリスト教信者が日常の祈りに際して使用した書物のひとつです。当時、修道院などで行われていた時祷（Officium horarum、聖務日課、現在では「教会の祈り」）は、唱えられる詩編や祈りが日によって異なるなど、複雑なものでした。時祷書は、その複雑な聖務日課を容易に唱えることができるよう、編集されたものです。本書は15世紀に写本された聖母マリアの小聖務日課のためのもので、ヴェラム（羊皮紙）にゴシック体で筆写されており、欄外装飾にはブルゴーニュ様式で、金・青・赤・緑によりアカンサスの葉・花・木の実が美しく描かれています。また、猿・鳥に加えて想像上の怪獣も描かれていることが確認できます。本文中には聖書における「受胎告知」「聖母子」「エリザベト訪問」「羊飼い達へのお告げ」「占星術の学者たちの礼拝」「幼子イエスの奉献」「ヘロデ王の幼児虐殺」「聖母の戴冠」「磔刑」「聖霊降臨」の物語がイニシャルの中に細密画（ミニアチュール）として描かれています。

71 ローマ式ラテン語時祷書

Horae B[eatae] M[ariae] V[irginis] : use of Rome

Paris・Gille Couteau for Guillaume Eustace・1513

本書は、16世紀初頭のパリで印刷された聖母マリアの小聖務日課のための時祷書です。時祷書の印刷は、それまでの手作業による15世紀の時祷書や聖務日課書などの写本制作法をもとにして行われました。当時の最新技術によって一度本文が印刷された後に、写本の時祷書に似せるように手彩色や鮮やかな金箔装飾が施されました。もはや一目では彩色写本との区別がつかない程に、美しい仕上がりとなっています。活字についてもヴェラム（羊皮紙）の上に写生による手書き文字を模したバタード体と呼ばれる書体で印刷され、聖書の場面を描いた35点の銅版手彩色の細密画（ミニアチュール）が収められています。冒頭の15ページにわたる暦の部分はフランス語で、それ以降はラテン語で書かれています。各月の聖人にまつわる暦には人生を12ヶ月になぞらえて各月を比較した四行連詩が配置されています。

72 ウルガタ　挿絵入り

Biblia : ad vetustissima exemplaria nunc recèns castigata

Venetiis・Nicolai Beuilaquæ・1576

BIBLIA
AD VETVSTISSIMA
EXEMPLARIA
Nunc recèns castigata.
IN QVIBVS, PRAETER EA,
Quæ subsequens Præfatio indicat, capita singula
ita versibus distincta sunt,
VT NVMERI PRÆFIXI
Lectorem non remorentur, & loca quæsita
tanquam digito demonstrent.
CVM LICENTIA SVPERIORVM.
VENETIIS, Apud Heredes Nicolai Beuilaqua, & socios. 1576.

『ウルガタ』は、ヒエロニムスによって4世紀末にヘブライ語、ギリシア語原語から、それ以前のラテン語聖書も参照しながら翻訳されたと伝えられるラテン語聖書であり、中世においては唯一の聖書でした。また、宗教改革によって各国語の聖書が生まれた後も、カトリックにおいては、正典としての地位を保ち続けました。ヒエロニムスは、写真の絵のように、ライオンとともにシリアの荒野で修業する隠者として多くの絵画に描かれています。本書は、各章のはじめに、理解の助けとなることを意図して、内容を表した挿絵が挿入されています。家庭向け、あるいは、教養のある読者向けとして企画されたものと思われます。

73 聖書　銅板画挿絵入り（マクリーン刊行）

The Old Testament, embellished with engravings, from pictures and designs by the most eminent English artists

London・Printed for Thomas Macklin, by Thomas Bensley・1800

THE FIRST BOOK OF MOSES,
CALLED
GENESIS.
CHAPTER I.
THE CREATION OF HEAVEN AND EARTH; SUN, MOON, AND STARS; FISH AND FOWL; BEASTS AND CATTLE; MAN IN THE IMAGE OF GOD.
IN the beginning God created the heaven and the earth.
2 And the earth was without form and void; and darkness was upon the face of the deep. And the Spirit of God moved upon the face of the waters.
3 And God said, Let there be light: and there was light.
4 And God saw the light, that it was good: and God di-

本書は、1800年に出版された、豪華な挿絵入り聖書です。ロンドンの画商であったトマス・マクリーン（Thomas Macklin, 1752/3-1800）の企画で、著名な印刷者であったトマス・ベンズリー（Thomas Bensley, 1760-1833）が印刷しました。18世紀以前に印刷された英語聖書の中で最も大きいことでも有名です。1790年頃に計画が始まり、すぐに富裕層からの予約でいっぱいになりました。ジョシュア・レイノルズ（Joshua Reynolds, 1723-1792）などの18世紀の一流画家によって描かれた絵画をもとに78枚の銅版画が挟みこまれています。この聖書はイギリス王ジョージ3世（George Ⅲ, 1738-1820）に献呈され、予約者名簿には名士、貴族が名を連ねており、この出版がいかに華々しいものであったかをうかがわせます。本書の成功により類似の聖書が数多く出版され、ラファエロやプッサンなどの巨匠による挿絵入り聖書が登場しました。

74 挿絵入り聖書（ハーパー社刊行）

The illuminated Bible

New York・Harper & Brothers・1846

THE
OLD TESTAMENT.
THE FIRST BOOK OF MOSES, CALLED
GENESIS.

CHAPTER I.

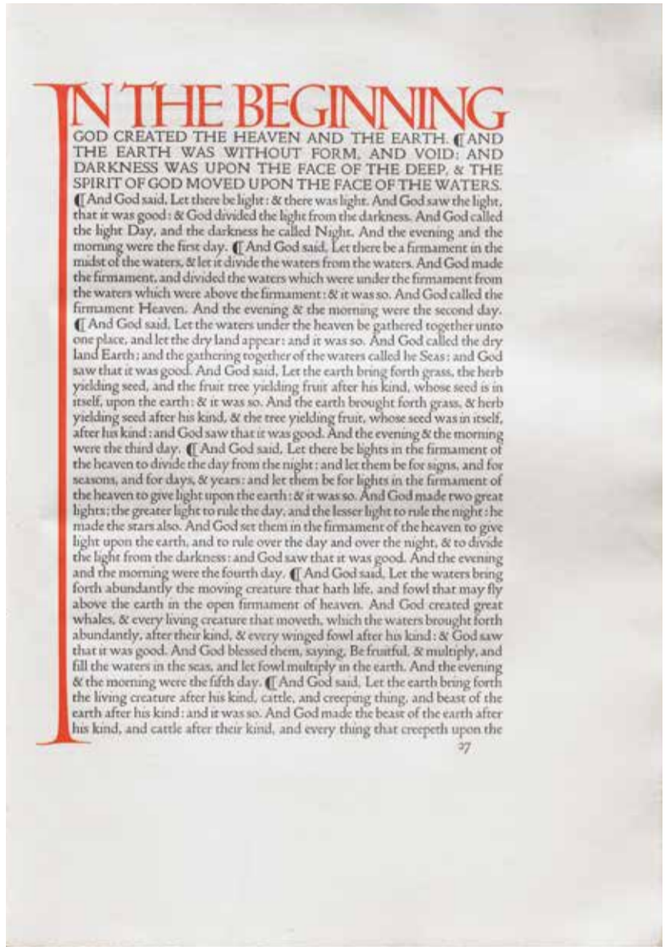
N the beginning God created the heaven and the earth.
2 And the earth was without form, and void; and darkness was upon the face of the deep: and the Spirit of God moved upon the face of the waters.
3 And God said, Let there be light: and there was light.
4 And God saw the light, that it was good: and God divided the light from the darkness.
5 And God called the light Day, and the darkness he called Night: and the evening and the morning were the first day.
6 And God said, Let there be a firmament in the midst of the waters: and let it divide the waters from the waters.
7 And God made the firmament, and divided the waters which were under the firmament from the waters which were above the firmament: and it was so.
8 And God called the firmament Heaven: and the evening and the morning were the second day.
9 And God said, Let the waters under the heaven be gathered together unto one place, and let the dry land appear: and it was so.
10 And God called the dry land Earth; and the gathering together of the waters called he Seas: and God saw that it was good.
11 And God said, Let the earth bring forth grass, the herb yielding seed, and the fruit-tree yielding fruit after his kind, whose seed is in itself, upon the earth: and it was so.
12 And the earth brought forth grass, and herb yielding seed after his kind, and the tree yielding fruit, whose seed was in itself, after his kind: and God saw that it was good.
13 And the evening and the morning were the third day.

本書は、近代以降にアメリカで出版された聖書のうち、革新的な聖書のひとつであるハーパー社刊行の挿絵入り英語聖書です。版画家ジョセフ・アダムズ（Joseph Alexander Adams, 1803-1880）によって企画された本書は、今日も存続しているニューヨークの出版社ハーパー・アンド・ブラザーズ社によって製作されました。本書の特徴のひとつはその挿絵の量にあり、旧新約聖書に外典を合わせて1,600点以上の挿絵が収録されています。また出版形態もユニークで、1843年から、雑誌のように54分冊で逐次出版され、予約購読者は5万人を数えたと言われています。各分冊は25ページから60ページで、値段は1部25セントでした。さらに本書は、後に紙幣印刷に活用されることになる、最新技術であった電気製版術（印刷版を銅に電着させて固体化する技術）によって印刷されたアメリカで最初の出版物でした。この技術によって、印刷速度が飛躍的に向上しました。この事業は成功し、 1846年に本書が完成すると、ハーパー社はさらに25,000部を再版し、さらに1859年と1866年にも版を重ねました。

75 ダヴズ・プレス刊行 英語聖書

The English Bible : containing the Old Testament & the New

Hammersmith・Doves Press・1903-1905


IN THE BEGINNING
GOD CREATED THE HEAVEN AND THE EARTH. ¶ AND THE EARTH WAS WITHOUT FORM, AND VOID: AND DARKNESS WAS UPON THE FACE OF THE DEEP, & THE SPIRIT OF GOD MOVED UPON THE FACE OF THE WATERS.
¶ And God said, Let there be light: & there was light. And God saw the light, that it was good: & God divided the light from the darkness. And God called the light Day, and the darkness he called Night. And the evening and the morning were the first day. ¶ And God said, Let there be a firmament in the midst of the waters, & let it divide the waters from the waters. And God made the firmament, and divided the waters which were under the firmament from the waters which were above the firmament: & it was so. And God called the firmament Heaven. And the evening & the morning were the second day. ¶ And God said, Let the waters under the heaven be gathered together unto one place, and let the dry land appear: and it was so. And God called the dry land Earth; and the gathering together of the waters called he Seas: and God saw that it was good. And God said, Let the earth bring forth grass, the herb yielding seed, and the fruit tree yielding fruit after his kind, whose seed is in itself, upon the earth: & it was so. And the earth brought forth grass, & herb yielding seed after his kind, & the tree yielding fruit, whose seed was in itself, after his kind: and God saw that it was good. And the evening & the morning were the third day. ¶ And God said, Let there be lights in the firmament of the heaven to divide the day from the night: and let them be for signs, and for seasons, and for days, & years: and let them be for lights in the firmament of the heaven to give light upon the earth: & it was so. And God made two great lights: the greater light to rule the day, and the lesser light to rule the night: he made the stars also. And God set them in the firmament of the heaven to give light upon the earth, and to rule over the day and over the night, & to divide the light from the darkness: and God saw that it was good. And the evening and the morning were the fourth day. ¶ And God said, Let the waters bring forth abundantly the moving creature that hath life, and fowl that may fly above the earth in the open firmament of heaven. And God created great whales, & every living creature that moveth, which the waters brought forth abundantly, after their kind, & every winged fowl after his kind: & God saw that it was good. And God blessed them, saying, Be fruitful, & multiply, and fill the waters in the seas, and let fowl multiply in the earth. And the evening & the morning were the fifth day. ¶ And God said, Let the earth bring forth the living creature after his kind, cattle, and creeping thing, and beast of the earth after his kind: and it was so. And God made the beast of the earth after his kind, and cattle after their kind, and every thing that creepeth upon the
27

本書は、19世紀末のイギリスで、最高度の印刷技術による私家版出版を目的としたプライベート・プレスのひとつである、ダヴズ・プレス（Doves Press）から出版された英語聖書です。プライベート・プレスは、19世紀を代表する社会活動家にしてデザイナーであるウィリアム・モリス（William Morris, 1834-1896）の晩年の仕事ケルムスコット・プレスに端を発します。ダヴズ・プレスも、モリスと親しい関係にあった製本家コブデン=サンダーソン（T. J. Cobden-Sanderson, 1840-1922）と、印刷業者エメリー・ウォーカー（Emery Walker, 1851-1933）によって、1900年に設立されました。美しい理想の本づくりを志したダヴズ・プレスでは、 15世紀イタリアのフランス人印刷家ニコラ・ジェンソン（Nicholas Jenson, ca.1420-ca.1480）のローマン活字の影響を受け、現在の私たちから見てもシンプルで均整のとれた美しい活字を作り上げました。

H.S.フォックスウェル文書と日本

関西学院大学 経済学部教授
井上 琢智

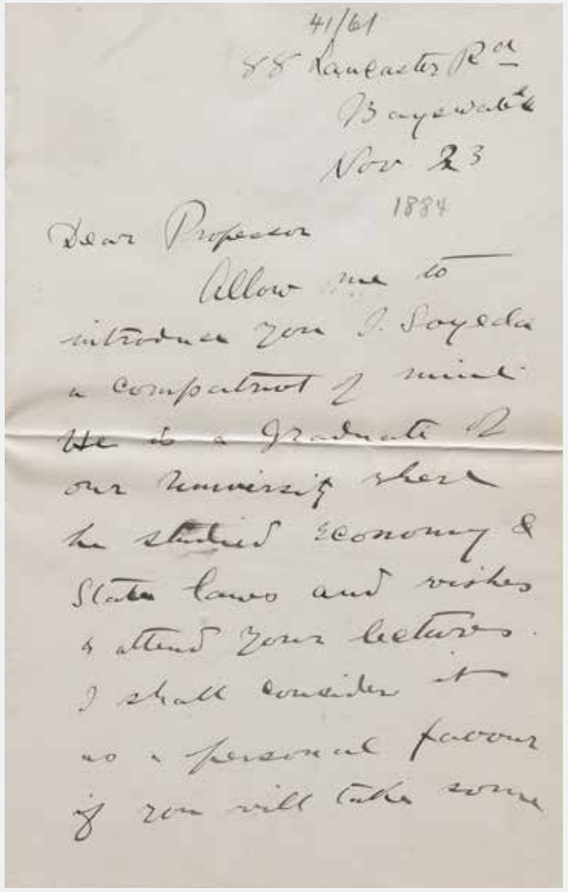
展示にあたって

2014年9月28日、関西学院は創立125周年を迎えました。その記念事業の一環として、本学では「H.S.フォックスウェル文書」を購入しました。この文書は、19世紀末から20世紀初頭に活躍したイギリスの経済学者、ハーバート・サマートン・フォックスウェル(Herbert Somerton Foxwell, 1849-1936)が、数多くの人物と交わした約24,000点の書簡や新聞記事、ノートなどから成るきわめて貴重な私文書コレクションです。これまで多くの経済学者によってその存在は知られていましたが、その全容についてはまったく公開されていなかった史料群で、H.シジウィック、W.S.ジェヴォンズ、ケインズ親子、A.マーシャル、F.Y.エッジワース、L.ワルラス、メンガー兄弟、J.M.クラーク、E.ベーム-バヴェルク、J.A.シュンペーターなど第一級の経済学者の膨大な書簡が含まれる学術的にも重要な史料群です。また、この史料はフォックスウェルの思想や経済学が形成された歴史ばかりでなく、ヴィクトリア時代後期のイギリス社会や知識階級の生活を現代に伝えています。

今回の特別展示では、この文書の中から日本の金融・通貨理論にも影響を与えたH.S.フォックスウェルと、ロンドン大学のユニヴァーシティ・カレッジとケンブリッジ大学のセント・ジョーンズ・カレッジで学び、在英中に『源氏物語』の部分訳をなしとげ、やがて法学博士・文学博士・官僚・政治家となった末松謙澄、東京大学卒業後、フォックスウェルとマーシャルから経済学を学び、イギリスの経済誌『エコノミック・ジャーナル』の日本通信員として日本の現状を世界に伝え、帝国大学のお雇外国人経済学教師の招聘に深くかかわった添田寿一、三井物産の創設者で、商法講習所、東京商業学校、高等商業学校の運営や、同校のお雇外国人経済学教員の招聘に深くかかわった益田孝など、明治期にイギリスへ留学した日本人たちと交わされた書簡、さらにフォックスウェルの弟で、帝国大学・東京帝国大学で経済学と財政学を、高等商業学校で商業経済学を非常勤教員として教え、東京帝国大学教授中島力造とその学生がH.シジウィックの *Methods of Ethics*(1893年版)を『倫理學説批判』として邦訳・出版(1898年)するに際して、翻訳権や肖像写真の入手についてシジウィックとの間で、交渉の労をとったアーネスト・フォックスウェルと交わされた書簡など、当時、近代化を進めていた日本および日本人の有り様を明らかにする史料を展示します。ぜひご覧ください。

Letter 1

1884年11月23日付
末松謙澄のH.S.フォックスウェル宛書簡



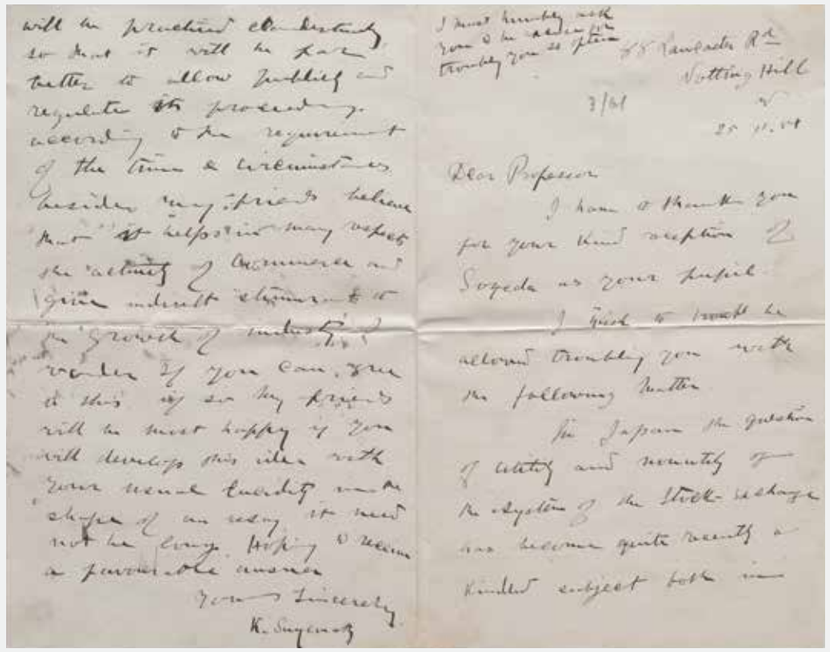
41/61
88 Lancaster Rd
Bayswater
Nov 23
1884

Dear Professor
Allow me to introduce you Y. Soyeda a compatriot of mine. He is a graduate of our University where he studied Economy & State laws and wishes to attend your lectures. I shall consider it as a personal favour if you will take some

添田寿一（1864-1929）は、筑前国遠賀郡に生まれました。1882（明治15）年、東京大学文学部「政治学及理財学科」に入学し、1884（明治17）年7月に卒業しました。大蔵権大書記官で同大学の講師田尻稲次郎の勧めで、阪谷芳郎とともに大蔵省に入省しました。同年9月に、大蔵省から非職の辞令を受け、ケンブリッジ大学経済学教授のH.フォーセットのもとで経済学を修めるつもりで渡英、11月にイギリスに着いた添田は、H.フォーセットの死（11月6日）を知ることになりました。この書簡によれば、当時ケンブリッジ大学のセント・ジョーンズ・カレッジの道徳学講師であったフォックスウェルのもとで経済学を学びたいとの添田の意向を受けた末松謙澄（1855-1920）は、同年5月に法律トライポスに合格していましたが、その可能性についてフォックスウェルに打診したことが分かります。末松謙澄がフォックスウェルと知り合った経緯を具体的に示す証拠は未だ見つかっていませんが、末松は、ケンブリッジ大学入学前にロンドン大学のユニヴァーシティ・カレッジで学んでおり、同大学の経済学教授であったフォックスウェルと知り合った可能性があります。もしくはセント・ジョーンズ・カレッジへの入寮（1883年）後、道徳学講師であったフォックスウェルと知り合った可能性があります。

Letter 2

1884年11月25日付
末松謙澄のH.S.フォックスウェル宛書簡



will be practised accordingly so that it will be far better to allow publicity and regulate the proceedings according to the requirement of the time & circumstances. Consider my friends behalf that the helpfulness may respect the actually of commerce and give indirect stimulus to the growth of industry. I wonder if you can give it this way so my friends will be most happy if you will develop this idea with your usual kindly and the chance of an early it need not be long. Hoping to receive a favourable answer
Yours sincerely
K. Suyeda

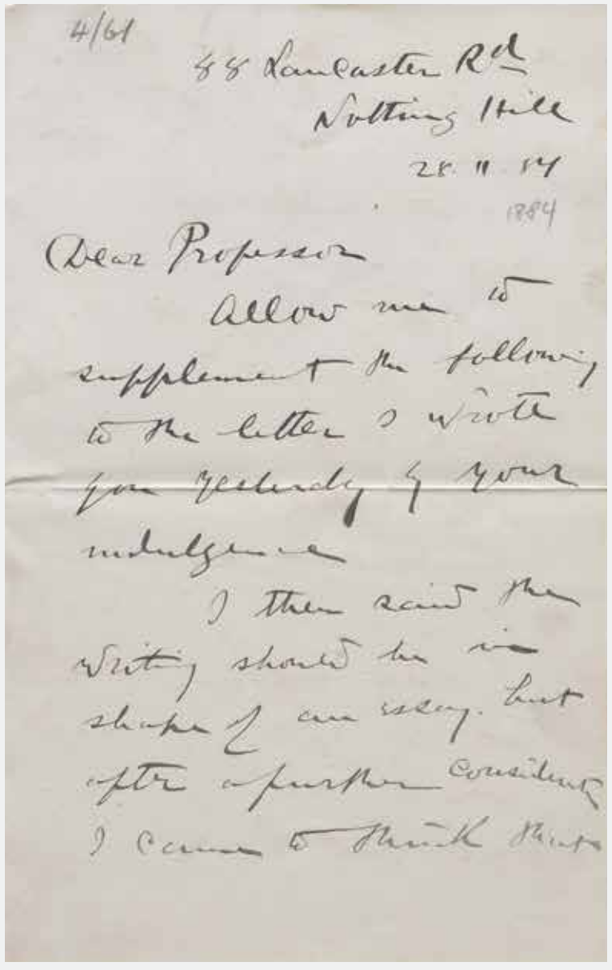
I must humbly ask you to be so kind as to trouble you so please
88 Lancaster Rd
Notting Hill
W
3/61
25 11.84

Dear Professor
I have to thank you for your kind reception of Soyeda as your pupil.
I think it would be allowed troubling you with the following matter
In Japan the question of utility and necessity of the adoption of the stock exchange has become quite recently a kindled subject both in

この書簡で、末松謙澄から添田寿一を紹介する1884年11月23日付書簡（Letter 1）を受け取ったフォックスウェルは、“pupil”として添田を受け入れることを受諾したことが分かります。当時、セント・ジョーンズ・カレッジへの入寮に試験は不要であり、人物や学力を保証する推薦状があれば許可されました。ただ、すでに東京大学を卒業していた添田の場合、「カレッジに所属しない学生（non-collegiate student）」として、大学に登録すればよかったのです。フォックスウェルが添田を「自分の生徒」として引き受け、書簡が示すように末松がフォックスウェルに要請したのが添田への“periodical occasional advice”であることから考えると、当時「コーチ」と呼ばれていた「大学の公的な制度にはまったく関係のない私的な教師」であったと思われます。なお、追伸によれば、1878（明治11）年に制定された株式取引所条例に基づいて東京・大阪で株の取引が始まり、80年代後半以降、株式会社制度の拡大とともに、株取引は多少増加したものの、低調であったことを受けた末松がフォックスウェルにこの株式取引所の問題を相談したことが分かります。この問題についての書簡は、この書簡を含めて7通残されています。

Letter 3

1884年11月28日付
末松謙澄のH.S.フォックスウェル宛書簡


4/61

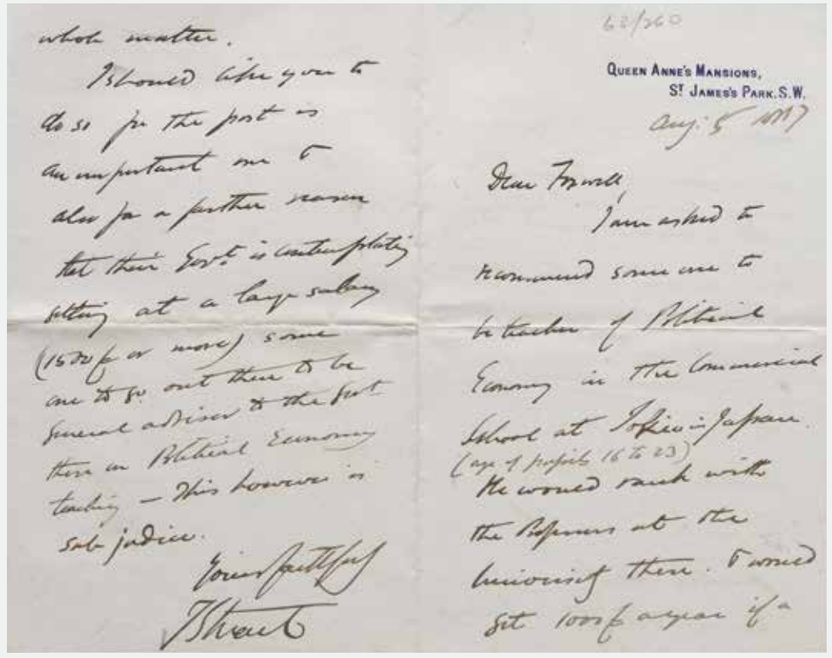
88 Lancaster Rd
Notting Hill
28. 11. 84
1884

Dear Professor
Allow me to
supplement the following
to the letter I wrote
you yesterday by your
indulgence
I then said the
writing should be in
shape of an essay. but
after a further consideration
I came to think that

末松謙澄は、1884年11月25日付のフォックスウェル宛書簡（Letter 2）の追伸で相談した日本の株式取引所に関する問題について、11月27日付書簡（本文書には未所蔵）で論文の形での回答を依頼したと思われます。しかし、この11月28日付書簡によれば、末松はフォックスウェルが株式取引所問題の権威であると考え、回答を論文ではなく、書簡の形でもよく、また、その長さも新聞の社説もしくはそれより短くてもよいと伝えていることが分かります。

Letter 4

1887年8月5日付
ジェームズ・スチュアートのH.S.フォックスウェル宛書簡


whole matter.
I should like you to
do so for the post is
an important one &
also for a further reason
that their Govt. is contemplating
setting at a large salary
(1600 £ or more) some
one to go out there to be
general advisor & the post
there on Political Economy
teaching — This however is
sub judice.
Yours faithfully
J Stuart

62/260
Queen Anne's Mansions,
St James's Park. S.W.
Aug. 5 1887

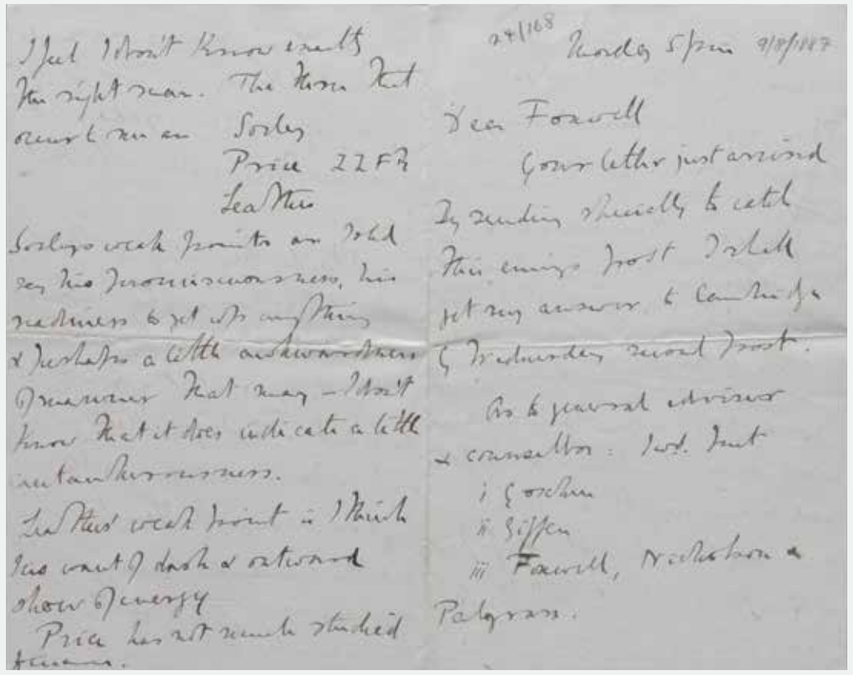
Dear Fowle
I am asked to
recommend some one to
be teacher of Political
Economy in the Commercial
School at Tokio in Japan.
(age of pupils 16 to 23)
He would rank with
the Professors at the
University there. I would
set 1000 £ a year if a

イギリスの教育者で政治家でもあったジェームズ・スチュアート（James Stuart, 1843-1913）から東京商業学校（現在の一橋大学）の経済学教員および政府の経済顧問の推薦をフォックスウェルに依頼する書簡。東京商業学校は、森有礼が創立した私塾商法講習所をその源泉とし、イエール大学を卒業し、ニューアークでビジネス・カレッジを創立・運営していたホイットニー（W.C. Whitney, 1825-82）を1875（明治8）年8月に招聘していました。ただ、森が清国駐箚全権公使に任命され、学校経営から離れざるを得なくなったため、同年11月、その管理が東京会議所（後の東京商法会議所・東京商業会議所・東京商工会議所）に委ねられ、私塾商法講習所から東京府立商法講習所となり、1879（明治12）年商法講習所委員として渋沢栄一、益田孝、福地源一郎を選び規則を制定しました。1884（明治17）年3月、農商務省管轄となり、東京商業学校と改称され、1885（明治18）年5月、文部省直轄となり、1887（明治20）年10月からは高等商業学校と改称されました。

この書簡によれば、生徒の年齢は16歳から23歳で、帝国大学の教授と同待遇であり、年収1,000ポンド（5,000円）、相応しい人物であれば3年間雇用されるといった条件であったことが分かります。ちなみに、1887年に帝国大学法科大学の財政学・理財学教師として雇用されたドイツ人 U.エッゲルトの給与は月額370円（日本1円銀貨）および食料宿料40円（日本紙幣）で、内閣総理大臣の年俸は9,600円でした。

Letter 5

1887年8月9日付
アルフレッド・マーシャルのH.S.フォックスウェル宛書簡

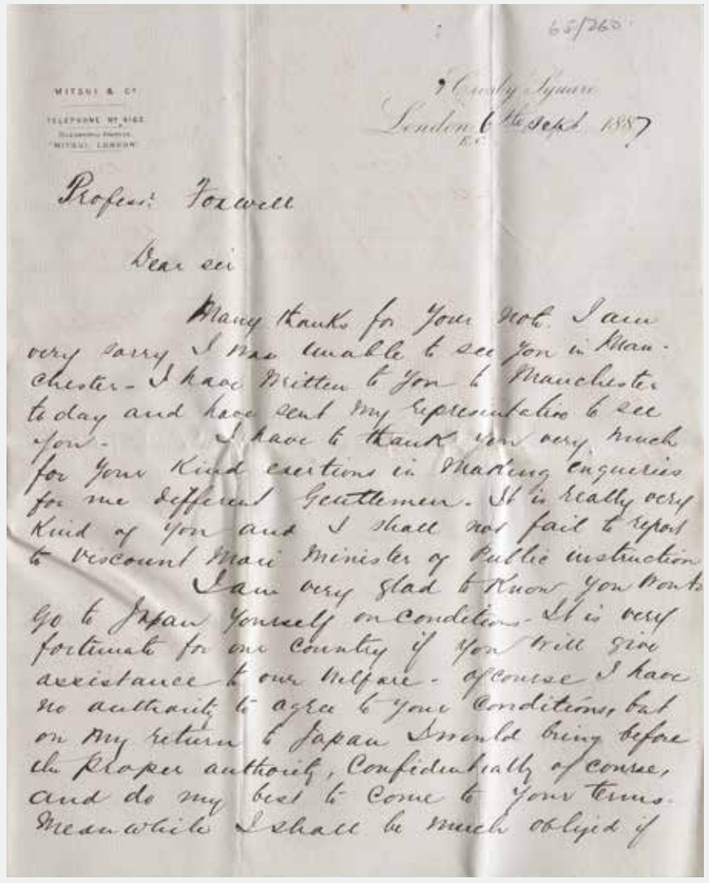


マーシャル（Alfred Marshall, 1842-1924）から、フォックスウェルに日本政府の経済顧問と帝国大学の教師を推薦した書簡。マーシャルが経済顧問の候補として、政治家のG.J.Goschen（1831-1907）、経済・経営ジャーナリストのR.Giffen（1837-1910）、経済学者のFoxwell、政治学者のJ.S.Nicholson（1850-1927）、銀行家のR.H.Palgrave（1827-1919）を、帝国大学の教師の候補として、哲学者のW.R.Sorley（1855-1935）、オックスフォード大学のマーシャルの学生で経済学者のL.L.F.Price（1862-1950）、歴史学者のS.M.Leathers（1861-1938）を挙げ、各候補者の特徴やその来日の可能性について言及しています。これらイギリス人に加えて、マーシャルのもとで学び、ハイデルベルク大学に転学し数ヶ月とどまってのち、1887（明治20）年に帰国していた添田寿一を推薦しています。マーシャルがこの段階ですでに添田を高く評価していたことが分かります。

なお、この書簡はすでにWhitaker, J.K.(ed.) *The Correspondence of Alfred Marshall, Economist,* 3vols., 1996（vol.1, pp.247-48）に収録されています。

Letter 6

1887年9月6日付
益田孝のH.S.フォックスウェル宛書簡

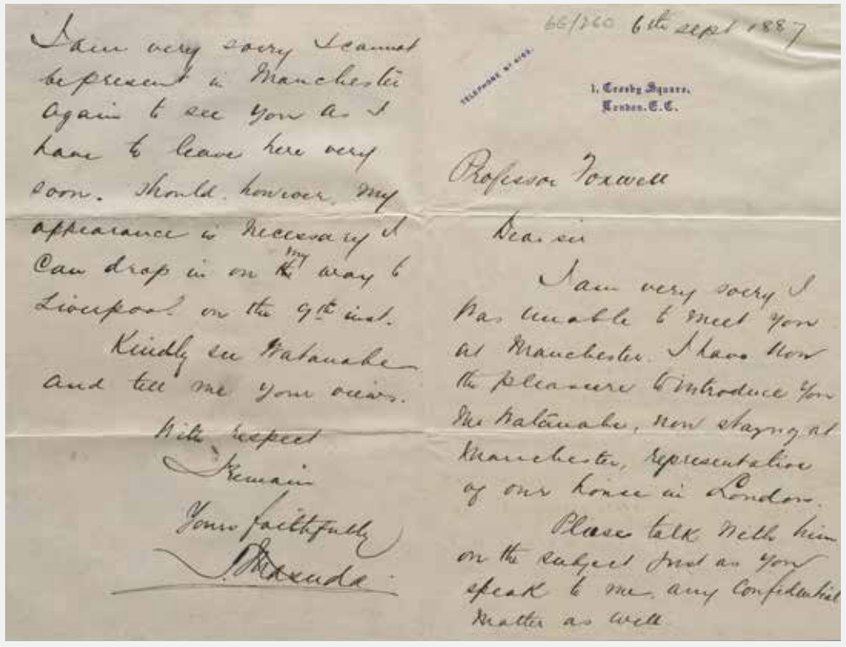


益田孝（1848-1938）がフォックスウェルの来日の可能性に喜び、来日のための政府の雇用条件について打診するものの、自分にその条件を決定する権限がないことを伝え、加えて、東京商業学校の経済学教員候補として、W.カニンガム（William Cunningham, 1849-1919）来日の可能性について打診するよう依頼しています。この書簡によれば、益田はフォックスウェル自身を政府の経済顧問に、また、東京商業学校の経済学教員候補として、当時ケンブリッジ大学の講師でフェローであったカニンガムにも声をかけていたことが分かります。

益田孝は、父の箱館勤務時代に名村八五郎について英語を学びはじめ、外国奉行支配通弁御用出役として勤務した江戸では西吉十郎のもとで英語を学び、さらに通弁御用当分出役として麻布善福寺のアメリカ公使館にも勤務しました。文久3（1863）年、遣欧使節随員の従者として渡欧しました。明治5（1872）年、知遇を得ていた井上馨の勧めで大蔵省に出仕し、2月大蔵省四等出仕、同年4月造幣権頭となりましたが、井上の大蔵大輔辞任に従い辞職しました。1876（明治9）年、請われて三井物産社長に就き、1878（明治11）年、東京商法会議所の創立に際し、渋沢栄一に協力し副会頭となりました。私塾商法講習所が東京府立商法講習所となって以降、渋沢栄一らとともに商業教育の運営と発展に寄与しました。

Letter 7

1887年9月6日付
益田孝のH.S.フォックスウェル宛書簡



66/260 6th sept 1887

TELEPHONE No. 4102.

1, Crosby Square,
London, E.C.

Professor Foxwell

Dear sir

I am very sorry I was unable to meet you at Manchester. I have now the pleasure to introduce you Mr Watanabe, now staying at Manchester, representative of our house in London.

Please talk with him on the subject and as you speak to me, any confidential matter as well

I am very sorry I cannot be present in Manchester again to see you as I have to leave here very soon. Should however, my appearance in necessary I can drop in on my way to Liverpool on the 9th inst.

Kindly see Watanabe and tell me your views.

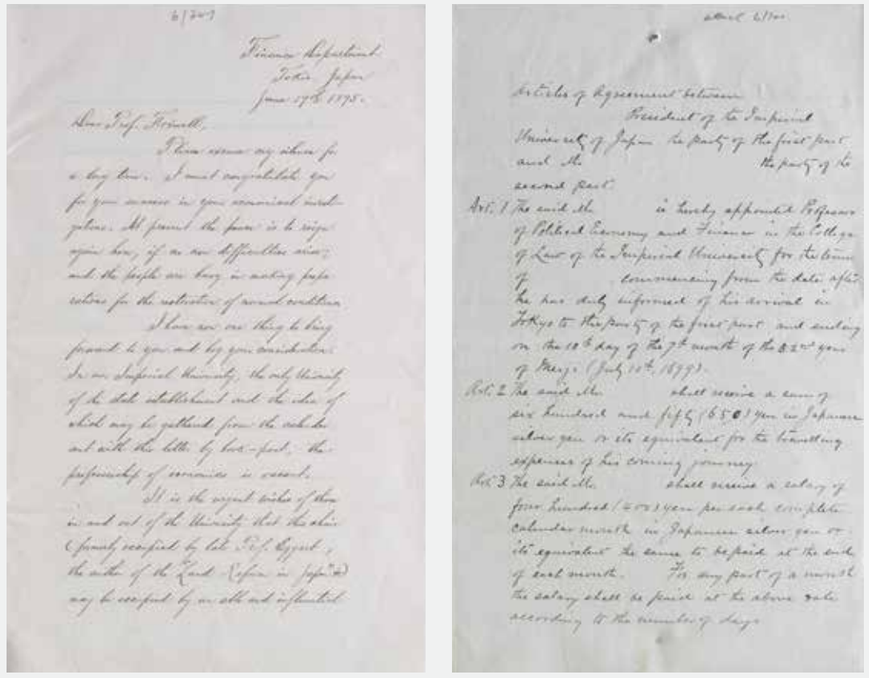
With respect
I remain
Yours faithfully
M. Masuda

MITSUI & CO, 1, CROSBY SQUARE, LONDON と裏面に印刷された封筒に入れられた書簡です。社用のため1887（明治20）年3月4日より欧行の途についた益田孝が、自らが社長を務める三井物産のロンドン支店支配人で、この時マンチェスターに滞在していた渡辺専次郎（1860-1916）を紹介しようとしています。また、この年の8月にマンチェスターで開催されたイギリス科学促進協会（British Association for the Advancement of Science）の年次大会に出席する予定のフォックスウェルに会うつもりでしたが、それを果たせなかったことも詫びています。この封筒には切手が貼られておらず、投函されたことを示す消印がないことから、渡辺に持たせたものかもしれません。この書簡では、益田と話すのと同様に、内密事項についても渡辺に話していただきたいと依頼していることから、いかに益田が渡辺を信頼していたかが分かります。

渡辺は、商法講習所に入学し、同校を卒業後、同校校長の矢野二郎（1845-1906）の紹介で矢野の義弟益田の三井物産に1879（明治12）年7月に入社。1882（明治15）年3月からロンドン支店に勤め、1885（明治18）年8月には副支配人、1886（明治19）年5月から支配人となっていました。

Letter 8

1895年6月19日付
添田寿一のH.S.フォックスウェル宛書簡



6/207

Finance Department
Tokio Japan
June 19th 1895.

Dear Prof. Foxwell,

I have received your letter for a long time. I must congratulate you for your success in your academical work yonder. All present the form is to sign again here, of no new difficulties arise, and the people are busy in making fair copies for the ratification of mutual condition.

I have sent one thing to bring forward to you and by your consideration. In our Imperial University, the only University of the state establishment and the idea of which may be gathered from the said be not with the little of best-fact, the professorship of economics is vacant.

It is the urgent wishes of those in and out of the University that the chair (formally occupied by the Prof. Eggert, the author of the Land Reform in Japan) may be occupied by an able and influential

Articles of Agreement between
President of the Imperial
University of Japan the party of the first part
and Mr the party of the
second part

Art. 1 The said Mr is hereby appointed Professor
of Political Economy and Finance in the College
of Law of the Imperial University for the term
of commencing from the date after
he has duly informed of his arrival in
Tokyo to the party of the first part and ending
on the 10th day of the 7th month of the 32nd year
of Meiji (July 10th, 1899).

Art. 2 The said Mr shall receive a salary of
six hundred and fifty (650) yen in Japanese
silver yen or its equivalent for the travelling
expenses of his coming journey.

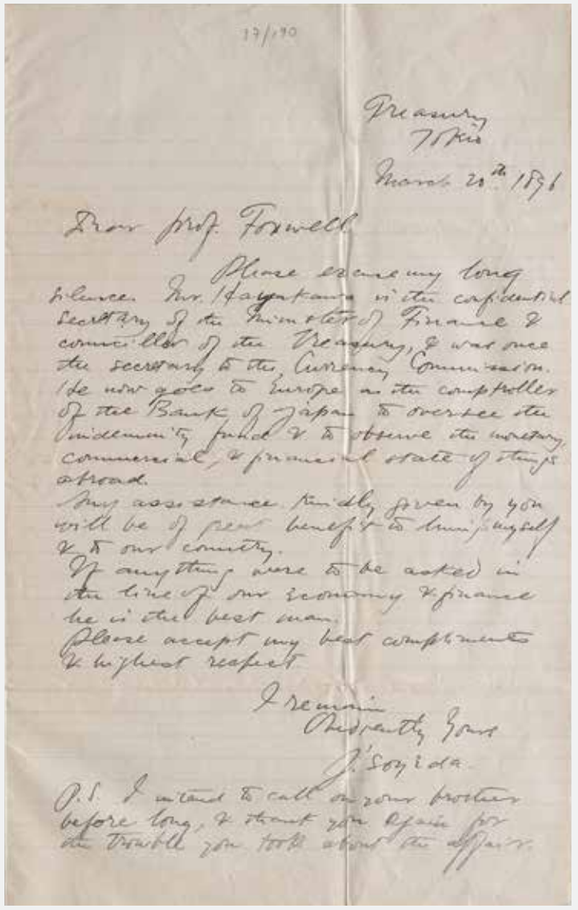
Art. 3 The said Mr shall receive a salary of
four hundred (400) yen per each complete
calendar month in Japanese silver yen or
its equivalent to be paid at the end
of each month. For any part of a month
the salary shall be paid at the above rate
according to the number of days

帝国大学のエッゲルト（Udo Eggert, 1848-93）の後任の経済学教師を推薦してくれるよう、添田寿一からフォックスウェルに依頼した書簡です。この書簡には、帝国大学の教員雇用契約関係書類が添えられています。その契約書は全12項から成っています。雇用者（総長）・被雇用者（お雇外国人）名が書かれ、雇入れ機関、雇入れ時期（1年契約で原則2回更新可能）、給与、授業数などお雇外国人義務等が書かれ、英文と和文との2通が作成されることになっています。契約内容によって給与等の条件は異なるものの、フェノロサ雇用と同様の契約書のモデルに従って交渉されています。

エッゲルトはプロイセン生まれで、ゲッティンゲン大学等で学び、1875年、同大学より財政学博士を取得し、1880年より母校の教員に就任していました。1887（明治20）年に来日し、田尻稲次郎（1886年3月に財政学担当教授に就任し、87年3月まで務めた）の後任として同年3月に帝国大学法科大学教師に就任し、財政学、理財学（経済学）、統計学を講じ、演習も担当しました（-1893年2月）。また、大蔵省顧問をも兼任しました。東京大学・帝国大学の経済学担当のお雇外国人教師は、1878（明治11）年8月フェノロサが政治学と経済学の講師専任となり、1882（明治15）年4月からラートゲン（Karl Rathgen, 1855-1921）が講師専任として統計学、国法学、行政学を1890（明治23）年4月まで担当し、その後、エッゲルトが雇用され、退職後の1893（明治26）年3月1日に鎌倉で死去しました。同年11月にはウェンクステルン（Adolf von Wenckstern, 1862-1914）が雇用され、経済学、財政学、統計学を担当し、1895（明治28）年3月まで務めました。従って、この教員推薦依頼は、エッゲルトが退職し、ウェンクステルンが任期満了前に退職したため、経済学・財政学担当のお雇外国人教師が不在になったことにより行われたものであったことが分かります。

Letter 9

1896年3月20日付
添田寿一のH.S.フォックスウェル宛書簡



17/190

Treasury
Tokio
March 20th 1896

Dear Prof. Foxwell

Please excuse my long silence. Mr. Hayakawa is the confidential secretary of the Minister of Finance & counsellor of the Treasury, & was once the secretary to the Currency Commission. He now goes to Europe as the comptroller of the Bank of Japan to oversee the indemnity funds & to observe the monetary, commercial, & financial state of things abroad.

Any assistance kindly given by you will be of great benefit to him, myself & to our country.

If anything were to be asked in the line of our economy & finance he is the best man.

Please accept my best compliments & highest respect.

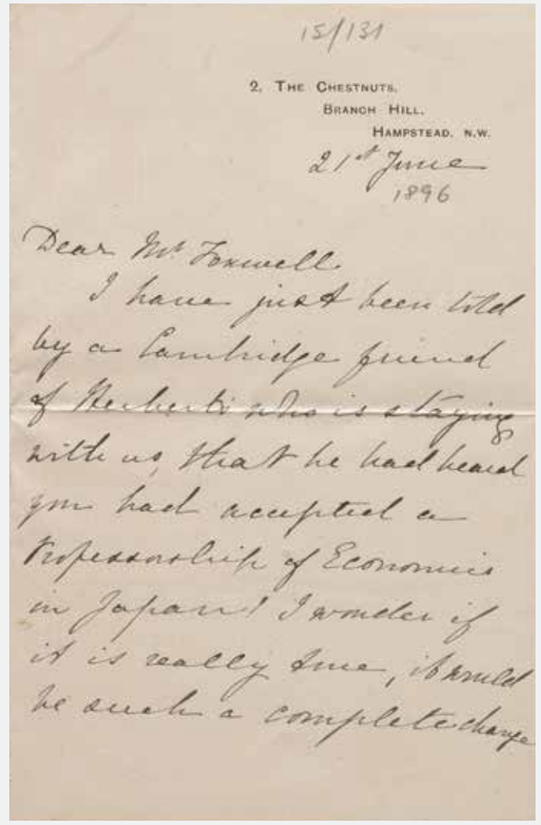
I remain
Sincerely Yours
J. Soyida

P.S. I intend to call on your brother before long, & thank you again for the trouble you took about the affair.

添田寿一が大蔵大臣秘書官である早川千吉郎（1863-1922）をフォックスウェルに紹介しようとする書簡です。早川千吉郎は金沢出身で、1887（明治20）年、帝国大学法科大学政治学科を卒業し、1889（明治22）年、同大学院農政学研究科を修了。翌1890（明治23）年1月、大蔵省入省。官房第一課長時代の1896（明治29）年4月イギリスへ出張し、滞英中の1897（明治30）年8月に大蔵大臣秘書官に就任し、10月に帰国しました。秦郁彦『戦前期日本官僚制の制度・組織・人事』（186頁）によれば、この書簡に書かれている日本銀行監理官（the comptroller of the Bank of Japan）に就任したのは1899（明治32）年9月とされています。また、追伸で、フォックスウェルの弟アーネストが、帝国大学（在任期間：1896年4月～99年7月）で経済学・財政学を講義するために来日（来日日は不明）したが、添田はそのアーネストに「近いうちに会いに行くつもりです」と兄フォックスウェルに伝えています。

Letter 10

1896年6月21日付
H.A.ジェヴォンズのH.S.フォックスウェル宛書簡



15/131

2, The Chestnuts,
Branch Hill,
Hampstead, N.W.
21st June
1896

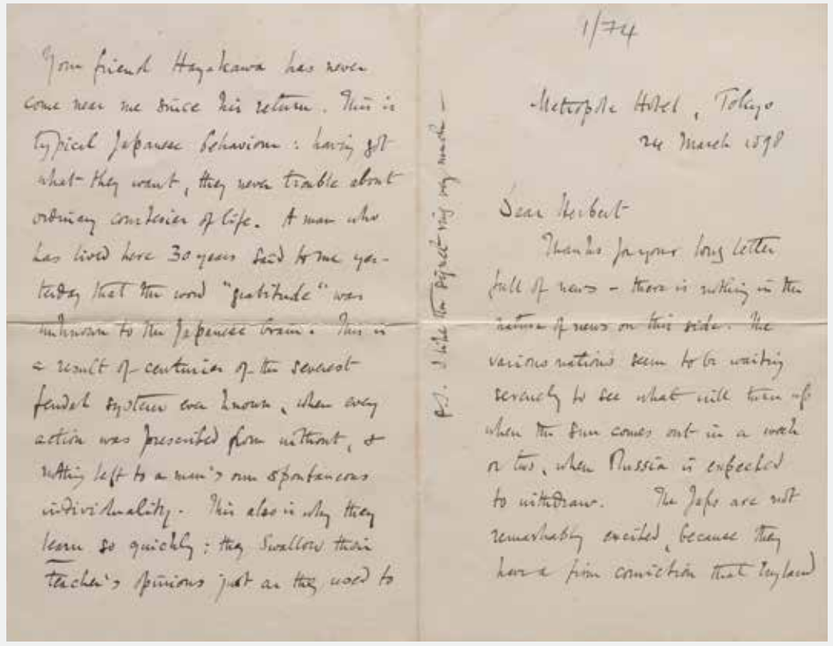
Dear Mr Foxwell,
I have just been told by a Cambridge friend of Herbert who is staying with us that he had heard you had accepted a Professorship of Economics in Japan. I wonder if it is really true, it would be such a complete change

W.S.ジェヴォンズ夫人であるハリエット（Harriet Ann Jevons, 1838-1910）のフォックスウェル宛書簡。1881年5月7日、著述業に専念するために退職したジェヴォンズの後任として、フォックスウェルはロンドン大学のユニヴァーシティ・カレッジ教授に就任し（-1922年）、同時に、統計学のニューマーチ講座の職にも就きました。1882年8月13日にジェヴォンズが水難事故で死去したため、フォックスウェルがジェヴォンズの論文集『通貨および金融の研究』の編集を担い、その序文を書いて、1884年に出版しました。他方、ジェヴォンズ夫人から依頼されていた遺稿集『経済学原理』の編集を始めたものの完成できず、ヒッグス（Henry Higgs,1864-1940）に委ねられ、やっと1905年に出版されました。

この書簡からは、フォックスウェルが日本の大学教員に就任するとの噂を聞いたジェヴォンズ夫人の「驚き」が伝わってきます。おそらく依頼した遺稿集編集の仕事がさらに遅延することへの心配からであったと思われます。このような事情について、ケインズは次のように述べています。「ジェヴォンズ夫人は不快の念を隠さなかったが、この書物は長い間、校正刷りのままで、ついに［フォックスウェルによっては］完成しなかった、フォックスウェルの予定された序文を待っていた。. . .『クォータリー・ジャーナル・オブ・エコノミックス』1887年10月号の『覚え書きおよび記録』の中に、それは印刷中で、その冬出版予定と発表されていたのである！」（『人物評伝』366頁）。この噂は、H.S.フォックスウェルの弟アーネストの帝国大学の教員就任と間違ってのものと考えられます。もっとも、Letter 6に書かれているようにH.S.フォックスウェルの来日の可能性がまったくなかった訳ではありません。

Letter 11

1898年3月24日付
アーネスト・フォックスウェルのH.S.フォックスウェル宛書簡



1/74

Metropole Hotel, Tokyo
24 March 1898

Dear Herbert

Thanks for your long letter full of news – there is nothing in the nature of news on this side. The various nations seem to be waiting seriously to see what will turn up when the Firm comes out in a week or two, when Russia is expected to withdraw. The Japs are not remarkably excited, because they have firm conviction that England

P.S. I like the Pipe-rest very much!

Your friend Hayakawa has never come near me since his return. This is typical Japanese behaviour: having got what they want, they never trouble about ordinary courtesies of life. A man who has lived here 30 years said to me yesterday that the word "gratitude" was unknown to the Japanese brain. This is a result of centuries of the severest feudal system ever known, when every action was prescribed from without, & nothing left to a man's own spontaneous individuality. This also is why they learn so quickly: they swallow their teacher's opinions just as they used to

フォックスウェルの弟であるエドワード・アーネスト・フォックスウェル（Edward Ernest Foxwell, 1851-1922）が兄のH.S.フォックスウェルに宛てた書簡です。発信地は当時滞在していた築地のThe Hotel Metropole（正式名）となっています。

アーネストは、医学を学んだ後、マーシャル、フォックスウェル、加えて多くの日本人が留学したケンブリッジ大学のセント・ジョーンズ・カレッジに入学し、1874年に道徳学トライポスに合格、1875年にはケンブリッジ大学でB.A.を取得。後に鉄道研究の権威となりました。お雇外国人として来日したアーネストは、帝国大学・東京帝国大学(1896年4月-99年7月)で経済学・財政学を担当し、東京高等商業学校(1897年6月1日-98年7月31日)では商業経済学を非常勤講師として講義しました。滞在中は、同時期に大学で英文学などを教えていたラフカディオ・ハーンと親しくなったり、日本の版画に関心をもち、後にその権威ともなりました。

以下はアーネストの高等商業学校への雇用記録です。

庶第一四〇号

貴学傭英国人エルネスト、フオックスウエルニ本[明治30]年六月一日ヨリ明治三十一年七月三十一日マテ貴学授業ノ余暇ニ於テ一週三時宛本校商業経済学授業担任セシムル為メ相傭度、右ハ貴学ニ於テ御差支無之候哉、此段及御照会候也

明治三十年五月十八日

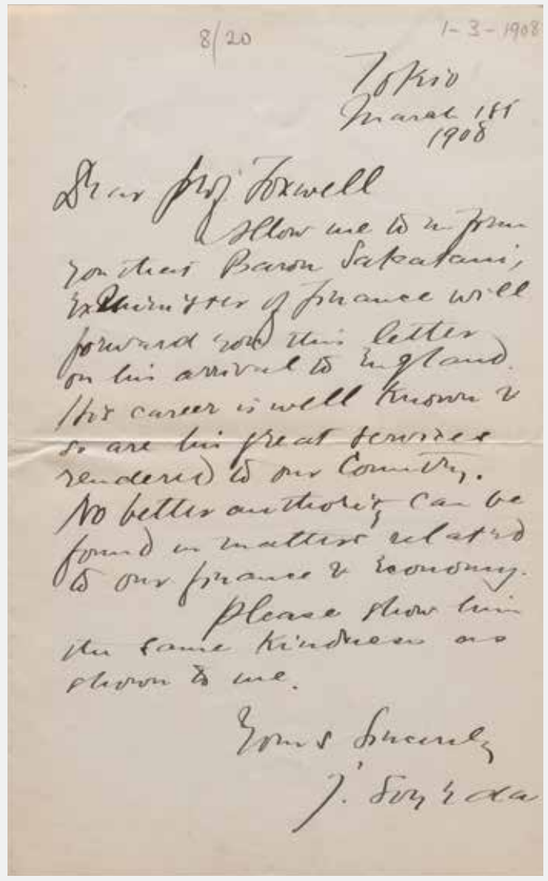
高等商業学校長　小山健三［印］

帝国大学総長　浜尾　新殿

【出典】「御雇外国人教師関係書類」古文書複製社、マイクロフィルムリール8巻、第4リール、東京大学附属総合図書館［1971年マイクロ撮影・焼付終了］

Letter 12

1908年3月1日付
添田寿一のH.S.フォックスウェル宛書簡



8/20

1-3-1908

Tokio
March 1st
1908

Dear Sir Foxwell

Allow me to introduce Baron Sakatani, Ex-Minister of Finance who will forward with this letter on his arrival to England. His career is well known & so are his great services rendered to our Country. No better authority can be found in matters related to our finance & economy.

Please show him the same kindness as shown to me.

Yours sincerely
J. Sutedani

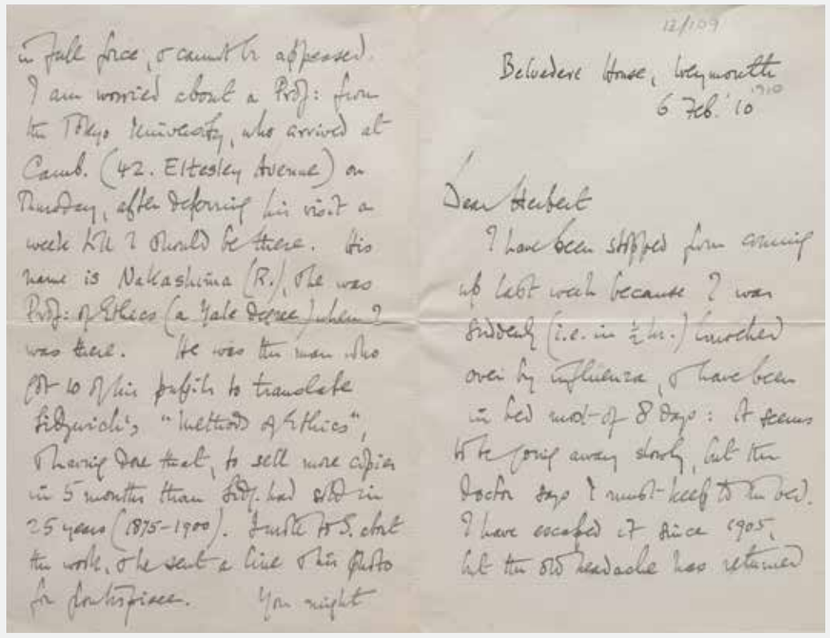
添田寿一が、東京大学時代の同級生で、渋沢栄一の娘婿であった前大蔵大臣、阪谷芳郎（1863-1941）をフォックスウェルに紹介する書簡です。

阪谷は、備中国後月郡西江原村(現岡山県井原市)に生まれ、箕作秋坪の三叉学舎に入学しました。同校の出身者には、平沼淑郎、東郷平八郎、鎌田栄吉らがいます。阪谷は1876(明治9)年、東京英語学校に入学。前年の生徒名簿には平沼淑郎、金井延、添田寿一、穂積八束、石川千代松、田中館愛橘、内村鑑三、高田早苗らの名前があります。1880(明治13)年7月、東京大学文学部に入学、1884(明治17)年、文学部「政治学及理財学科」を卒業しました。同年7月、添田とともに大蔵省に入省し、西園寺内閣の大蔵大臣、東京市長などを歴任しました。

この書簡の直前の1908(明治41)年1月に大蔵大臣辞任、4月15日に外遊に出発し、アメリカを経て6月2日にリィヴァプールに着き、アスキス首相、グレー外相、ロイド・ジョージら政府要人に会っています。また、造幣局等で活躍し、日本に複式簿記を導入し、統一簿記制度を確立させるなどの貢献をした後、イギリスに帰国し、日露戦争時の外債募集に協力していたアレクサンダー・アラン・シャンド(Alexander Allan Shand, 1844-1930：在日1863-1873)とも会っています。このシャンドが創設に協力した大蔵省所属銀行事務講習所は、1886(明治19)年5月から文部省所轄の東京商業学校の銀行専修科となりました。

Letter 13

1910年2月6日付
アーネスト・フォックスウェルのH.S.フォックスウェル宛書簡



12/109

Belvedere House, Weymouth
6 Feb. '10 1910

Dear Herbert

I have been stopped from coming up last week because I was suddenly (i.e. in ½ h.) knocked over by influenza, & have been in bed most of 8 days: it seems to be going away slowly, but the doctor says I must keep to the bed. I have escaped it since 1905, but the old headache has returned in full force, & cannot be appeased. I am worried about a Prof: from the Tokyo University, who arrived at Camb. (42. Eltesley Avenue) on Thursday, after deferring his visit a week till I should be there. His name is Nakashima (R.), & he was Prof: of Ethics (a Yale degree) when I was there. He was the man who got to his pupils to translate Sidgwick's "Method of Ethics", having done that, to sell more copies in 5 months than Sidg. had sold in 25 years (1875–1900). Talk to H.S. about the work, & he sent a line & his photo for frontispiece. You might

アーネストが兄フォックスウェルに宛てた書簡で、インフルエンザに罹患して8日間も臥せっており、頭痛はまだ緩和されないと伝えています。また、この書簡の中でアーネストはヘンリー・シジウィック（Henry Sidgwick, 1838-1900）の*Methods of Ethics*を邦訳した中島力造（1858-1918）について書いています。

1898（明治31）年12月25日に中島力造閲、山邊知春・太田秀穂共譯『倫理學説批判』（大日本図書）が出版されました。これは*Methods of Ethics*（5th ed.,1893）の翻訳で、「本書の翻訳するに当たり、東京帝国大学法科大学教師［アーネスト・］フヲックスウエル先生により遠く原著者に翻訳の許可と序文と肖像とを請ひたるに、原著書（ママ）の歓諾を得たり。予輩は謹んで原著書（ママ）に謝意を表し併せてフヲックスウエル先生に謝するものなり」と書かれており、アーネストが同書の翻訳の許可などについて中島とH.シジウィックとの間を仲介していたことが分かります。

中島は、J.S.ミル、H.スペンサー流の功利主義的思想が優位を占めていたこの時期、T.グリーンの新理想主義倫理学を紹介し、思想界に転換をもたらしました。中島は丹波国福知山に生まれ、同志社英学校最初の学生の一人であり、同志社専科で学んだ後、1880（明治13）年に渡米し、1884（明治17）年ウェストルン・レゾルフ大学を卒業、1887（明治20）年にイエール大学から神学博士号を、1889（明治22）年に哲学博士号を授与され、1892（明治25）年に帝国大学教授となりました。主要な著書として『輓近の倫理學書』（1896）、『現今の哲學問題』（1900）などがあります。

「印刷技術と聖書」

展示番号	資料名 . 出版地・出版者・出版年【所蔵】
1.	*Biblia Latina, 42 lines (Gutenberg Bible).* Mainz・Johann Gutenberg and Peter Schöffer・1455?
2.	*Bible. O.T. Ezechiel.* East Anglia, England・1345?【慶應義塾図書館所蔵】
3.	*Biblia Latina, 42 lines (Gutenberg Bible).* München・Idion Verlag・1977-1978
4.	*Bible. O.T. Genesis.* 9–【慶應義塾図書館所蔵】
5.	*Psalterium cum canticis et hymnis.* Mainz・Johann Fust & Peter Schöffer・1457【慶應義塾図書館所蔵】
6.	*Biblia cum postillis Hugonis de Sancto Charo.* Basel・Johann Amerbach, for Anton Koberger・1498
7.	*An den Christlichen Adel deutscher Nation von des Christlichen Standes Besserung.* Leipssgk・Wolffgang Stöckel・1520
8.	*Von den guten Werckenn.* Wittenberg・Melchior Lotther・1520?
9.	*Determinatio theologicae facultatis Parisien super doctrina Lutheriana hactenus per eam visa, Apologia pro Luthero adversus decretu[m] Parisiensium.* Wittembergae・1521
10.	*Deutsch Auszlegu[n]g des sieben un[d] sechtzigste[n] Psalme[n] : vo[n] dem Ostertag, Hymelfart und Pfingsten.* 1521?
11.	*Das diese Wort Christi (Das ist mein Leib etce) noch fest stehen widder die Schwermgeister.* Wittemberg・Michael Lotther・1527
12.	*Vom Abendtmal Christi, Bekendtnis.* 1528
13.	*Von den Schlüsseln.* Wittemberg・1530
14.	*Das XXXVIII und XXXIX Capitel Hesechiel vom Gog.* Wittemberg・Nickel Schirlentz・1530
15.	*Die Luther-Bibel von 1534 : Vollständiger Nachdruck.* Köln・Taschen・2003
16.	*Confessio odder Bekantnus des Glaubens etlicher Fürsten und Städte : Uberantwort Keiserlicher Majestat zu Augsburg, Anno MDXXX . Apologia der Confession.* Wittemberg・Georgen Rhaw・1531
17.	*Ecclesiastica historia, integram ecclesiae Christi ideam, ... per aliquot studiosos & pios viros in urbe Magdeburgica ...* Basileae・Ioannem Oporinum・1554?-1574
18.	*Biblia : det er, Den gantske Hellige Scrifft, paa Danske igien offuerseet oc prentet effter vor allernaadigste Herris oc Kongis K. Christian den IV ...* Kiøbenhaffn・1633
19.	*Wycliffe Bible, in English.* England・ca.1400-1430【慶應義塾図書館所蔵】
20.	*The New Testament 1526.* London・D. Paradine Developments・1976
21.	*The Byble : that is to saye, all the Holye Scripture.* London・Nicolas Hyll・1551
22.	*The Holy Byble, conteining the Olde Testament and the Newe.* London・Christopher Barker・1585
23.	*The Bible : translated according to the Ebrew and Greeke, ...* London・Robert Barker・1600
24.	*The Holy Bible, conteyning the Old Testament, and the New.* London・Robert Barker・1611

展示番号	資料名 . 出版地・出版者・出版年【所蔵】
25.	*The book of common-prayer, and administration of the sacraments, and other rites and ceremonies of the church, according to the use of the Church of England.* London・John Bill, and Christopher Barker・1662
26.	*The Holie Bible : Doway, 1609, 1610.* 京都・臨川書店・1990
27.	*Hymns and sacred poems.* London・William Strahan・1739
28.	*Hymns and sacred poems.* Bristol・Felix Farley・1749
29.	*Explanatory notes upon the New Testament.* New York・Phillips & Hunt・18–
30.	*A sermon on salvation by faith.* 15th ed. London・Printed for G. Whitfield・1798
31.	*A sermon on the death of the Rev. Mr. George Whitefield, ...* London・J. and W. Oliver・1770
32.	*The doctrine of original sin : according to scripture, reason, and experience.* Bristol・E. Farley・1757
33.	*A dialogue between a predestinarian and his friend.* 2nd ed. corrected and enlarged. London・W. Strahan・1741
34.	*The Christian's pattern, or, A treatise of the Imitation of Christ.* London・Printed for C. Rivington・1735
35.	*A Christian Library,* v. 22. Bristol・Felix Farley・1753
36.	*The Sunday service of the Methodists in North America.* London・1784
37.	*An extract of the Revd. Mr. John Wesley's journal.* Bristol・Felix Farley...・1749-1754
38.	*Thoughts upon slavery.* London・R. Hawes・1774
39.	*A word to a drunkard.* 17–
40.	*Primitive physic, or, An easy and natural method of curing most diseases.* 20th ed. London・J. Paramore・1781?
41.	約翰福音之傳(復刻版). 東京・新教出版社・1976
42.	使徒行傳. ウィーン・アドルフ・ホルツハウゼン・1874?
43.	馬可傳福音書. 横濱・米國聖書會社・1872
44.	約翰傳福音書. 横濱・米國聖書會社・1872
45.	訓點舊約聖書創世記:完. 横濱・米國聖書會社・1881
46.	訓點舊約聖書民數紀略:完. 横濱・北英國聖書會社・1882
47.	引照新約全書. 横濱・北英國聖書會社・1880
48.	*Chikoro utarapa ne Yesu Kiristo ashiri aeuitaknup oma kambi.* 東京・日本聖書協会・1981
49.	耶穌教要理問答. 上海・美華書館・1866
50.	聖玫瑰花冠記録. 1869?
51.	闢邪小言. 江戸・思誠塾・1857
52.	辨斥魔教論. 神戸・船井弘文堂・1886
53.	新約聖書:改譯(大正訳聖書). 横濱・米國聖書會社・1920
54.	*Novum instrumentu[m] omne, diligenter ab Erasmo Roterodamo recognitum & emendatum, no[n] solum ad græcam veritatem, ...* Basileae・Ioannis Frobenij・1516
55.	*Novum Testamentum omne, multo quam antehac diligentius ab Erasmo Roterodamo recognitu[m], eme[n]datum ac translatum, ...* Basileae・Ioannem Frobenium・1519
56.	*Biblia Sacra Polyglotta.* Londini・Thomas Roycroft・1657
57.	*A fragment from the Dead Sea Scrolls : 11 Qpaleolev, Fragment L.*
58.	*Codex Sinaiticus.* Peabody, Massachusetts・Hendrickson・2010

展示番号	資料名 . 出版地・出版者・出版年【所蔵】
59.	新約本文批評. 東京・新教出版社・1962
60.	新約本文のパピルス. 大阪・大阪キリスト教書店・1994-2010
61.	*Novum Testamentum Graece : begründet von Eberhard und Erwin Nestle.* 28. revidierte Aufl. Stuttgart・Deutsche Bibelgesellschaft・2012
62.	松木治三郎著作集 第1巻. 東京・新教出版社・1991
63.	*The Leningrad Codex : a facsimile edition.* Grand Rapids, Michigan ・ W.B.Eerdmans ・ 1998
64.	*Biblia Hebraica Stuttgartensia.* editio secunda emendata. Stuttgart・Deutsche Bibelstiftung・1984
65.	*Biblia Hebraica quinta editione, fasc.5.* Stuttgart・Deutsche Bibelgesellschaft・2007
66.	ヨブ記註解. 東京・日本基督教団出版部・1954
67.	城崎進「旧約釈義 創世記１」(『聖書雑誌』1966年4月号). 東京・日本基督教団出版部・1966
68.	*Missale ad vsum Lugdunen[se].* Lyons・Petrus Ungarus・1500 【慶應義塾図書館所蔵】
69.	*Paulo III Pont. Max. Pontificale Romanum in quo (ultraque in aliis pontificalibus hactenus impressis habent[ur]) nup[er] addita sunt.* Venetiis・Apud Iuntas・1543 【慶應義塾図書館所蔵】
70.	*Horae Beatae Virginis Mariae, cum calendario.* 14--
71.	*Horae B[eatae] M[ariae] V[irginis] : use of Rome.* Paris・Gille Couteau for Guillaume Eustace・1513
72.	*Biblia : ad vetustissima exemplaria nunc recèns castigata.* Venetiis・Nicolai Beuilaquæ・1576
73.	*The Old Testament, embellished with engravings, from pictures and designs by the most eminent English artists.* London・Printed for Thomas Macklin, by Thomas Bensley・1800
74.	*The illuminated Bible.* New York・Harper & Brothers・1846
75.	*The English Bible : containing the Old Testament & the New.* Hammersmith・Doves Press・1903-1905

「H.S.フォックスウェル文書と日本」

展示番号	資料名
Letter 1.	1884年11月23日付末松謙澄のH.S.フォックスウェル宛書簡
Letter 2.	1884年11月25日付末松謙澄のH.S.フォックスウェル宛書簡
Letter 3.	1884年11月28日付末松謙澄のH.S.フォックスウェル宛書簡
Letter 4.	1887年8月5日付ジェームズ・スチュアートのH.S.フォックスウェル宛書簡
Letter 5.	1887年8月9日付アルフレッド・マーシャルのH.S.フォックスウェル宛書簡
Letter 6.	1887年9月6日付益田孝のH.S.フォックスウェル宛書簡
Letter 7.	1887年9月6日付益田孝のH.S.フォックスウェル宛書簡
Letter 8.	1895年6月19日付添田寿一のH.S.フォックスウェル宛書簡
Letter 9.	1896年3月20日付添田寿一のH.S.フォックスウェル宛書簡
Letter 10.	1896年6月21日付H.A.ジェヴォンズのH.S.フォックスウェル宛書簡
Letter 11.	1898年3月24日付アーネスト・フォックスウェルのH.S.フォックスウェル宛書簡
Letter 12.	1908年3月1日付添田寿一のH.S.フォックスウェル宛書簡
Letter 13.	1910年2月6日付アーネスト・フォックスウェルのH.S.フォックスウェル宛書簡

参考文献リスト

「印刷技術と聖書」

1. ピエール・ジベール著『聖書入門』(「知の再発見」双書) 創元社, 2000
2. クリストファー・ド・ハメル著『聖書の歴史図鑑：書物としての聖書の歴史』東洋書林, 2004
3. 『義塾図書館を読む：和・漢・洋の貴重書から：第20回慶應義塾図書館貴重書展示会』慶應義塾図書館, 2007
4. マーティン・ライアンズ著『本の歴史文化図鑑：ビジュアル版：5000年の書物の力』柊風舎, 2012
5. キリスト降誕2000年「東京大聖書展」実行委員会出版委員会編『死海写本と聖書の世界：キリスト降誕2000年「東京大聖書展」公式展示品カタログ』キリスト降誕2000年「東京大聖書展」実行委員会, 2000
6. 松田隆美著『ヴィジュアル・リーディング：西洋中世におけるテクストとパラテクスト』ありな書房, 2010
7. 富田修二著『グーテンベルク聖書の行方』図書出版社, 1992
8. 富田修二著『さまよえるグーテンベルク聖書』慶應義塾大学出版会, 2002
9. 小牧治、泉谷周三郎著『ルター』(Century books) 清水書院, 1970
10. 永嶋大典著『英訳聖書の歴史』研究社出版, 1988
11. ベンソン・ボブリック著『聖書英訳物語』柏書房, 2003
12. 小嶋潤著『イギリス教会史』刀水書房, 1988
13. ジョン・テルフォード著『ジョン・ウェスレーの生涯』ヨルダン社, 1988
14. 山内一郎著『メソジズムの源流：ウェスレー生誕三〇〇年を記念して』キリスト新聞社, 2003
15. 海老澤有道著『日本の聖書：聖書和訳の歴史』(講談社学術文庫) 講談社, 1989
16. 鈴木範久著『聖書の日本語：翻訳の歴史』岩波書店, 2006

「H.S.フォックスウェル文書と日本」

1. 酒井龍男編『一橋五十年史』東京商科大学一橋會, 1925
2. ユネスコ東アジア文化研究センター編『資料御雇外国人』小学館, 1975
3. 東京大学経済学部編『東京大学経済学部五十年史』東京大学経済学部, 1976
4. 秦郁彦著『戦前期日本官僚制の制度・組織・人事』東京大学出版会, 1981
5. 小山騰著『破天荒「明治留学生」列伝：大英帝国に学んだ人々』(講談社選書メチエ) 講談社, 1999
6. 経済学史学会編『経済思想史辞典』丸善, 2000
7. 臼井勝美［ほか］編『日本近現代人名辞典』吉川弘文館, 2001
8. 井上琢智著『黎明期日本の経済思想：イギリス留学生・お雇い外国人・経済学の制度化』(関西学院大学経済学研究叢書) 日本評論社, 2006
9. Faning, James Frederick Edmund, ed. *The book of matriculations and degrees : a catalogue of those who have been matriculated or admitted to any degree in the University of Cambridge from 1851 to 1900.* Cambridge University Press, 1902

関西学院創立125周年記念 大学図書館特別展示会
印刷技術と聖書
～「読む」キリスト教への変容～
同時開催：H.S.フォックスウェル文書と日本

2014年9月26日発行

執筆・監修
関西学院大学神学部教授　　水野 隆一
関西学院大学経済学部教授　井上 琢智

撮影
関西学院大学博物館教育技術主事　深井 純

協力
慶應義塾図書館

編集・発行
関西学院大学図書館
〒662-8501　兵庫県西宮市上ケ原一番町 1-155
Tel. 0798-54-6122

ISBN：9784990747626

KWANSEI GAKUIN